

神河町
男女共同参画に関する住民意識調査
〔結果報告書〕

平成 27 年 12 月

神 河 町

目 次

1. 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査設計等	1
3 報告書の見方	1
2. 調査結果	2
1 回答者ご自身のことについておたずねします。	2
2 男女平等・性別による役割分担についておたずねします。	9
3 社会活動、地域活動についておたずねします。	26
4 就労・働き方についておたずねします。	38
5 セクハラ・配偶者等からの暴力についておたずねします。	51
6 男女共同参画に関する町の施策についておたずねします。	62

1. 調査の概要

1 調査の目的

神河町は、男女がともに輝ける「男女共同参画社会」の実現をめざし、本年度「神河町男女共同参画推進計画」の策定に取り組んでいます。

このたび、男女共同参画に関する住民の皆様の考えや意見をお聞かせいただき、今後の施策の参考にさせていただくため、本調査を実施しました。

2 調査設計等

- ・調査地域：神河町全域
- ・調査対象者：満 20 歳以上の住民 1,000 人を対象に無作為抽出
- ・調査期間：平成 27 年 10 月 26 日～11 月 9 日
- ・調査方法：郵送配布・郵送回収による郵送調査法
- ・回収状況：配布数 1,000 件（郵送到達 997 通、郵送不達 3 通）
有効回収数 525 件（有効回答率 52.7%）

3 報告書の見方

◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。

◇複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。

◇図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。

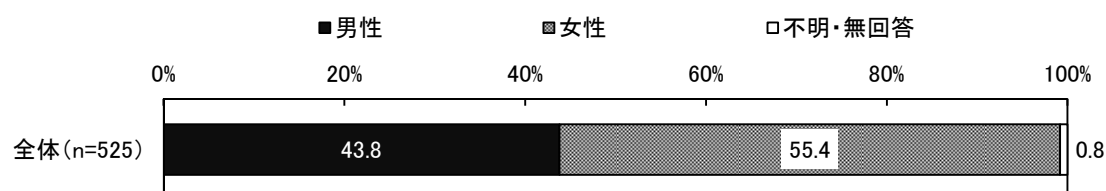
◇グラフ及び表の「n 数（number of case）」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。

2. 調査結果

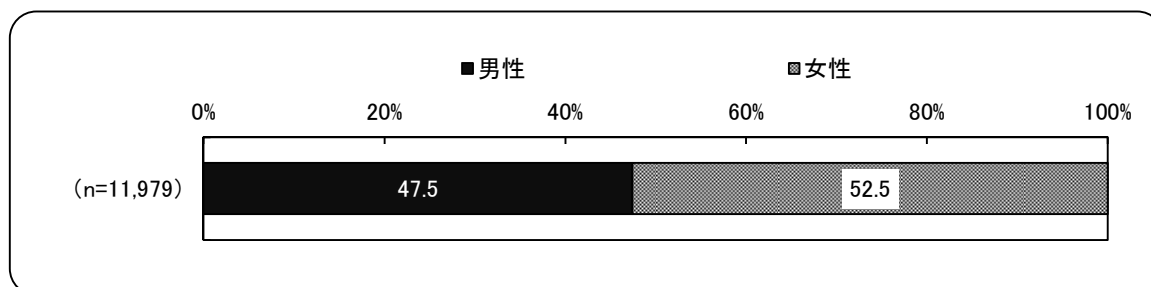
1 回答者ご自身のことについておたずねします。

問1 あなたの性別は。(〇は1つ)

性別についてみると、男性が43.8%、女性が55.4%となっています。



◆参考データ（神河町人口）



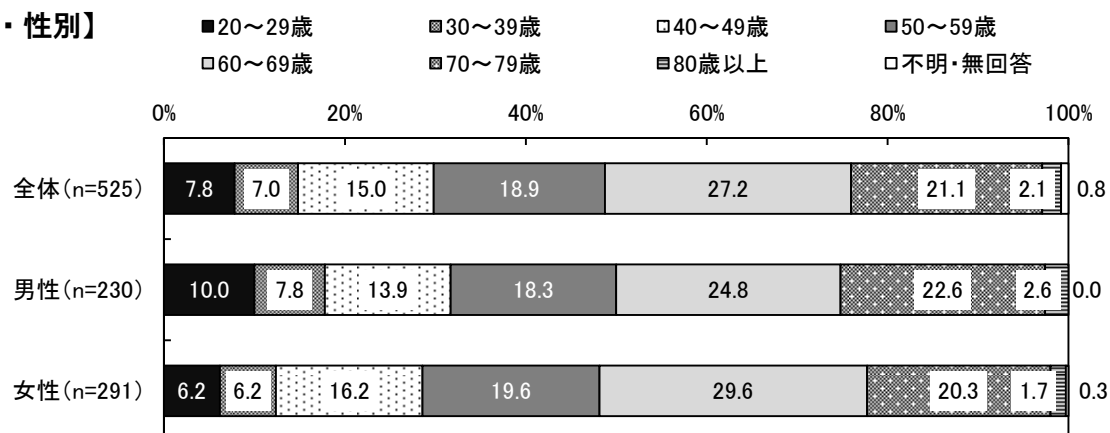
※平成27年10月末現在（神河町HPより）

問2 あなたの年齢は（平成27年10月1日現在）。(〇は1つ)

年齢についてみると、全体では「60～69歳」が27.2%、「70～79歳」が21.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「60～69歳」が高く、2割～約3割となっています。

【全体・性別】



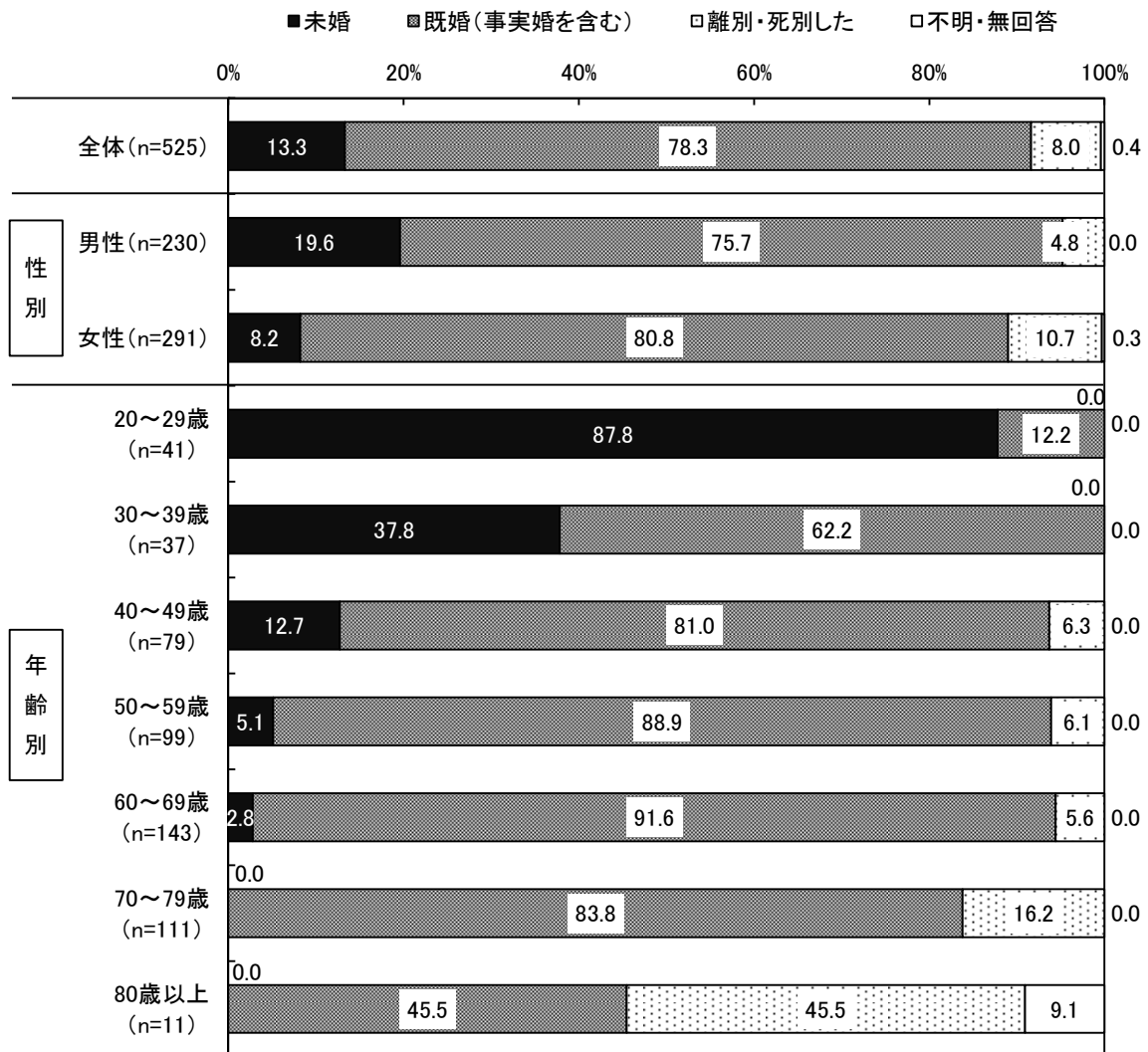
問3 あなたは、結婚（事実婚を含む）していますか。（○は1つ）

婚姻状況についてみると、全体では「既婚（事実婚を含む）」が78.3%と大部分を占めています。

性別にみると、男女ともに「既婚（事実婚を含む）」が最も高く、7割～8割となっています。また、男性の「未婚」が19.6%となっているのに対して、女性では8.2%と11.4ポイントの差がみられます。

年齢別にみると、[20～29 歳]では「未婚」が約9割、[30～39 歳]から[70～79 歳]では「既婚」が6割～9割となっています。

【全体・性別・年齢別】



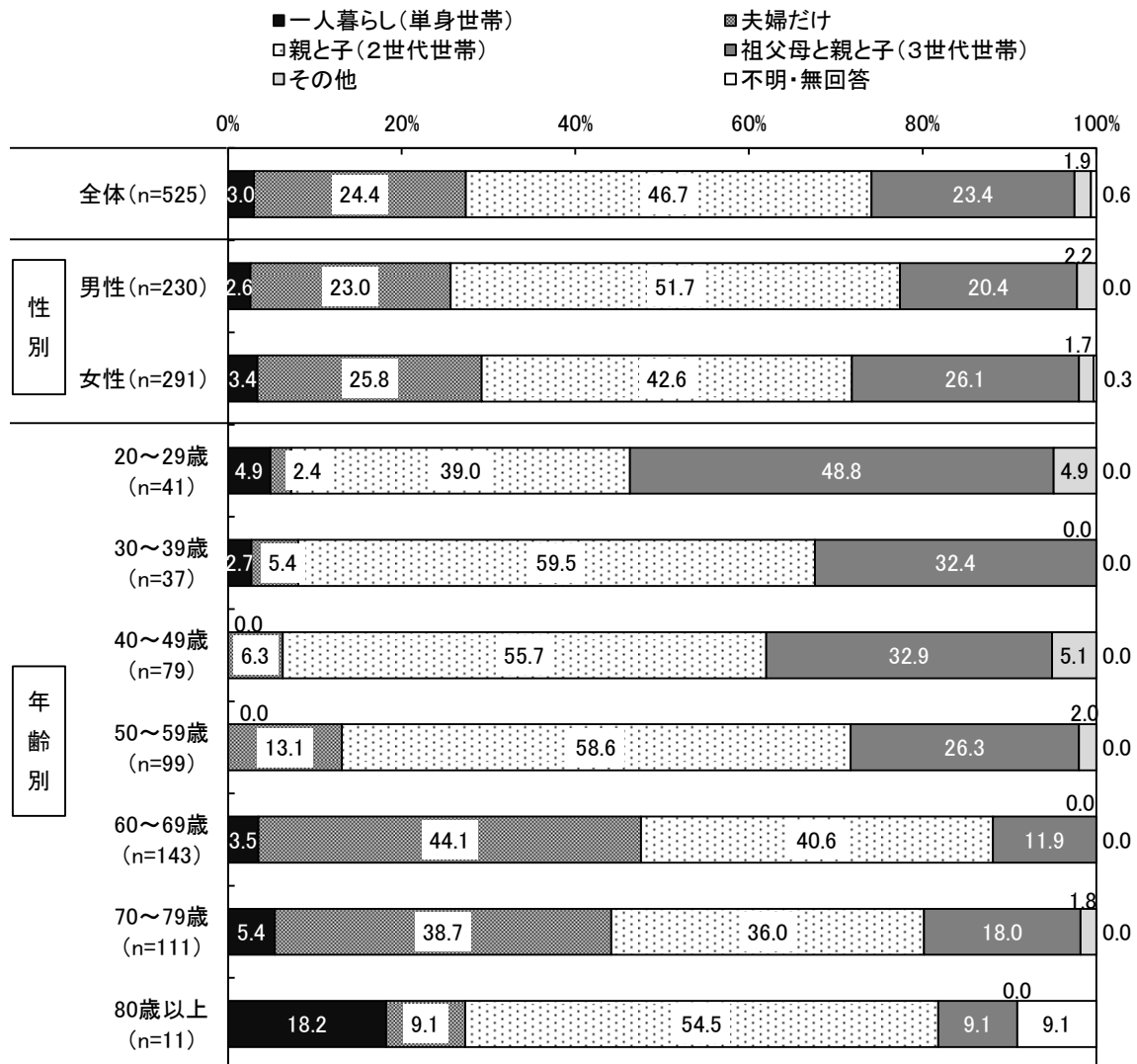
問4 あなたのご家族（同居）の構成は次のどれですか。（○は1つ）

家族構成についてみると、全体では「親と子（2世代世帯）」が46.7%と最も高く、次いで「夫婦だけ」が24.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「親と子（2世代世帯）」が最も高く、4割～5割となっています。

年齢別にみると、[20～29 歳]では「祖父母と親と子（3世代世帯）」、[30～39 歳]から[50～59 歳]、[80 歳以上]では「親と子（2世代世帯）」、[60～69 歳]、[70～79 歳]では「夫婦だけ」が最も高くなっています。

【全体・性別・年齢別】



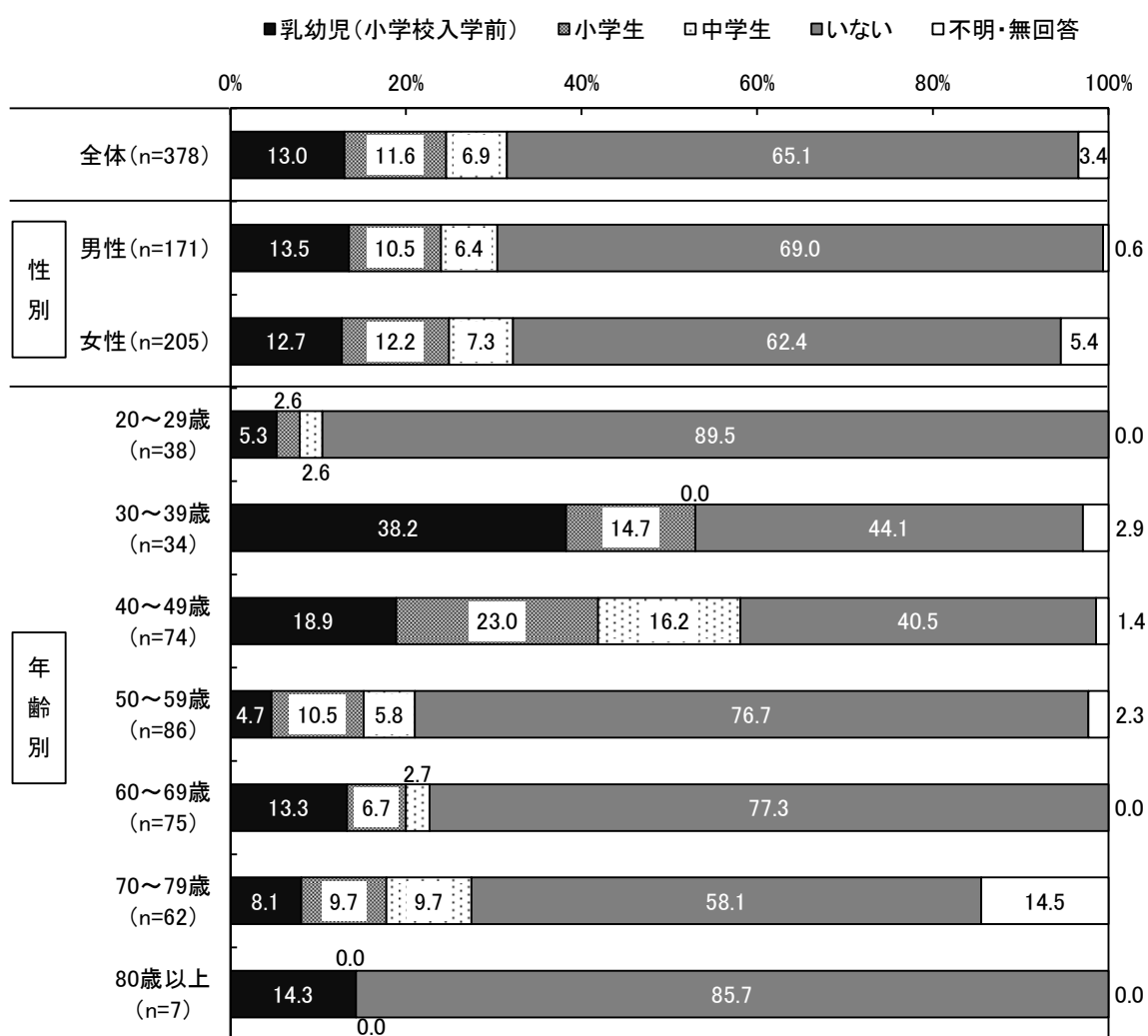
問5 中学生以下の子ども（同居）がいますか。いる場合、一番年齢の小さな子どもは次のどれですか。（○は1つ）

中学生以下の子どもがいる状況についてみると、「いない」が 65.1%と最も高くなっています。いる場合では「乳幼児（小学校入学前）」が 13.0%、「小学生」が 11.6%などとなっています。

性別にみると、男女ともに「いない」が最も高く、6割～約7割となっています。いる場合では「乳幼児（小学校入学前）」、「小学生」がそれぞれ1割台となっています。

年齢別にみると、各年齢で「いない」が最も高くなっています。いる場合では[30～39 歳]で「乳幼児（小学校入学前）」が約4割、[40～49 歳]で「乳幼児（小学校入学）」、「小学生」、「中学生」が1割半ば～2割となっています。

【全体・性別・年齢別】



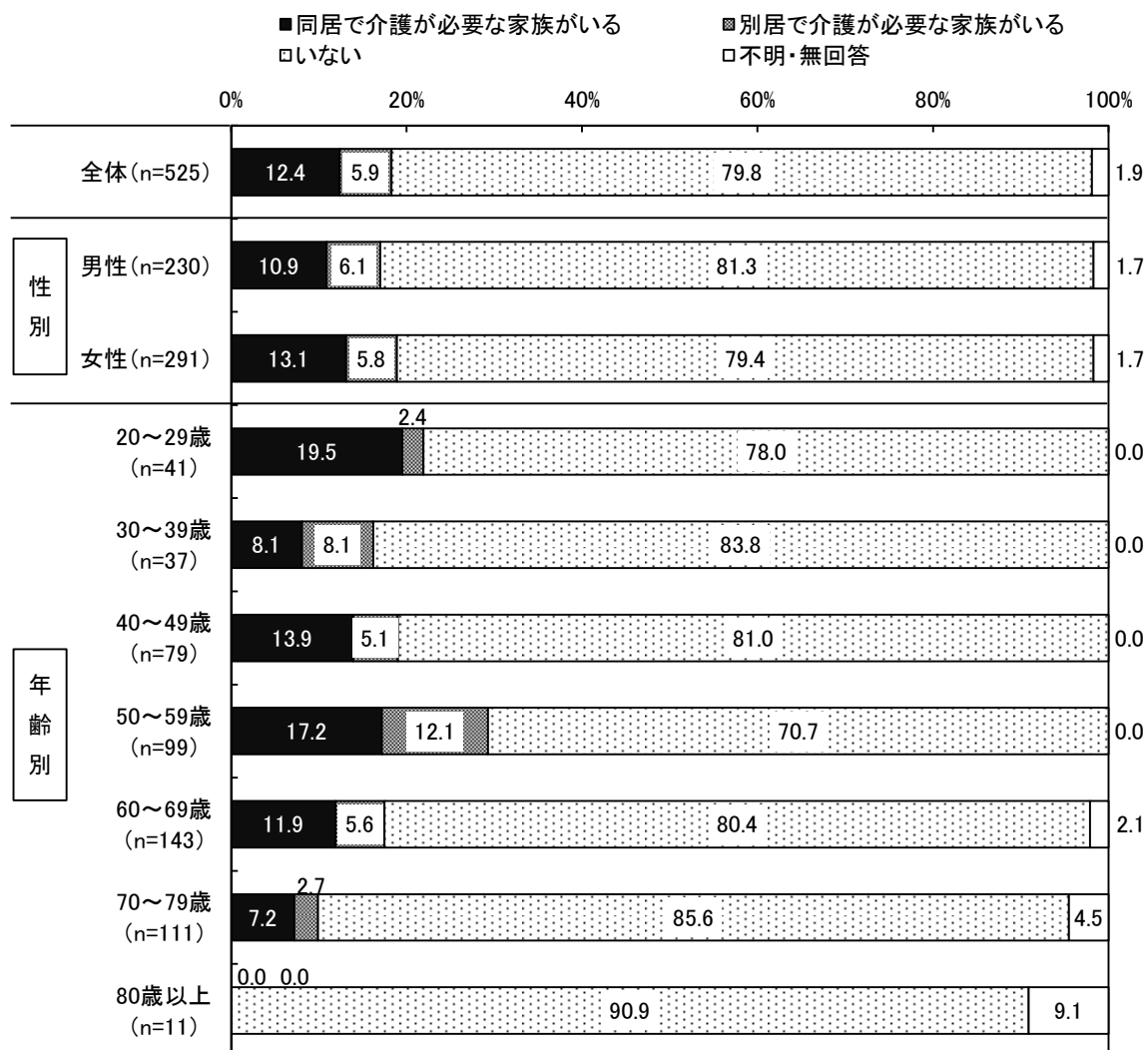
問6 あなたの家族に介護が必要な高齢者（65歳以上）がいますか。（○は1つ）

家族の中に介護が必要な高齢者がいるかについてみると、全体では「いない」が79.8%と最も高く、大部分を占めています。

性別にみると、男女ともに「いない」が最も高く、8割前後となっています。

年齢別にみると、[50～59歳]で「同居で介護が必要な家族がいる」と「別居で介護が必要な家族がいる」を合わせた割合が約3割と、ほかの年齢に比べて高くなっています。

【全体・性別・年齢別】



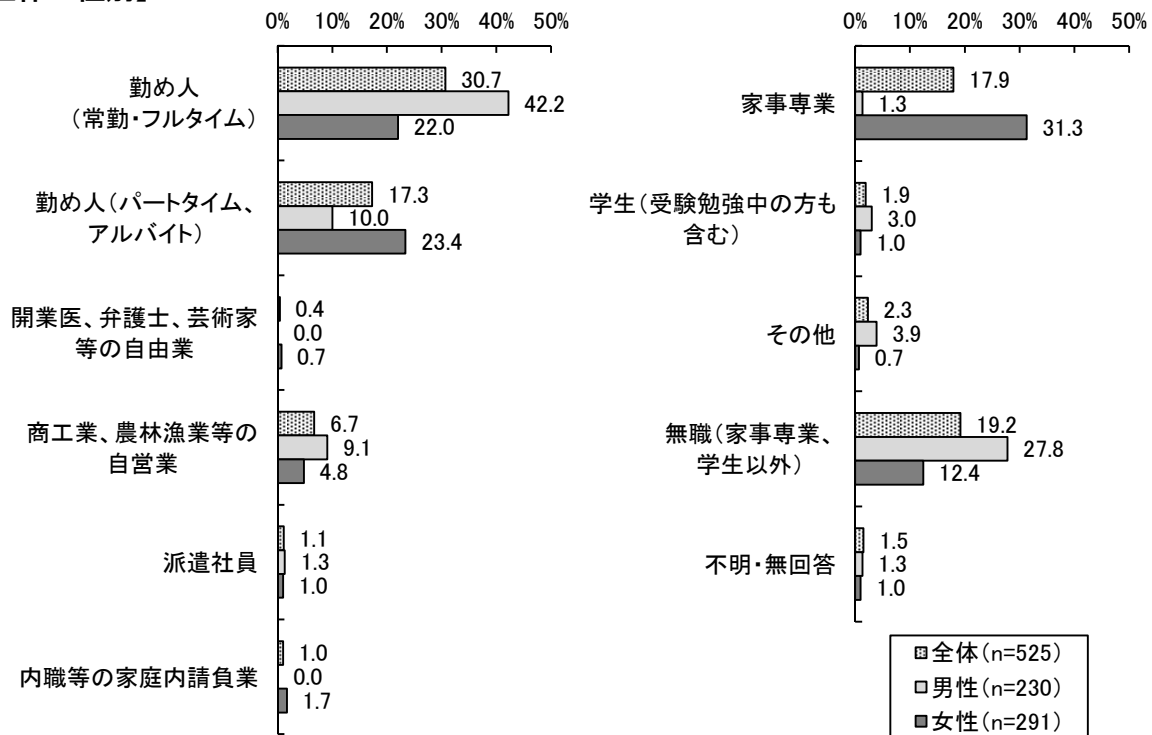
問7 あなたの現在のご職業に最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

職業についてみると、全体では「勤め人(常勤・フルタイム)」が 30.7%と最も高く、次いで「無職(家事専業、学生以外)」が 19.2%となっています。

性別にみると、男性では「勤め人(常勤・フルタイム)」、女性では「家事専業」が最も高くなっています。

年齢別にみると、[50～59 歳]以下では「勤め人(常勤・フルタイム)」、[60～69 歳]では「家事専業」、[70～79 歳]以上では「無職(家事専業、学生以外)」が最も高くなっています。

【全体・性別】



【年齢別】

上段:度数 下段:%	勤め人 (常勤・フルタイム)	勤め人 (パートタイム、アルバイト)	開業医、 弁護士、 芸術家等 の自由業	商工業、 農林漁業 等の自営 業	派遣社員	内職等の 家庭内請 負業	家事専業	学生(受 験勉強中 の方も含 む)	その他	無職(家 事専業、 学生以 外)	不明・ 無回答
20～29歳 (n=41)	22 53.7	2 4.9	0 0.0	0 0.0	1 2.4	0 0.0	3 7.3	10 24.4	0 0.0	2 4.9	1 2.4
30～39歳 (n=37)	24 64.9	6 16.2	0 0.0	1 2.7	1 2.7	0 0.0	4 10.8	0 0.0	1 2.7	0 0.0	0 0.0
40～49歳 (n=79)	47 59.5	16 20.3	0 0.0	3 3.8	0 0.0	0 0.0	7 8.9	0 0.0	4 5.1	2 2.5	0 0.0
50～59歳 (n=99)	47 47.5	20 20.2	1 1.0	11 11.1	2 2.0	0 0.0	12 12.1	0 0.0	2 2.0	4 4.0	0 0.0
60～69歳 (n=143)	20 14.0	33 23.1	1 0.7	16 11.2	2 1.4	2 1.4	38 26.6	0 0.0	3 2.1	28 19.6	0 0.0
70～79歳 (n=111)	0 0.0	14 12.6	0 0.0	3 2.7	0 0.0	3 2.7	30 27.0	0 0.0	2 1.8	56 50.5	3 2.7
80歳以上 (n=11)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8 72.7	2 18.2

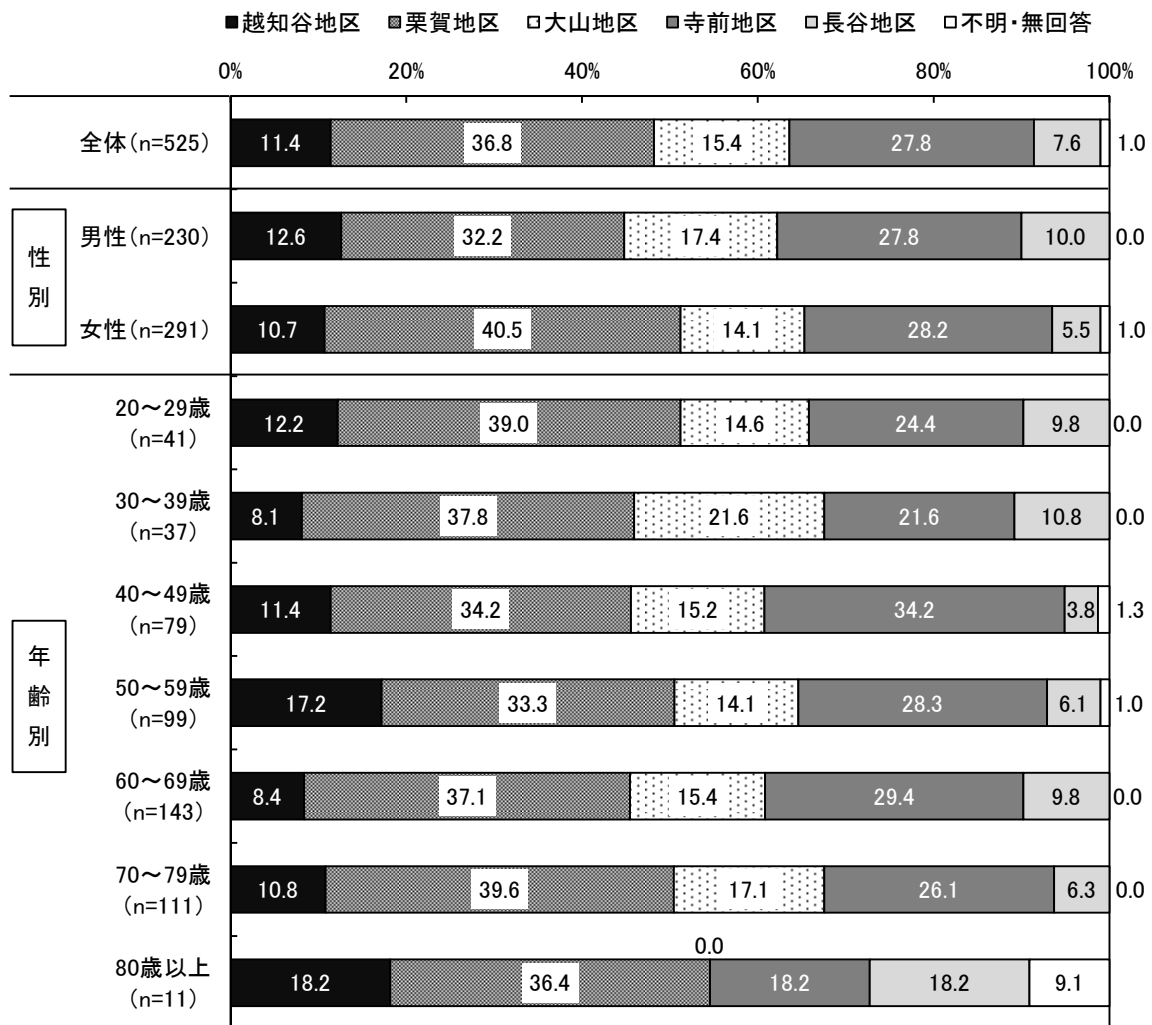
問8 あなたがお住まいの地区は次のどれですか。(〇は1つ)

居住地区についてみると、全体では「栗賀地区」が36.8%と最も高く、次いで「寺前地区」が27.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「栗賀地区」が最も高く、3割～4割となっています。

年齢別にみると、[40～49歳]では「栗賀地区」、「寺前地区」が同率で最も高くなっています。

【全体・性別・年齢別】

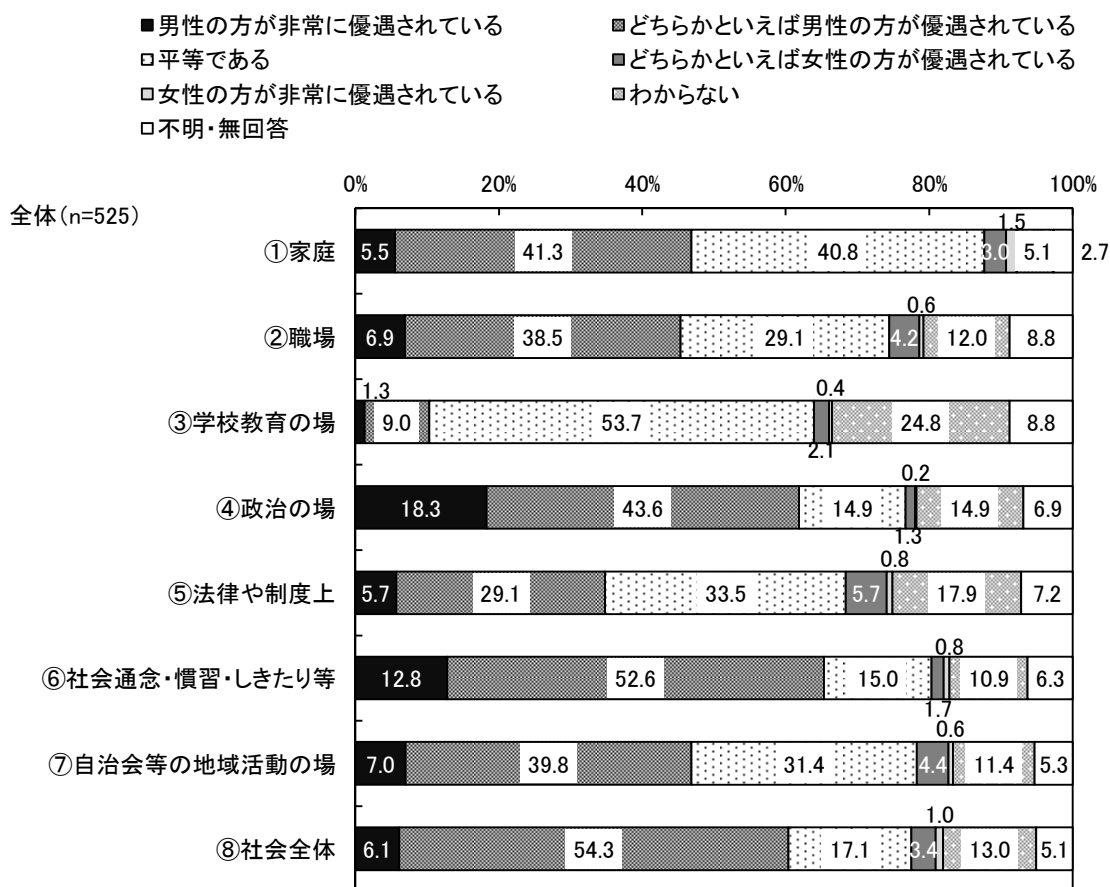


2 男女平等・性別による役割分担についておたずねします。

問9 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(○はそれぞれ1つ)

男女の地位が平等になっていると思う分野についてみると、全体では[④政治の場]、[⑥社会通念・慣習・しきたり等]、[⑧社会全体]で、『男性が優遇されている』(「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計 以下同)が6割以上となっています。[③学校教育の場]では「平等である」が最も高く、5割となっています。また、『女性が優遇されている』(「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計 以下同)は、各項目で1割以下となっています。

【全体】



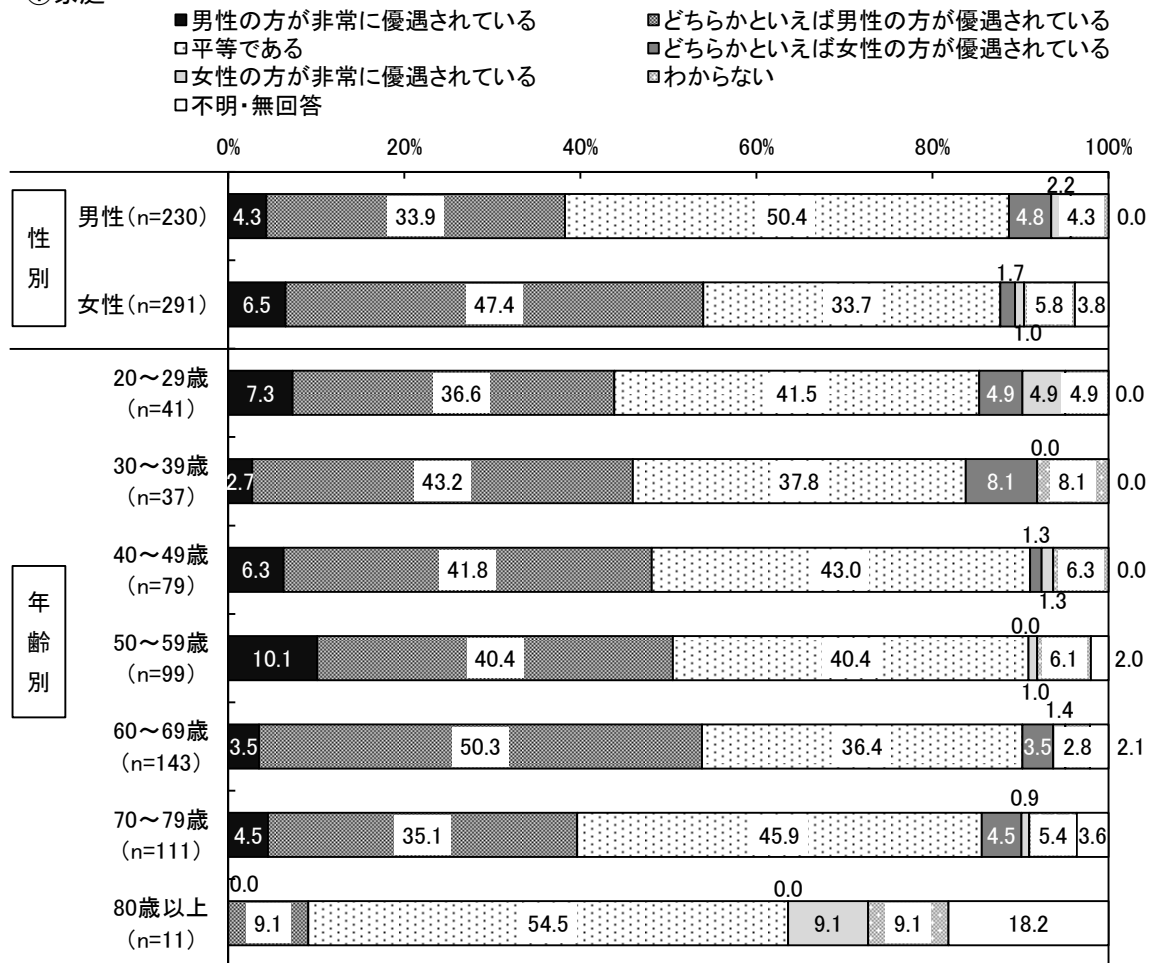
①家庭

性別にみると、男性では「平等である」が最も高くなっているのに対して、女性では「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も高くなっています。また、女性の『男性が優遇されている』が53.9%となっているのに対して、男性では38.2%と、15.7ポイントの差がみられます。

年齢別にみると、[20～29歳]、[40～49歳]、[70～79歳]、[80歳以上]で「平等である」が最も高くなっています。

【性別・年齢別】

①家庭



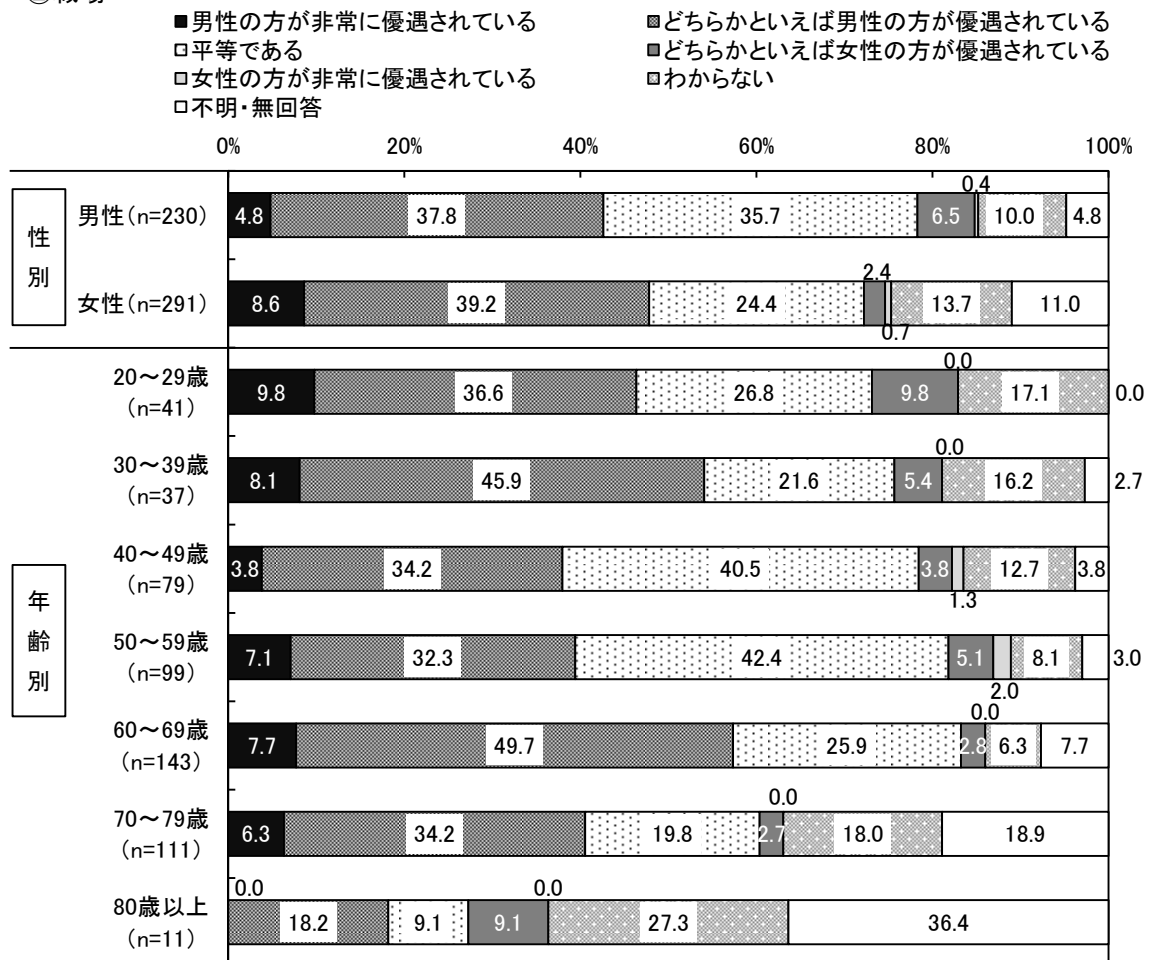
②職場

性別にみると、男女ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も高くなっています。また、男性の「平等である」が35.7%となっているのに対して、女性では24.4%と11.3ポイントの差がみられます。

年齢別にみると、[40～49歳]、[50～59歳]で「平等である」が最も高くなっています。

【性別・年齢別】

②職場



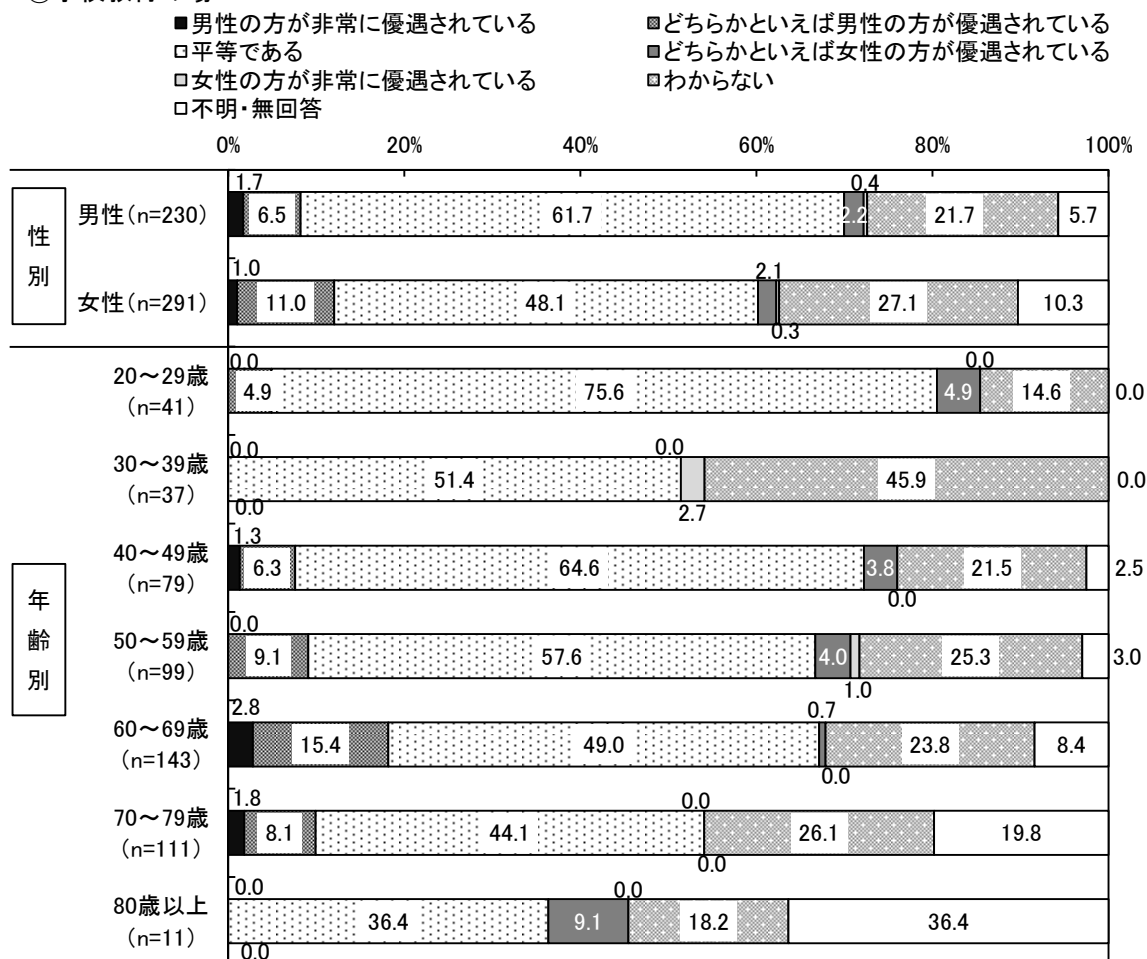
③学校教育の場

性別にみると、男女ともに「平等である」が最も高く、男性では 61.7%となっているのに対して、女性では 48.1%と 13.6 ポイントの差がみられます。

年齢別にみると、各年齢で「平等である」が最も高くなっています。

【性別・年齢別】

③学校教育の場



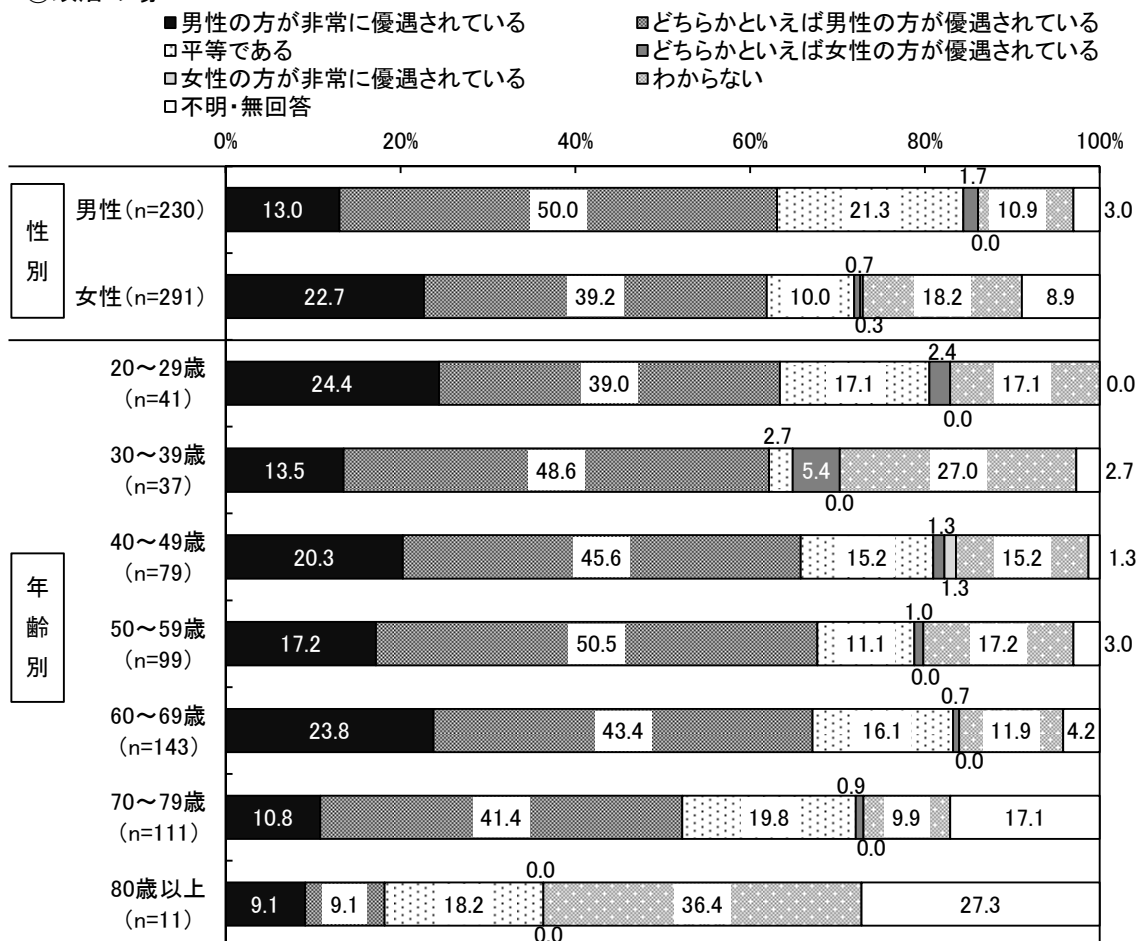
④政治の場

性別にみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、男性の「平等である」が21.3%となっているのに対して、女性では10.0%と11.3ポイントの差がみられます。

年齢別にみると、[70～79歳]以下で『男性が優遇されている』が5割以上となっています。

【性別・年齢別】

④政治の場



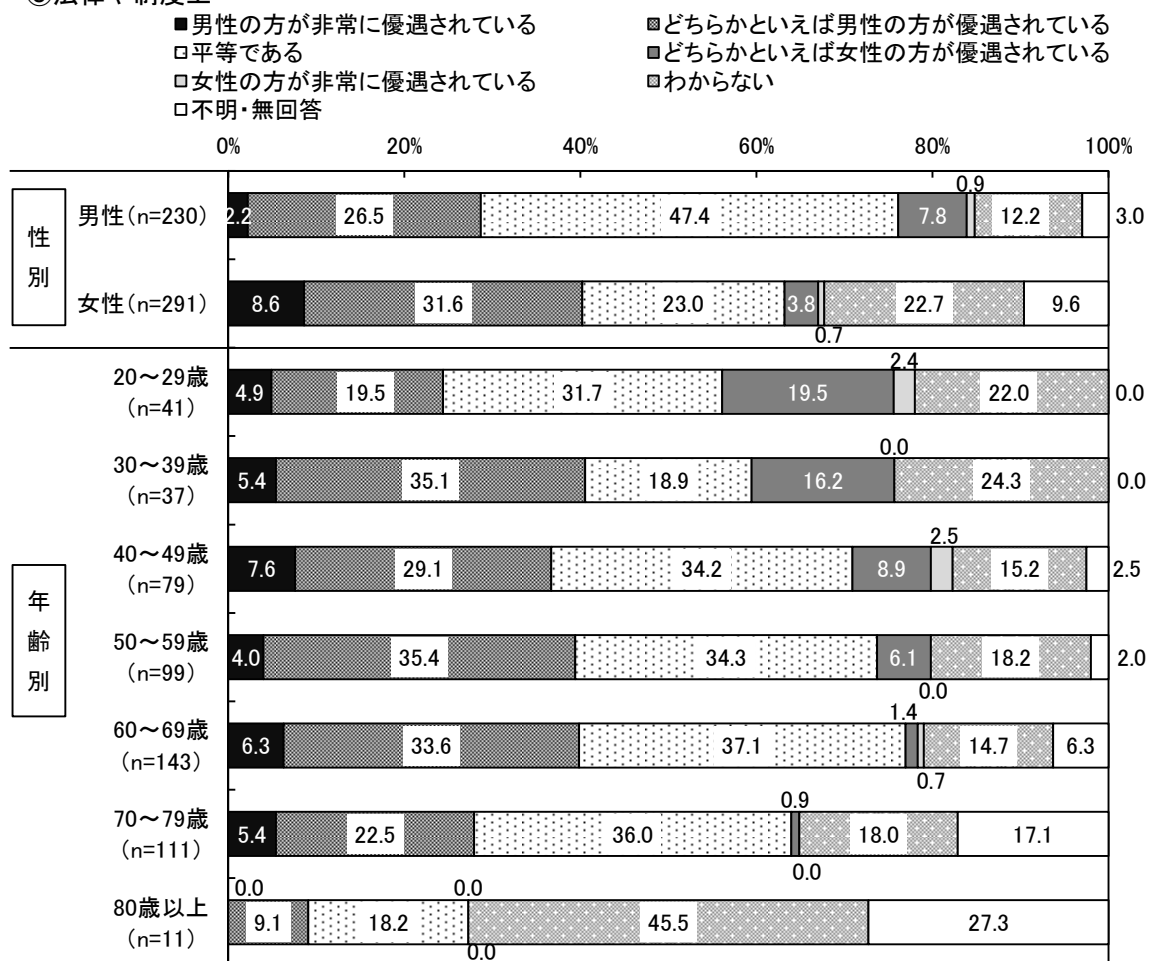
⑤法律や制度上

性別にみると、男性では「平等である」が最も高くなっているのに対して、女性では「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も高くなっています。また、男性の「平等である」が 47.4%となっているのに対して、女性では 23.0%と 24.4 ポイントの差がみられます。

年齢別にみると、[30～39 歳]から[60～69 歳]で『男性が優遇されている』が、3割半ば～4割と高くなっています。

【性別・年齢別】

⑤法律や制度上



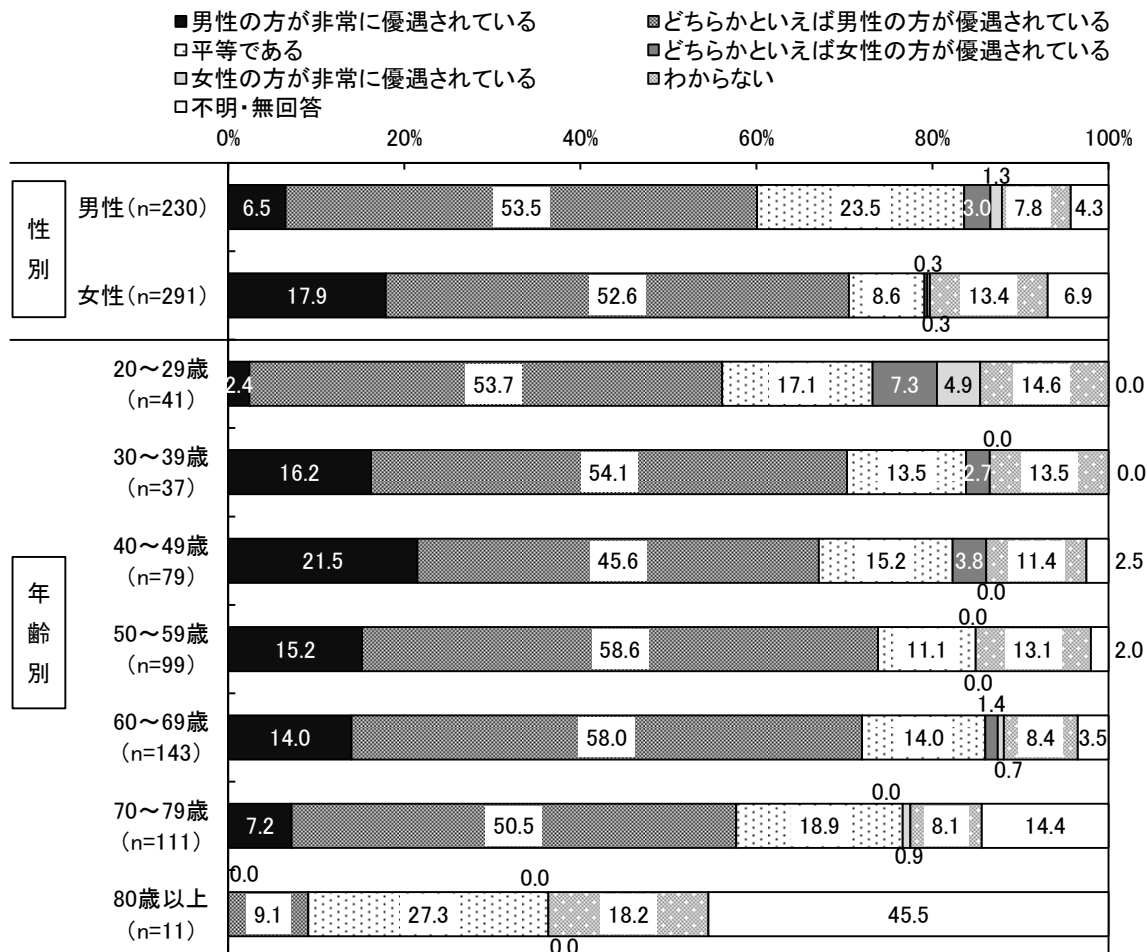
⑥社会通念・慣習・しきたり等

性別にみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、男性の「平等である」が23.5%となっているのに対して、女性では8.6%と14.9ポイントの差がみられます。

年齢別にみると、[70～79歳]以下で『男性が優遇されている』が5割以上となっています。

【性別・年齢別】

⑥社会通念・慣習・しきたり等



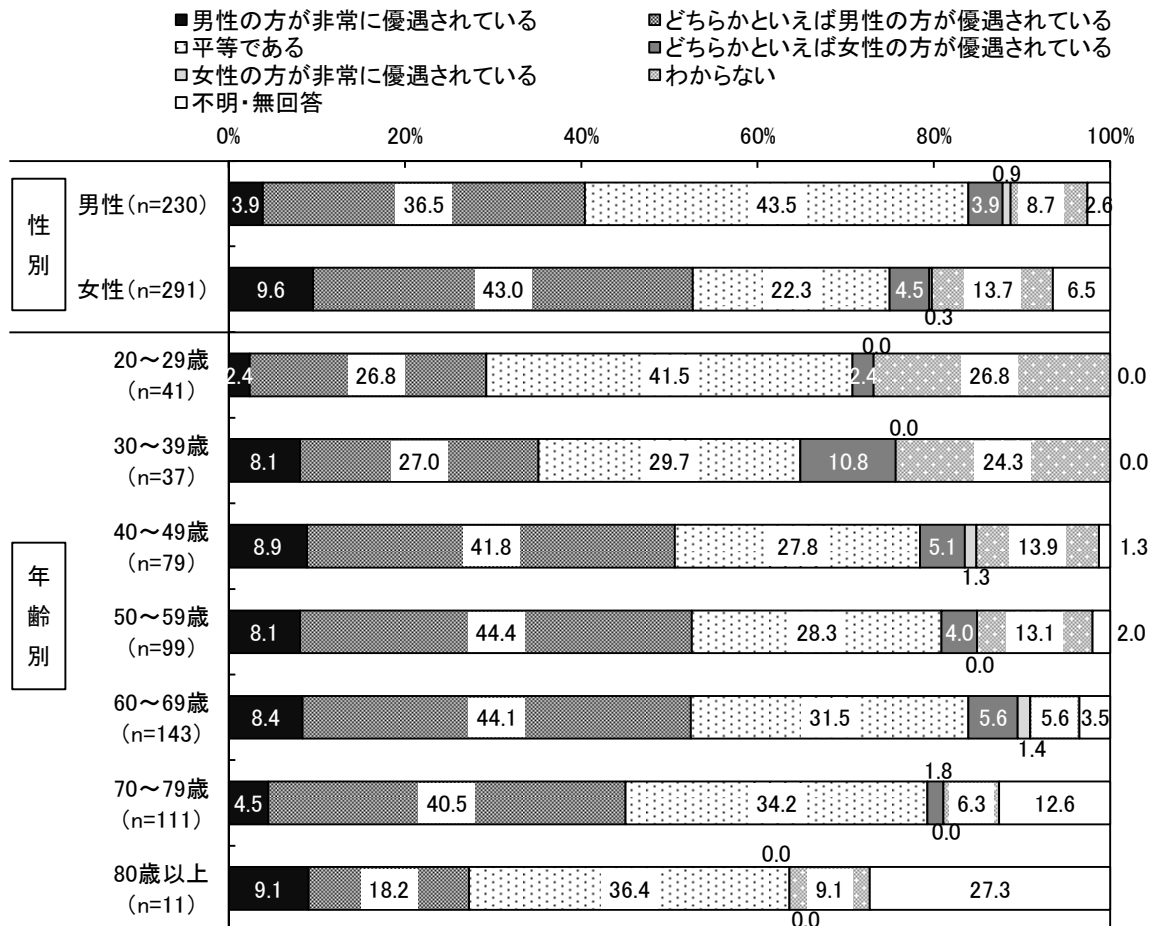
⑦自治会等の地域活動の場

性別にみると、男性では「平等である」が最も高くなっているのに対して、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、男性の「平等である」が 43.5%なのに対して、女性では 22.3%と 21.2 ポイントの差がみられます。

年齢別にみると、[30～39 歳]から[70～79 歳]では『男性が優遇されている』が高くなっています。

【性別・年齢別】

⑦自治会等の地域活動の場



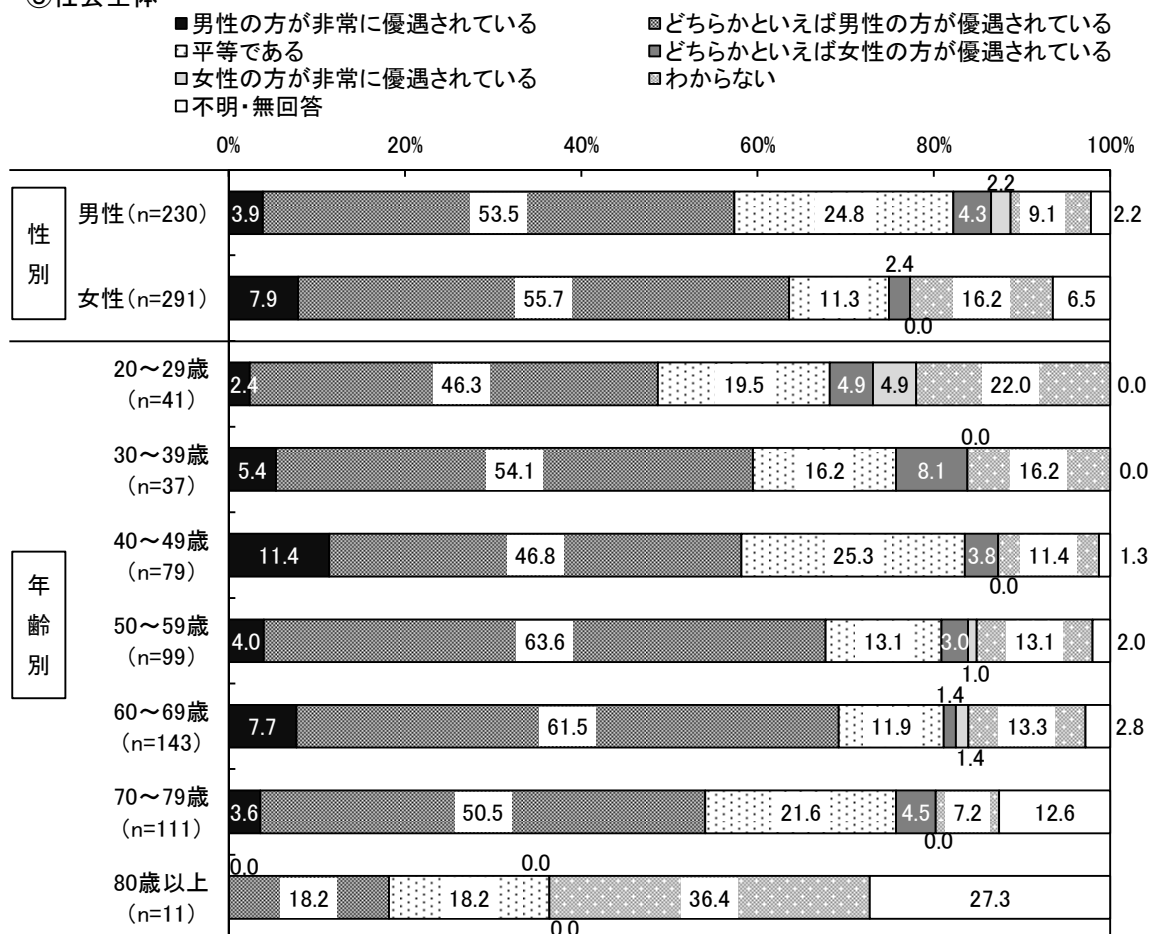
⑧社会全体

性別にみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く、5割台となっています。また、男性の「平等である」が24.8%なのに対して、女性では11.3%と13.5ポイントの差がみられます。

年齢別にみると、[70～79歳]以下で、『男性が優遇されている』が高く、特に[50～59歳]、[60～69歳]で約7割となっています。

【性別・年齢別】

⑧社会全体

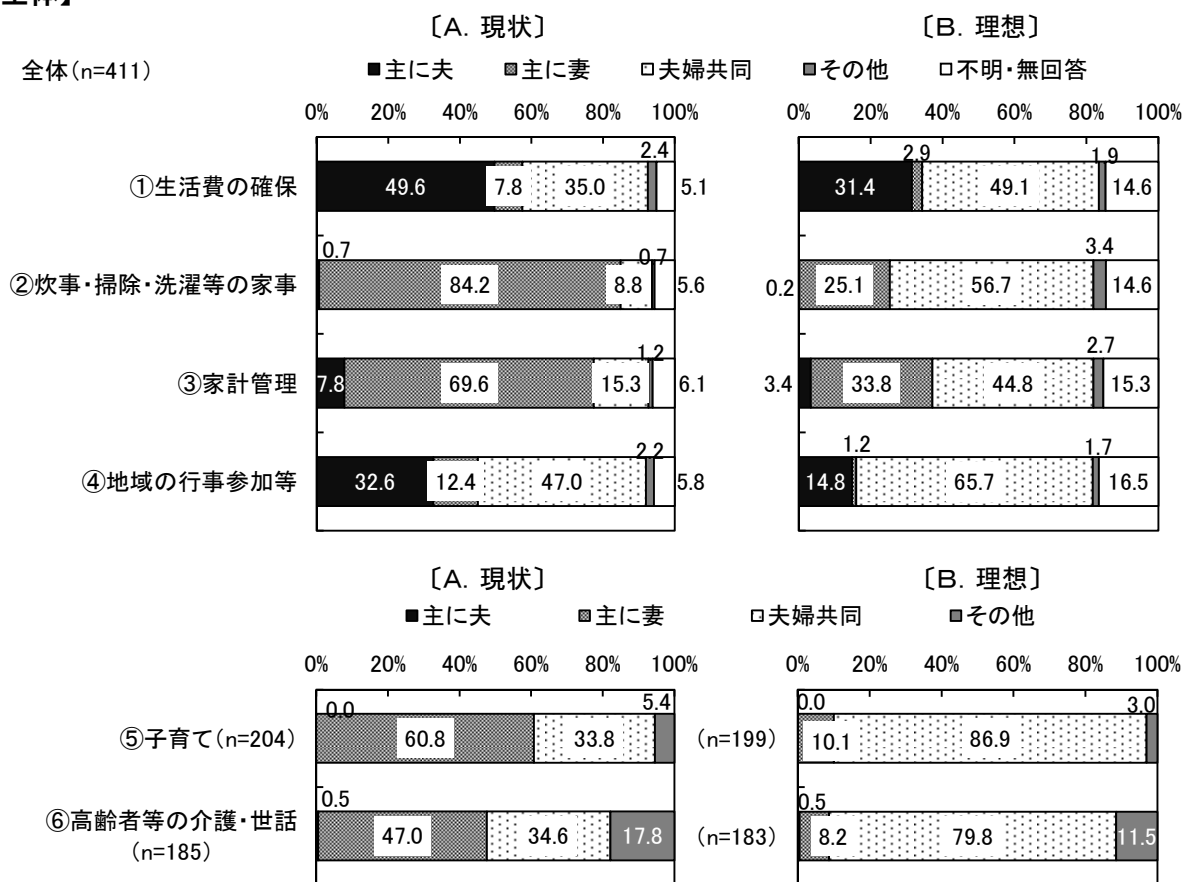


問 10 結婚（事実婚を含む）している方（問3で「既婚（事実婚を含む）」とお答えの方）にお
うかがいします。

日常的な家事・仕事等の役割分担についておうかがいします。「A. 現状」と「B. 理想」
の両方についてお答えください。「①生活費の確保」から「④地域の行事参加等」はすべて
の方がお答えください。「⑤子育て」「⑥高齢者等の介護・世話」は該当する方のみお答え
ください。（〇はそれぞれ1つ）

日常的な家事・仕事の役割分担についてみると、全体では〔現状〕において、〔①生活費の確保〕、〔④地域
の行事参加等〕を除く各項目で「主に妻」が最も高く、特に〔②炊事・掃除・洗濯等の家事〕、〔③家計管理〕は約
7割～8割となっています。〔理想〕においては各項目で「夫婦共同」が最も高く、特に〔⑤子育て〕、〔⑥高齢者
等の介護・世話〕では約8割～8割半ばとなっています。

【全体】



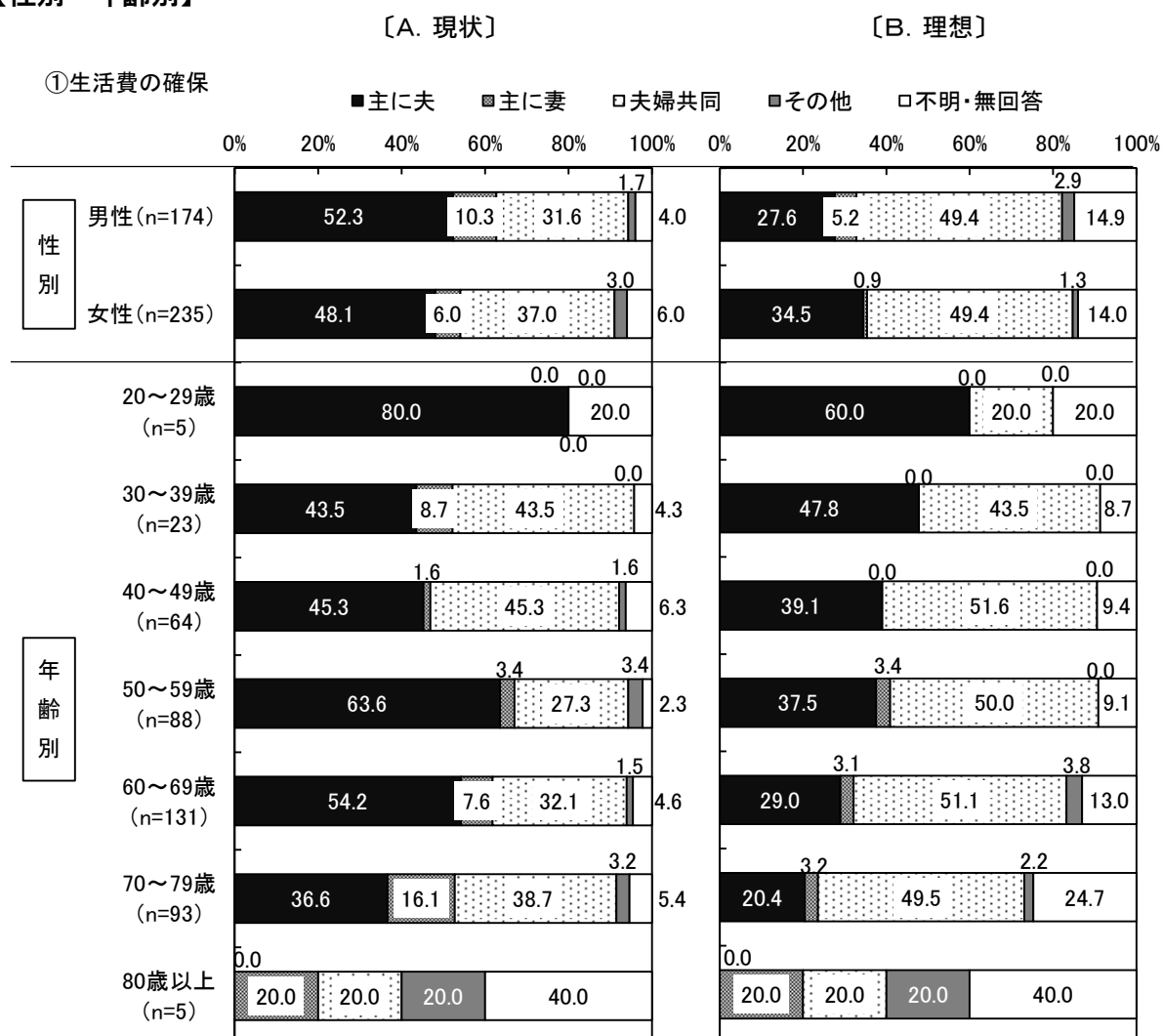
※「⑤子育て」「⑥高齢者等の介護・世話」については、除不で表示

①生活費の確保

性別にみると、男女ともに〔現状〕においては「主に夫」が5割前後と最も高く、〔理想〕においては「夫婦共同」が約5割と最も高くなっています。

年齢別では、〔現状〕においては〔20～29 歳〕、〔50～59 歳〕、〔60～69 歳〕で「主に夫」、〔70～79 歳〕で「夫婦共同」が最も高くなっています。〔理想〕においては〔20～29 歳〕、〔30～39 歳〕で「主に夫」、〔40～49 歳〕から〔70～79 歳〕で「夫婦共同」が最も高くなっています。

【性別・年齢別】

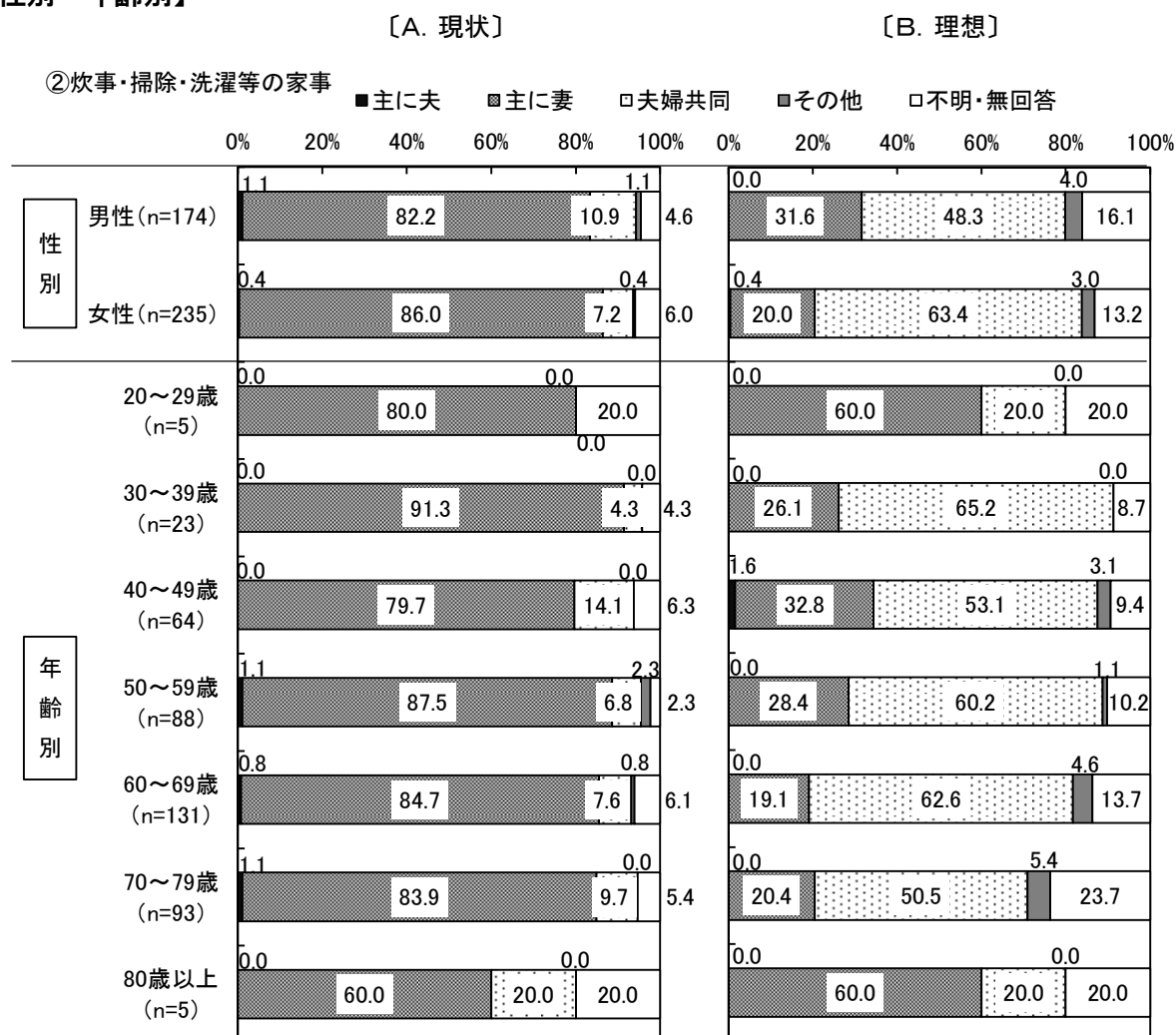


②炊事・掃除・洗濯等の家事

性別にみると、〔現状〕においては男女ともに「主に妻」が8割以上と最も高くなっています。〔理想〕においては、男女ともに「夫婦共同」が最も高くなっていますが、男性が48.3%、女性が63.4%と15.1ポイントの差がみられます。

年齢別にみると、〔現状〕においては各年齢で「主に妻」が最も高くなっています。〔理想〕においては、〔30～39歳〕から〔70～79歳〕で「夫婦共同」が最も高く、5割～6割となっています。

【性別・年齢別】

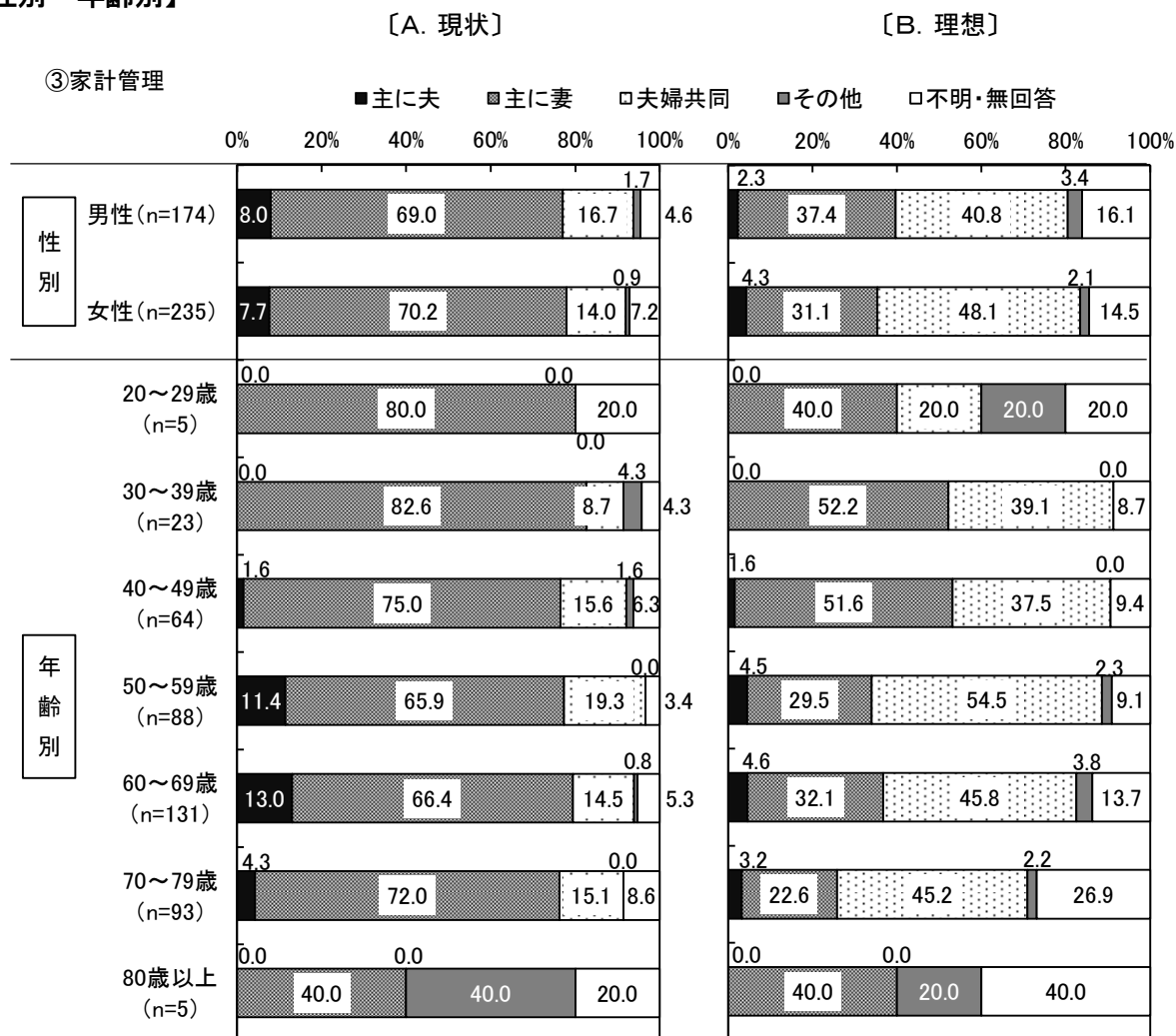


③家計管理

性別にみると、〔現状〕においては男女ともに「主に妻」が7割前後と最も高くなっています。〔理想〕においては、男女ともに「夫婦共同」が最も高くなっていますが、男性で40.8%、女性が48.1%と7.3ポイントの差がみられます。

年齢別にみると、〔現状〕においては〔70～79歳〕以下で「主に妻」が最も高くなっています。〔理想〕においては、〔40～49歳〕以下と〔80歳以上〕では「主に妻」、〔50～59歳〕から〔70～79歳〕では「夫婦共同」が最も高くなっています。

【性別・年齢別】

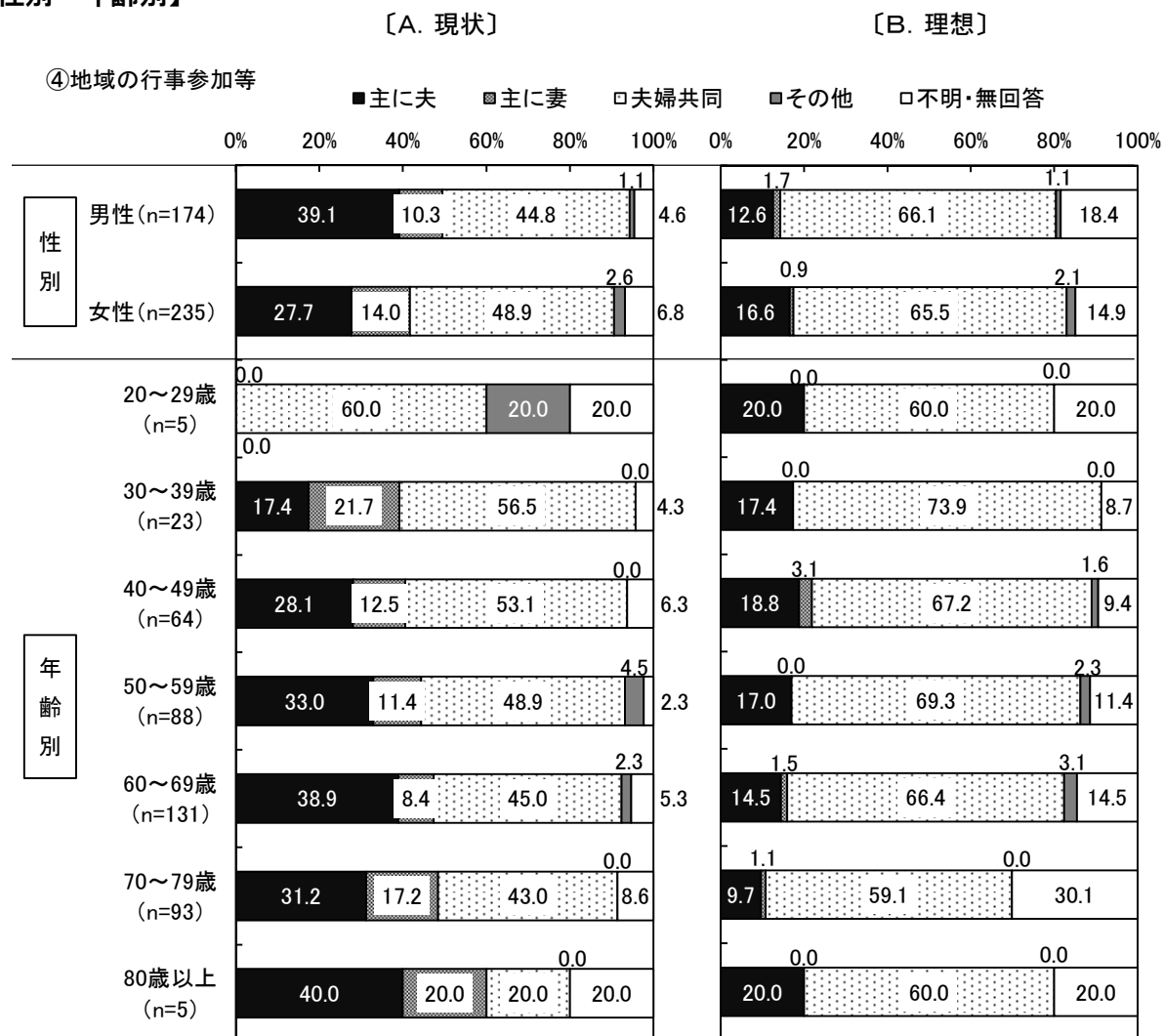


④地域の行事参加等

性別にみると、〔現状〕、〔理想〕において、男女ともに「夫婦共同」が最も高くなっています。

年齢別にみると、〔現状〕においては、〔70～79 歳〕以下で「夫婦共同」が最も高くなっています。〔理想〕においては各年齢で「夫婦共同」が最も高く、約6割～7割となっています。

【性別・年齢別】

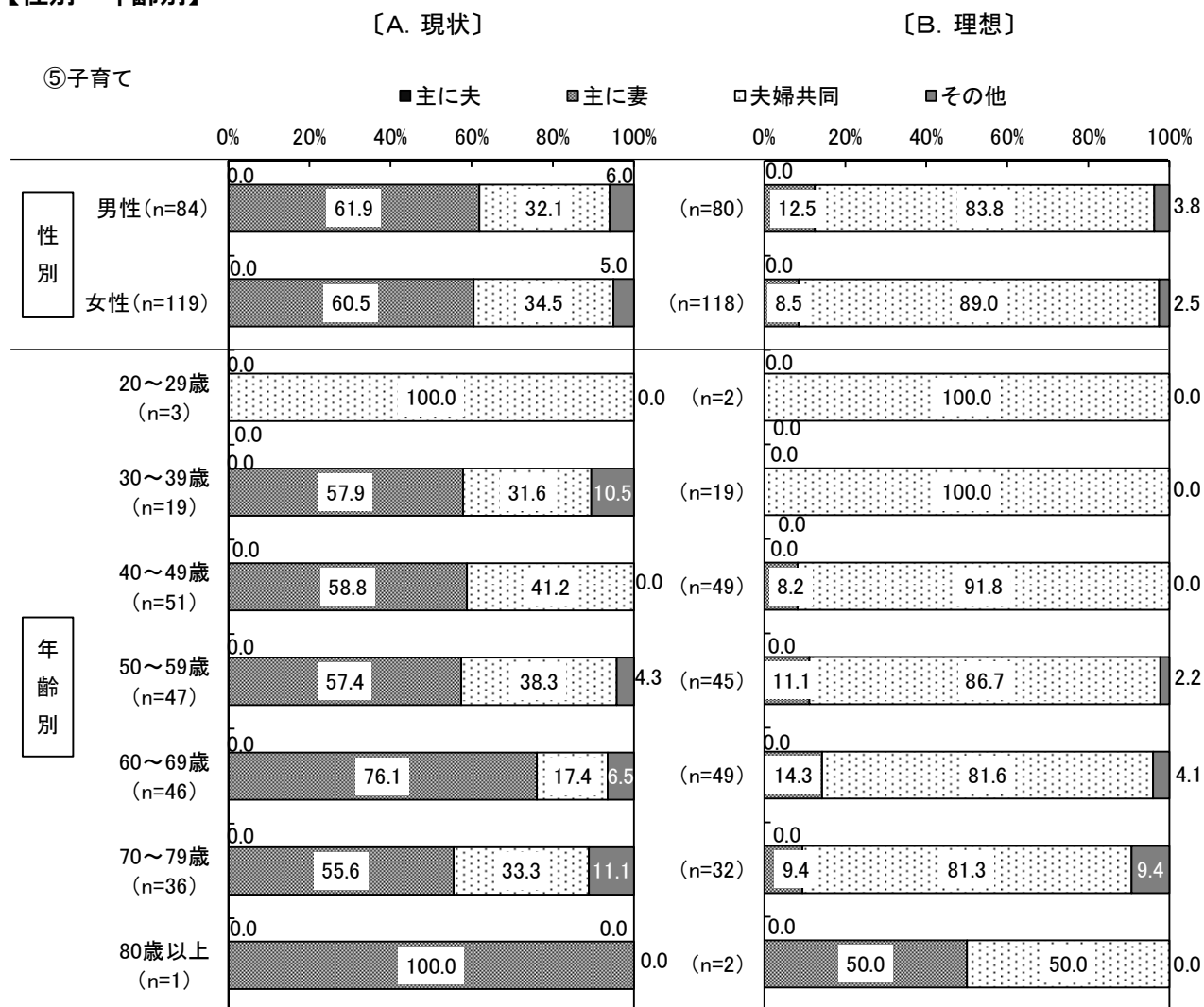


⑤子育て

性別にみると、男女ともに〔現状〕においては「主に妻」が最も高く、〔理想〕においては「夫婦共同」が最も高くなっています。

年齢別にみると、〔現実〕においては〔30～39 歳〕以上で「主に妻」が最も高くなっています。〔理想〕においては〔70～79 歳〕以下で「夫婦共同」が最も高くなっています。

【性別・年齢別】



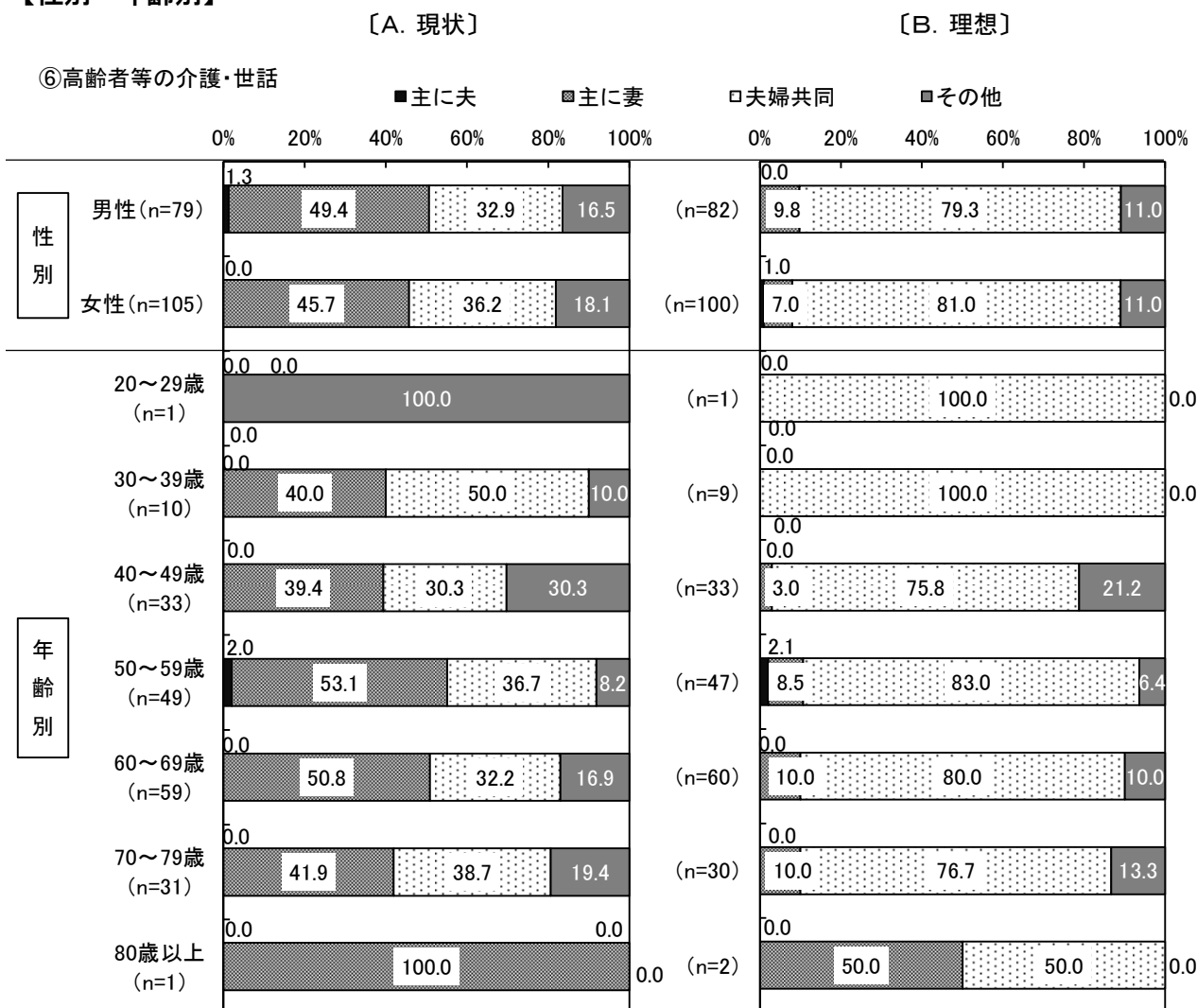
※除不で表示

⑥高齢者等の介護・世話

性別にみると、男女ともに〔現状〕においては「主に妻」が最も高く、〔理想〕においては「夫婦共同」が最も高くなっています。

年齢別にみると、〔現状〕においては〔40～49 歳〕以上で「主に妻」が最も高くなっています。〔理想〕においては〔70～79 歳〕以下で「夫婦共同」が最も高くなっています。

【性別・年齢別】



※除不で表示

問 11 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

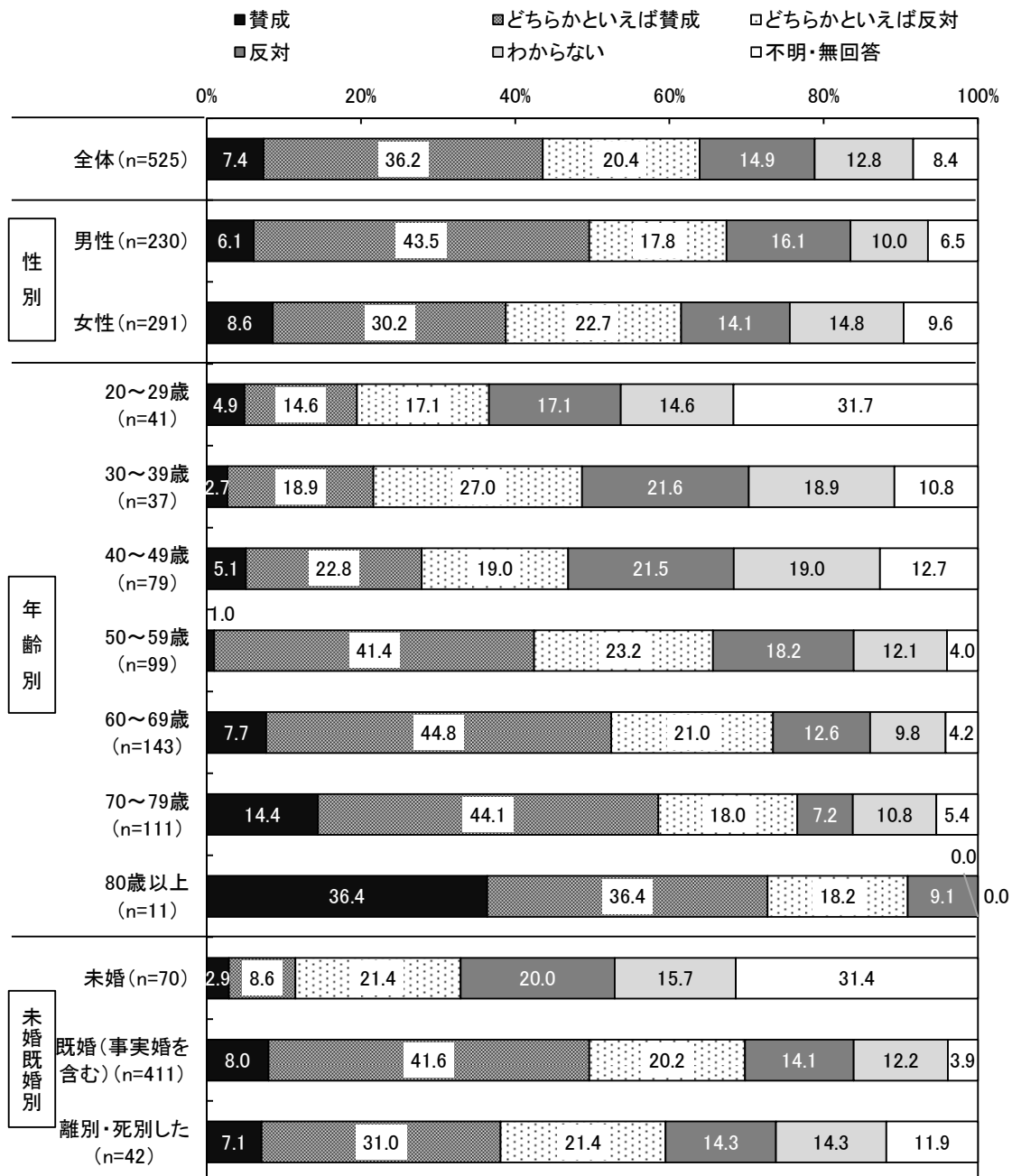
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方についてみると、全体では『賛成』(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計 以下同)が 43.6%、『反対』(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計 以下同)が 35.3%となっています。

性別にみると、男女ともに『賛成』が『反対』を上回っていますが、男性では『賛成』(49.6%)と『反対』(33.9%)の差が 10.8 ポイントに対して、女性では『賛成』(38.8%)と『反対』(36.8%)の差が 2.0 ポイントと、あまり変わりありません。

年齢別にみると、[40～49 歳]以下では『反対』が『賛成』を上回っている一方で、[50～59 歳]以上では『賛成』が『反対』を上回っています。

未婚既婚別にみると、[未婚]では『反対』が『賛成』を上回っています。

【全体・性別・年齢別・未婚既婚別】



3 社会活動、地域活動についておたずねします。

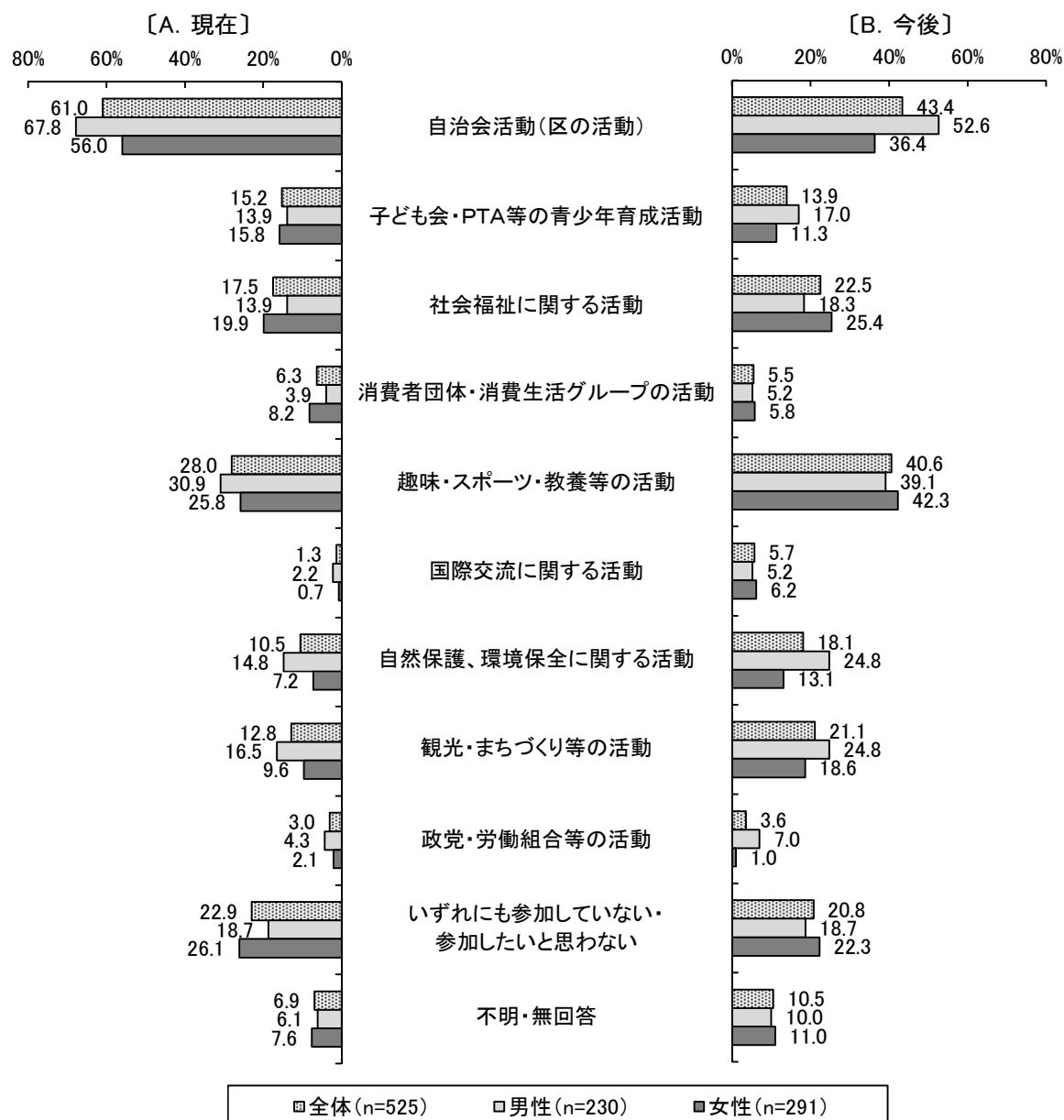
問 12 社会活動、地域活動への現在の参加状況と今後の参加意向についておうかがいします。

「A. 現在」と「B. 今後」の両方について、現在参加している、今後参加したいと思う活動は何ですか。(〇はそれぞれあてはまるものすべて)

社会活動、地域活動への参加状況についてみると、全体では〔現在〕、〔今後〕ともに、「自治会活動(区の活動)」(現在:61.0%、今後:43.4%)が最も高く、次いで「趣味・スポーツ・教養等の活動」(現在:28.0%、今後:40.6%)となっています。

性別にみると、男性では〔現在〕、〔今後〕ともに全体と同様の傾向がみられますが、女性では〔現在〕においては「自治会活動(区の活動)」に次いで「いずれにも参加していない・参加したいと思わない」が高く、〔今後〕においては「趣味・スポーツ・教養等の活動」が最も高く、次いで「自治会活動(区の活動)」となっています。

【全体・性別】



年齢別にみると、〔現在〕においては、〔30～39 歳〕以上で「自治会活動（区の活動）」が最も高くなっています。また、〔30～39 歳〕、〔40～49 歳〕で「子ども会・PTA等の青少年育成活動」が4割と、ほかの年齢に比べて高くなっています。〔今後〕においては、〔20～29 歳〕で「趣味・スポーツ・教養等の活動」、〔30～39 歳〕で「子ども会・PTA等の青少年育成活動」が最も高くなっています。

【年齢別】

〔A. 現在〕

上段:度数 下段:%	自治会活動(区の活動)	子ども会・PTA等の青少年育成活動	社会福祉に関する活動	消費者団体・消費生活グループの活動	趣味・スポーツ・教養等の活動	国際交流に関する活動	自然保護、環境保全に関する活動	観光・まちづくり等の活動	政党・労働組合等の活動	いずれにも参加していない・参加したくない	不明・無回答
20～29歳 (n=41)	6 14.6	2 4.9	1 2.4	0 0.0	8 19.5	0 0.0	1 2.4	1 2.4	0 0.0	23 56.1	5 12.2
30～39歳 (n=37)	19 51.4	16 43.2	1 2.7	0 0.0	7 18.9	1 2.7	3 8.1	4 10.8	0 0.0	9 24.3	2 5.4
40～49歳 (n=79)	52 65.8	34 43.0	6 7.6	3 3.8	17 21.5	0 0.0	3 3.8	7 8.9	5 6.3	18 22.8	2 2.5
50～59歳 (n=99)	69 69.7	15 15.2	15 15.2	4 4.0	20 20.2	1 1.0	9 9.1	9 9.1	3 3.0	19 19.2	5 5.1
60～69歳 (n=143)	105 73.4	5 3.5	37 25.9	13 9.1	45 31.5	3 2.1	17 11.9	22 15.4	3 2.1	19 13.3	7 4.9
70～79歳 (n=111)	61 55.0	7 6.3	27 24.3	11 9.9	45 40.5	2 1.8	20 18.0	21 18.9	4 3.6	27 24.3	15 13.5
80歳以上 (n=11)	6 54.5	0 0.0	2 18.2	1 9.1	4 36.4	0 0.0	1 9.1	1 9.1	0 0.0	4 36.4	0 0.0

〔B. 今後〕

上段:度数 下段:%	自治会活動(区の活動)	子ども会・PTA等の青少年育成活動	社会福祉に関する活動	消費者団体・消費生活グループの活動	趣味・スポーツ・教養等の活動	国際交流に関する活動	自然保護、環境保全に関する活動	観光・まちづくり等の活動	政党・労働組合等の活動	いずれにも参加していない・参加したくない	不明・無回答
20～29歳 (n=41)	6 14.6	7 17.1	5 12.2	1 2.4	20 48.8	4 9.8	5 12.2	7 17.1	2 4.9	15 36.6	1 2.4
30～39歳 (n=37)	14 37.8	15 40.5	4 10.8	0 0.0	12 32.4	4 10.8	5 13.5	5 13.5	0 0.0	9 24.3	2 5.4
40～49歳 (n=79)	36 45.6	24 30.4	15 19.0	2 2.5	32 40.5	10 12.7	8 10.1	22 27.8	3 3.8	14 17.7	5 6.3
50～59歳 (n=99)	49 49.5	14 14.1	27 27.3	7 7.1	40 40.4	4 4.0	21 21.2	17 17.2	5 5.1	19 19.2	9 9.1
60～69歳 (n=143)	72 50.3	7 4.9	38 26.6	9 6.3	64 44.8	4 2.8	30 21.0	35 24.5	5 3.5	25 17.5	15 10.5
70～79歳 (n=111)	47 42.3	6 5.4	27 24.3	10 9.0	42 37.8	4 3.6	25 22.5	24 21.6	4 3.6	21 18.9	21 18.9
80歳以上 (n=11)	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 18.2	0 0.0	1 9.1	1 9.1	0 0.0	4 36.4	2 18.2

問 12－ 1 問 12 で「いずれにも参加していない・参加したいと思わない」とお答えの方におうかがいします。

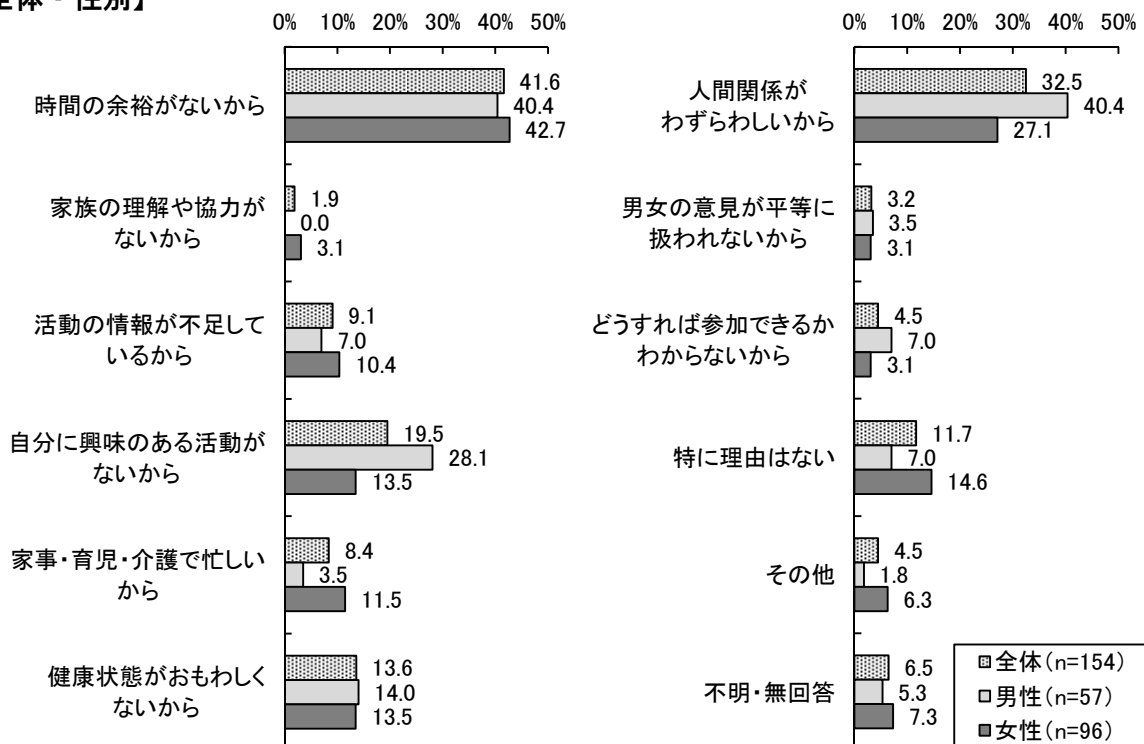
あなたが参加していない・参加したいと思わない理由に近いものは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

参加していない・参加したいと思わない理由についてみると、全体では「時間の余裕がないから」が 41.6%と最も高く、次いで「人間関係がわずらわしいから」が 32.5%となっています。

性別にみると、女性では全体と同様の傾向がみられますが、男性では「時間の余裕がないから」、「人間関係がわずらわしいから」が同率で最も高く、次いで「自分に興味のある活動がないから」となっています。

【全体・性別】



年齢別にみると、[40～49 歳]以下では「時間の余裕がないから」、[50～59 歳]、[60～69 歳]では「人間関係がわずらわしいから」、[70～79 歳]では「特に理由はない」、[80 歳以上]では「健康状態がおもわしくないから」が最も高くなっています。

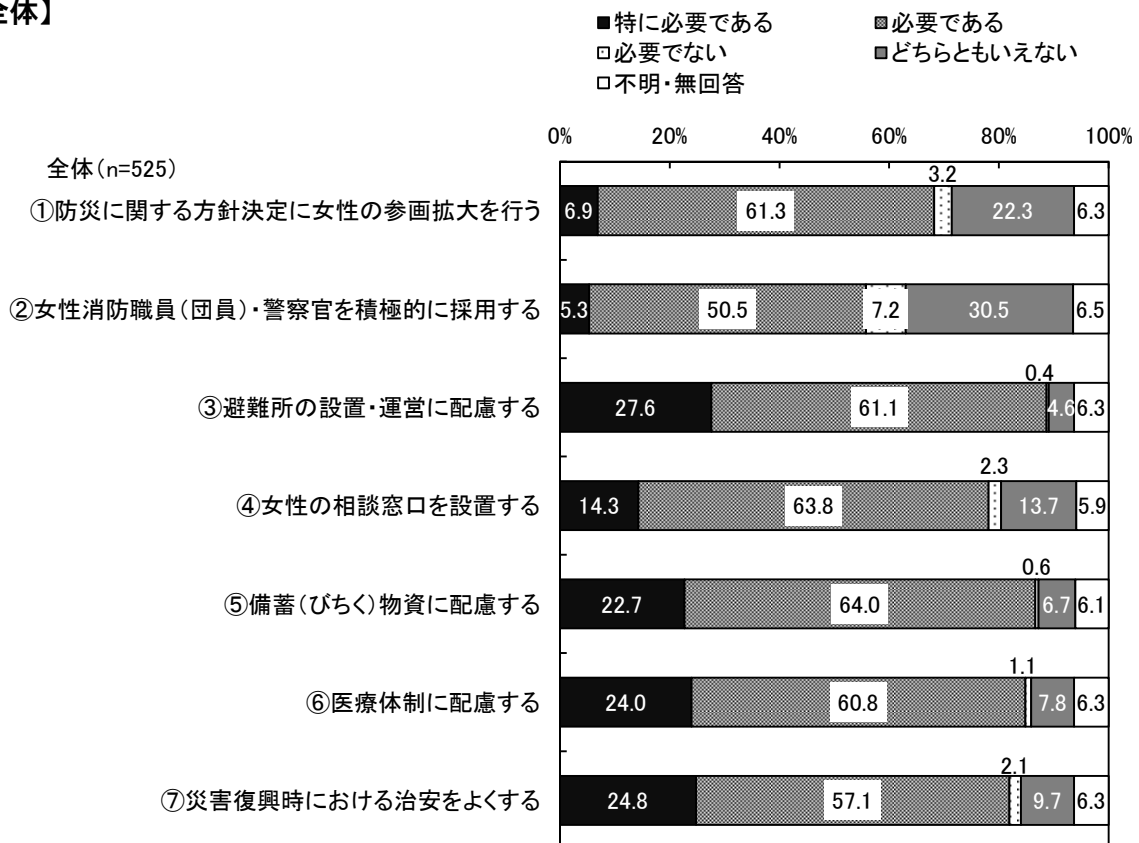
【年齢別】

上段:度数 下段:%	時間の余 裕がない から	家族の理 解や協力 がないから	活動の情 報が不足 している から	自分に興 味のある 活動がな いから	家事・育 児・介護 で忙しい から	健康状態 がおもわ しくない から	人間関係 がわずら わしいか ら	男女の意 見が平等 に扱われ ないから	どうすれ ば参加で きるかわ からない から	特に理由 はない	その他	不明・ 無回答
20～29歳 (n=25)	13 52.0	0 0.0	4 16.0	6 24.0	1 4.0	1 4.0	7 28.0	0 0.0	2 8.0	2 8.0	0 0.0	3 12.0
30～39歳 (n=10)	8 80.0	0 0.0	0 0.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0	4 40.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
40～49歳 (n=23)	13 56.5	1 4.3	4 17.4	4 17.4	4 17.4	6 26.1	5 21.7	1 4.3	1 4.3	3 13.0	2 8.7	0 0.0
50～59歳 (n=29)	14 48.3	0 0.0	2 6.9	6 20.7	2 6.9	4 13.8	15 51.7	0 0.0	0 0.0	1 3.4	1 3.4	0 0.0
60～69歳 (n=32)	9 28.1	1 3.1	3 9.4	5 15.6	2 6.3	3 9.4	11 34.4	2 6.3	1 3.1	3 9.4	0 0.0	4 12.5
70～79歳 (n=29)	5 17.2	1 3.4	1 3.4	5 17.2	2 6.9	5 17.2	6 20.7	2 6.9	1 3.4	8 27.6	4 13.8	3 10.3
80歳以上 (n=4)	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0

問 13 防災・災害対策における次の事項について、女性に配慮して取り組む必要があると思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

防災・災害対策における事項で、女性に配慮して取り組む必要があるものについてみると、全体では各項目で「必要である」が最も高く、5割～6割となっています。『必要である』(「特に必要である」と「必要である」の合計以下同)では、〔③避難所の設置・運営に配慮する〕、〔⑤備蓄(びちく)物資に配慮する〕、〔⑥医療体制に配慮する〕、〔⑦災害復興時における治安をよくする〕で8割以上となっています。

【全体】



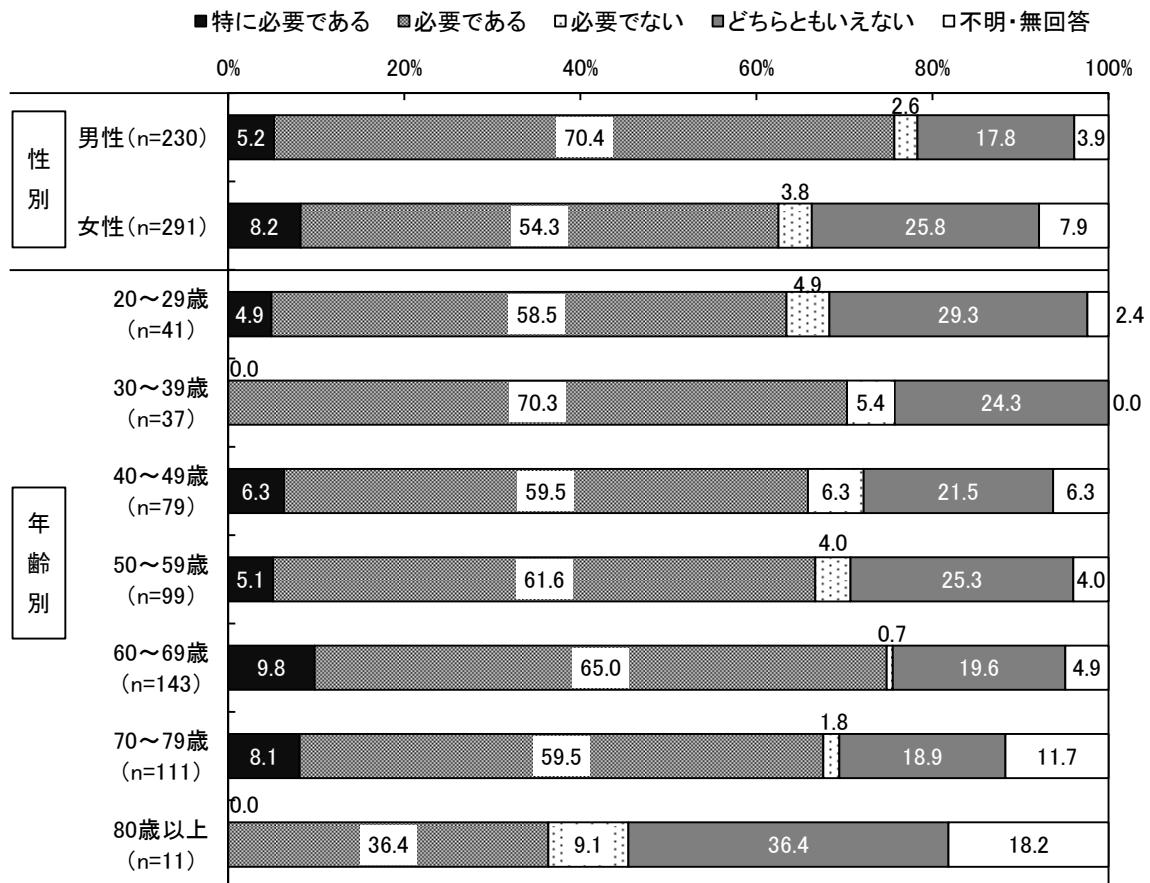
①防災に関する方針決定に女性の参画拡大を行う

性別にみると、男女ともに「必要である」が最も高くなっています。また、男性の『必要である』が 75.6%となっているのに対して、女性が 62.5%と、13.1 ポイントの差がみられます。

年齢別にみると、[70～79 歳]以下で『必要である』が6割以上となっています。

【性別・年齢別】

①防災に関する方針決定に女性の参画拡大を行う



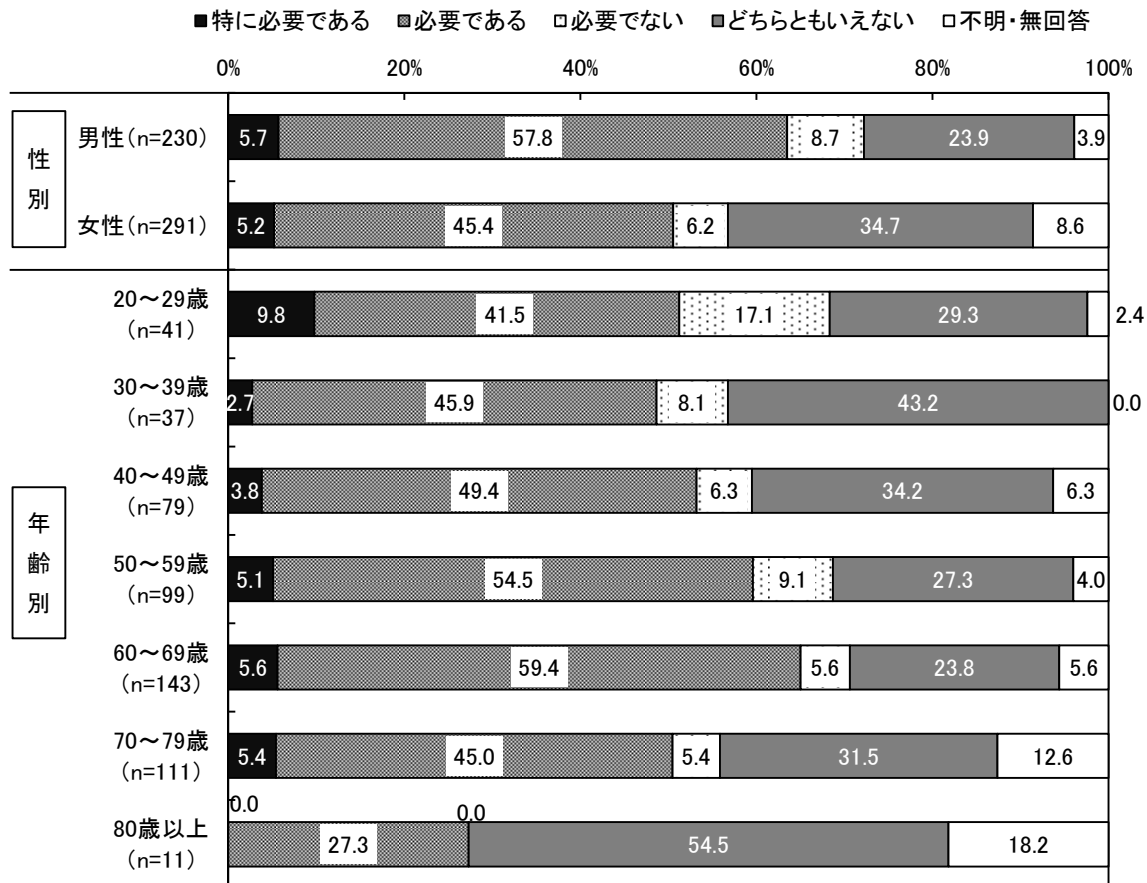
②女性消防職員（団員）・警察官を積極的に採用する

性別にみると、男女ともに「必要である」が最も高くなっています。また、男性の『必要である』が 63.5%となっているのに対して、女性が 50.6%と、12.9 ポイントの差がみられます。

年齢別にみると、[70～79 歳]以下で『必要である』が約5割～6割となっています。

【性別・年齢別】

②女性消防職員（団員）・警察官を積極的に採用する



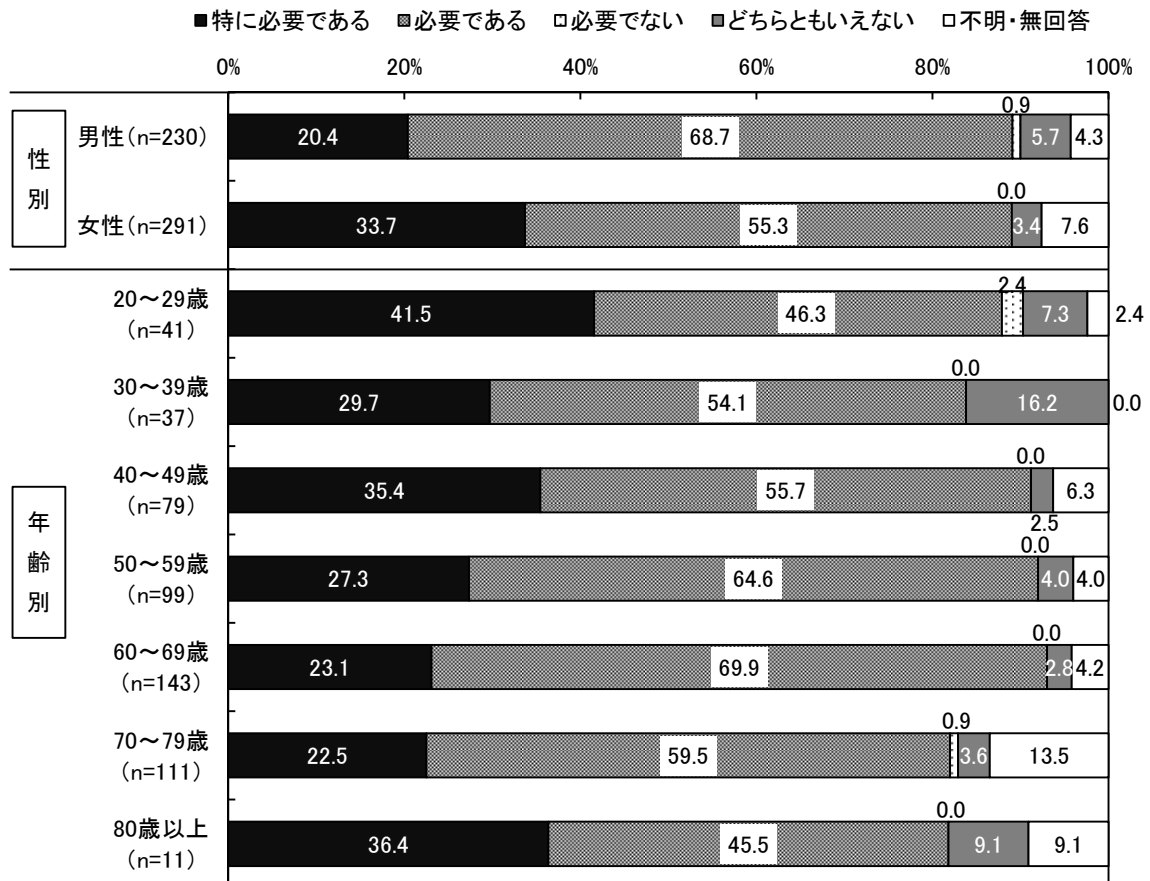
③避難所の設置・運営に配慮する

性別にみると、男女ともに「必要である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、各年齢で『必要である』が8割～9割となっています。

【性別・年齢別】

③避難所の設置・運営に配慮する



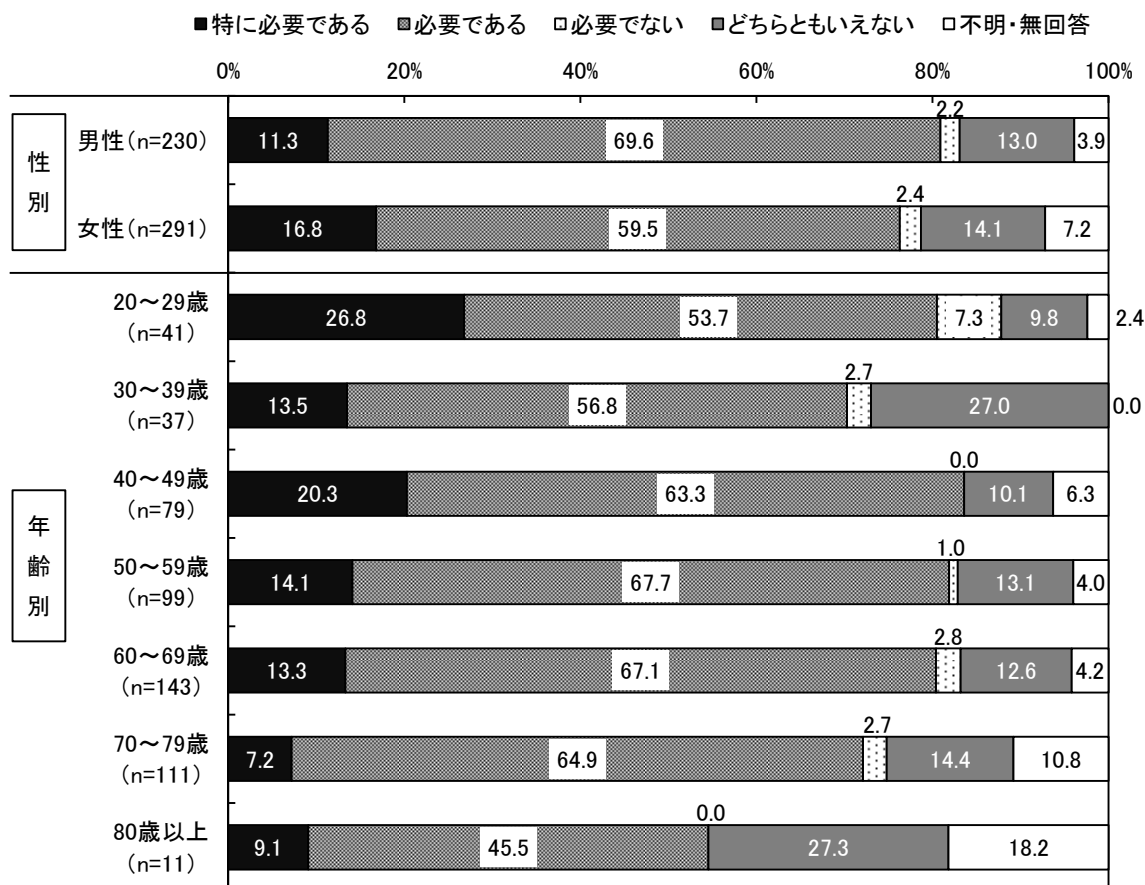
④女性の相談窓口を設置する

性別にみると、男女ともに「必要である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、各年齢で『必要である』が5割を超えており、特に[70～79 歳]以下では7割～8割となっています。

【性別・年齢別】

④女性の相談窓口を設置する



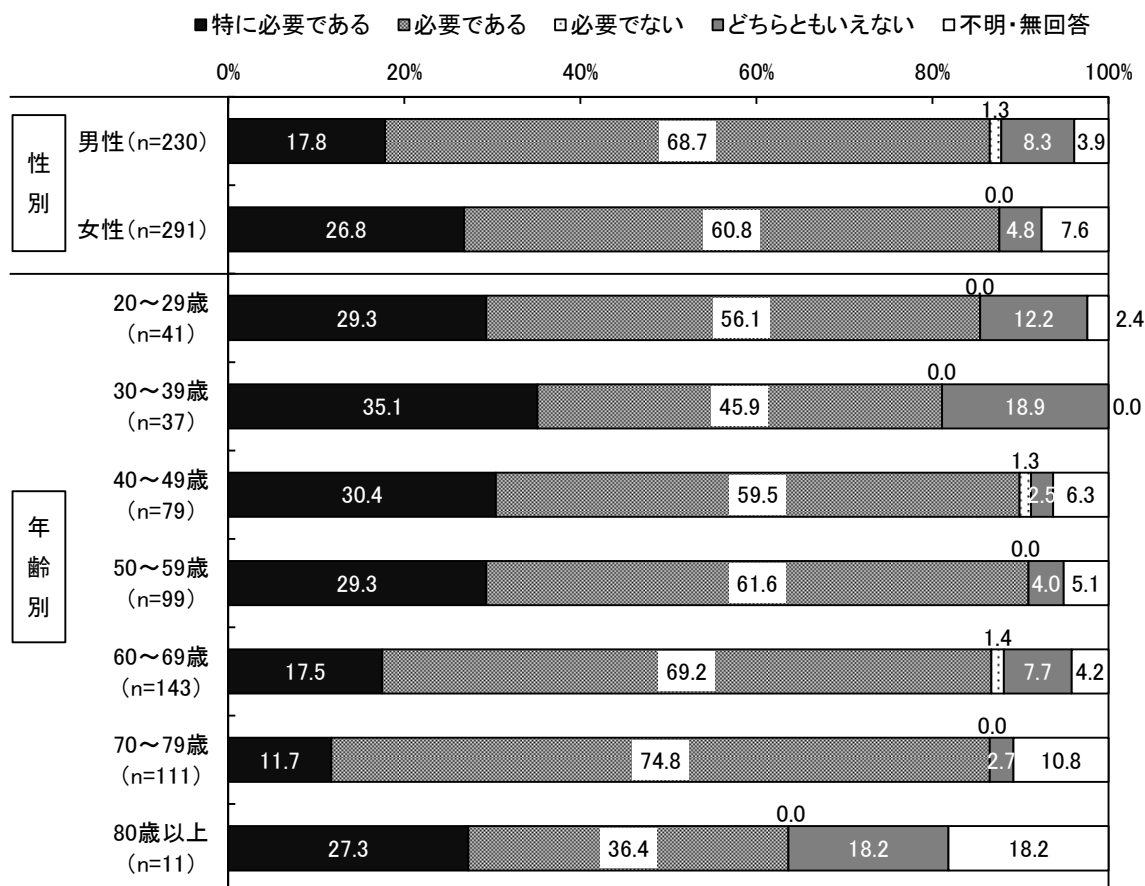
⑤備蓄（びちく）物資に配慮する

性別にみると、男女ともに「必要である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、各年齢で『必要である』が6割を超えており、特に[70～79 歳]以下では8割となっています。

【性別・年齢別】

⑤備蓄（びちく）物資に配慮する



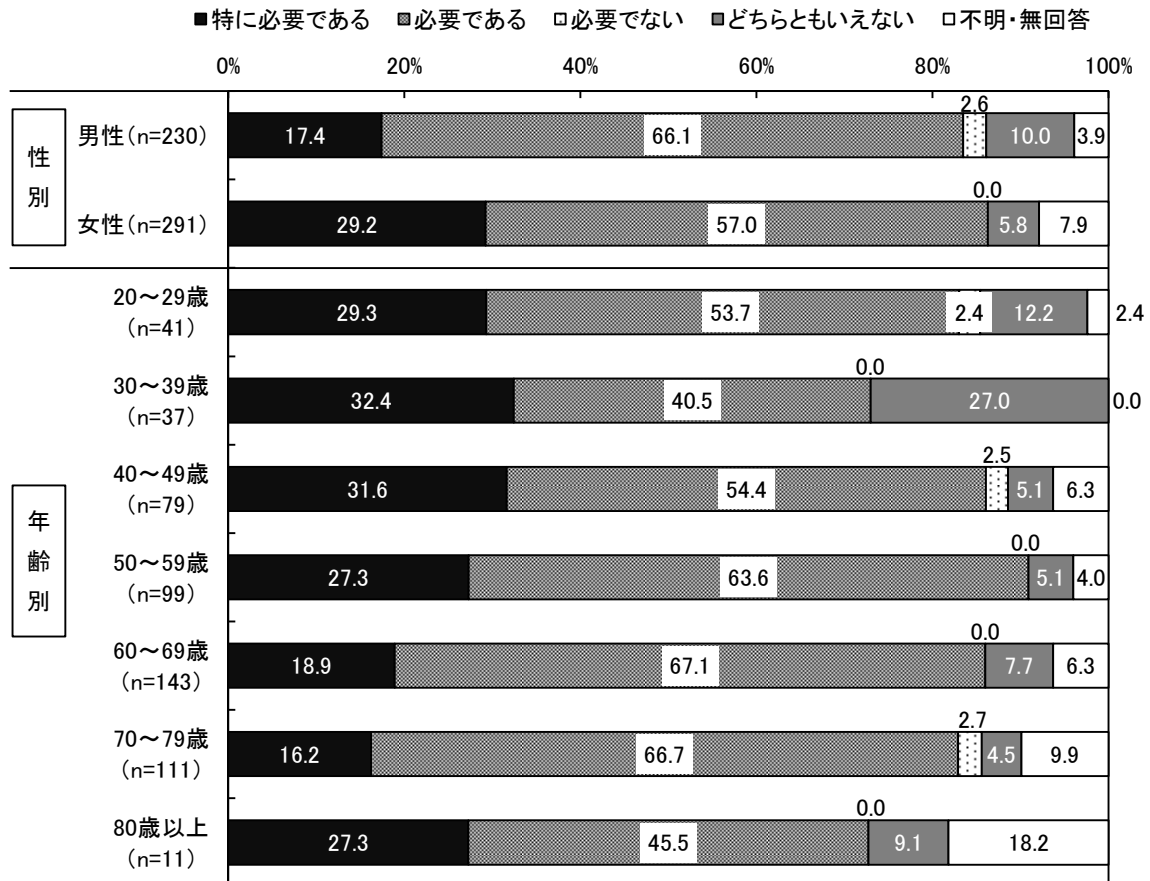
⑥医療体制に配慮する

性別にみると、男女ともに「必要である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、各年齢で『必要である』が7割以上となっています。

【性別・年齢別】

⑥医療体制に配慮する



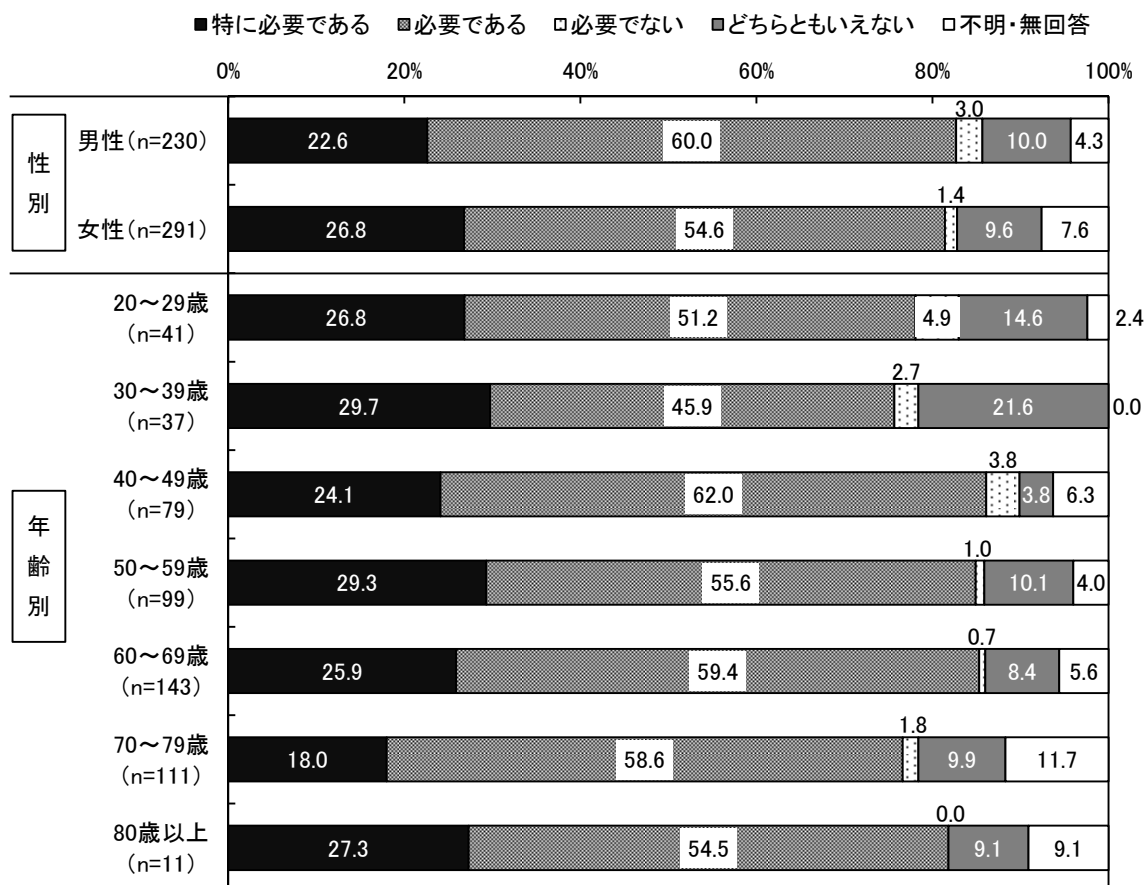
⑦災害復興時における治安をよくする

性別にみると、男女ともに「必要である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、各年齢で『必要である』が7割～8割となっています。

【性別・年齢別】

⑦災害復興時における治安をよくする



4 就労・働き方についておたずねします。

問 14 女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。考えに最も近いものをお答えください。(○は1つ)

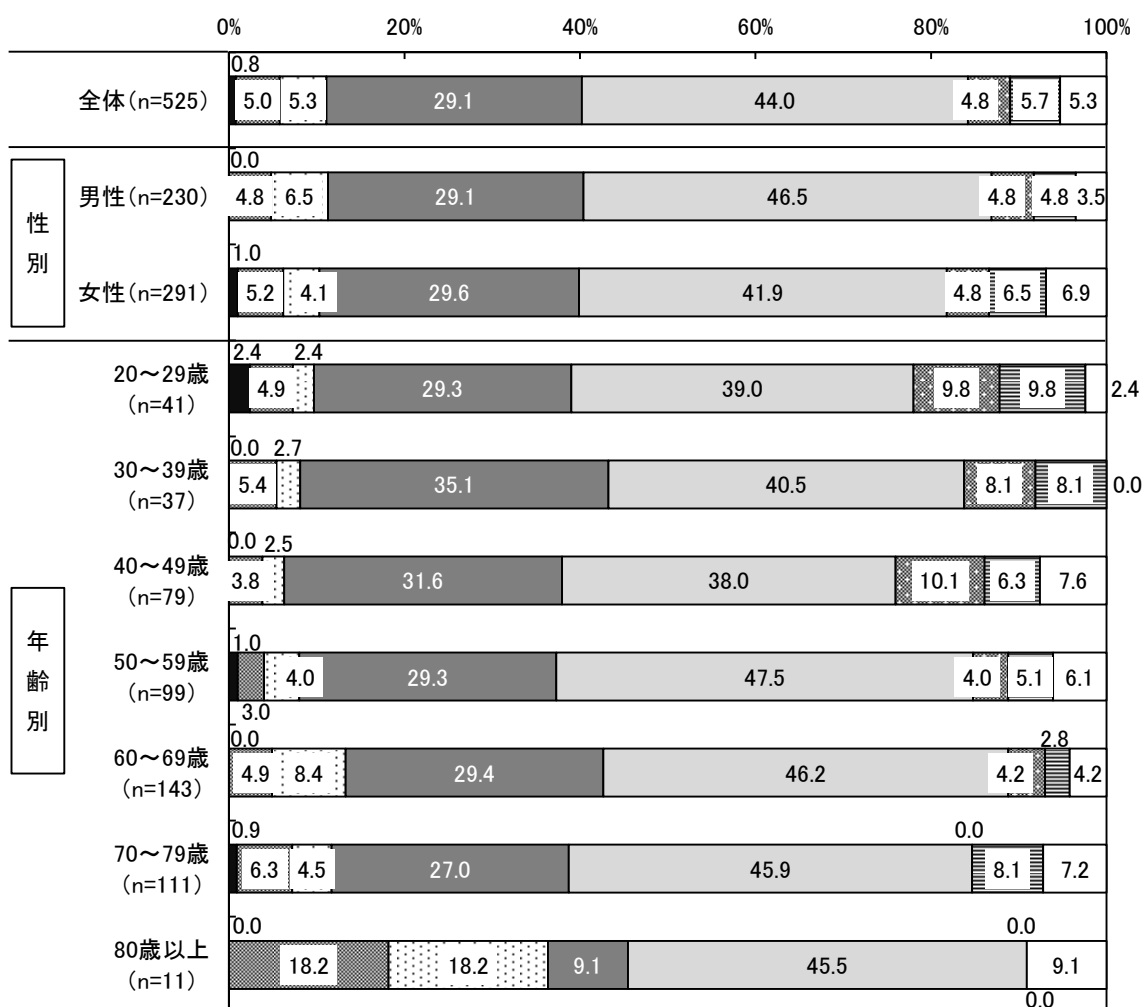
女性が職業をもつことについてみると、全体では「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が44.0%と最も高く、次いで「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が29.1%となっています。

性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向がみられ、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」では、男性(46.5%)が女性(41.9%)を若干上回っています。

年齢別にみると、各年齢で「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が最も高くなっています。

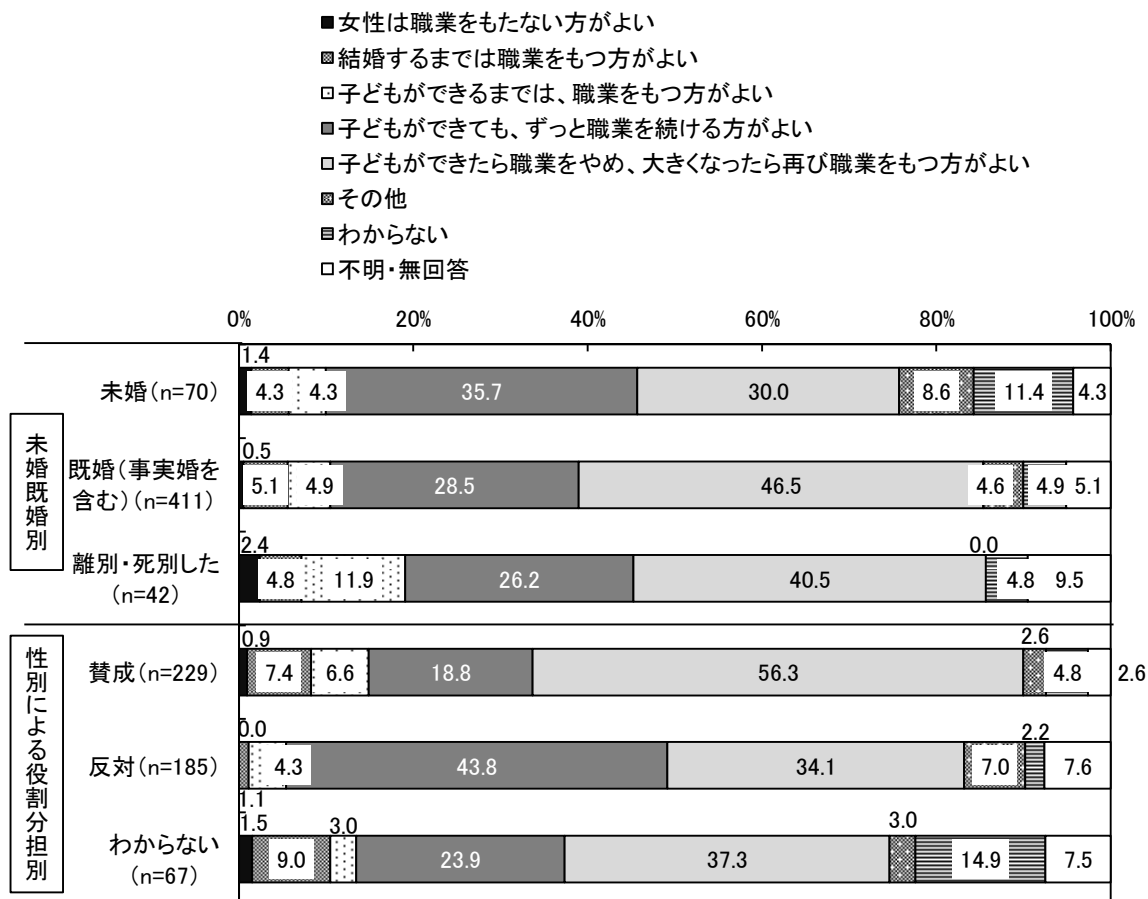
【全体・性別・年齢別】

- 女性は職業をもたない方がよい
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- その他
- わからない
- 不明・無回答



未婚既婚別にみると、[未婚]では「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」が最も高くなっています。
性別による役割分担別にみると、[反対]では「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」が最も高くなっています。

【未婚既婚別・性別による役割分担別】



※性別による役割分担別：『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」を統合）
 『反対』（「反対」と「どちらかといえば反対」を統合） 以下同

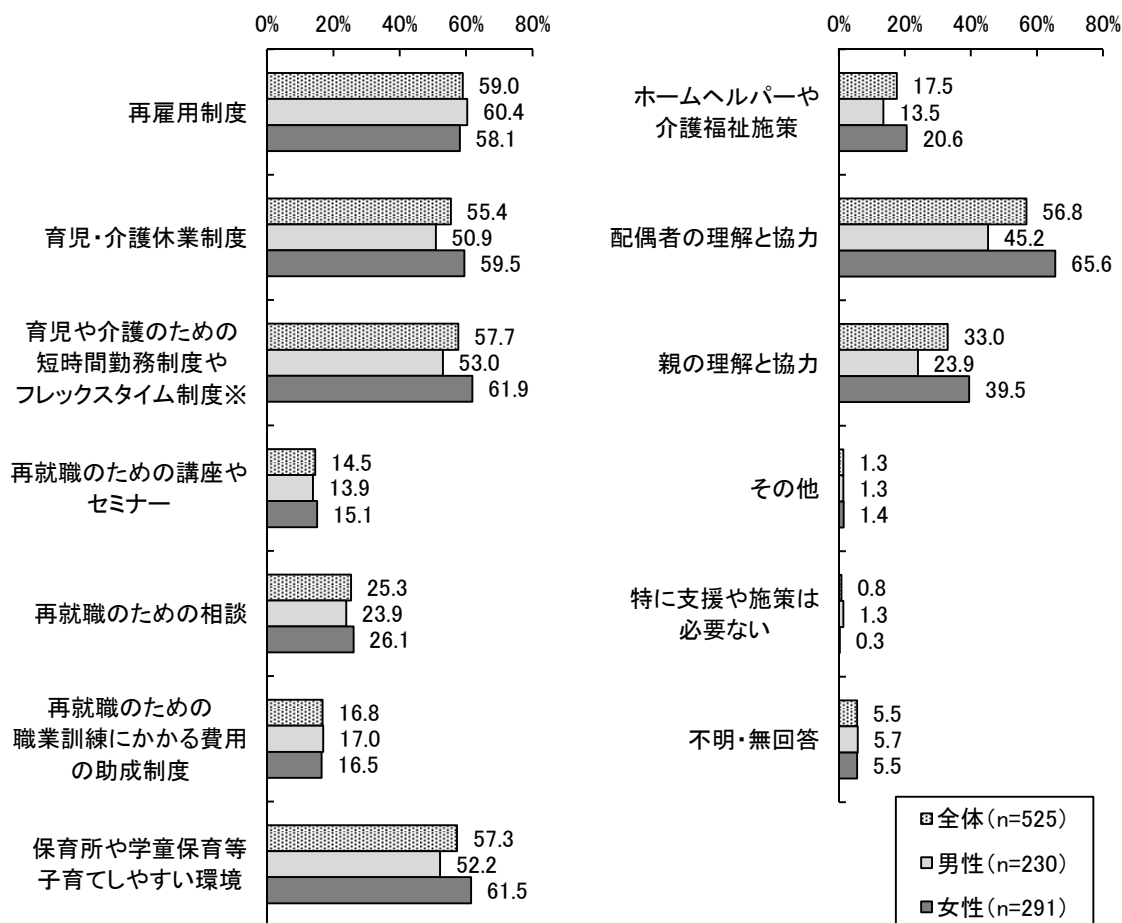
問 15 子育て、介護、家事等のために一旦仕事をやめた後、再就職等を希望する場合、特にどのような支援や施策が役に立つと思いますか。（〇はあてはまるものすべて）

※フレックスタイム制度とは、1日のうちで必ず就業する時間を定め、始業・終業の時刻を労働者自身が決定できる制度のことを言います。

再就職等を希望する場合の役に立つ支援や施策についてみると、全体では「再雇用制度」が 59.0%と最も高く、次いで「育児や介護のための短時間勤務制度やフレックスタイム制度」が 57.7%となっています。

性別にみると、男性では全体と同様の傾向がみられますが、女性では「配偶者の理解と協力」が最も高く、次いで「育児や介護のための短時間勤務制度やフレックスタイム制度」となっています。また、「再雇用制度」、「再就職のための職業訓練にかかる費用の助成制度」、「特に支援や施策は必要ない」以外の項目で、女性が男性を上回っており、特に「配偶者の理解と協力」（男性：45.2%、女性：65.6%）、「親の理解と協力」（男性：23.9%、女性：39.5%）では、それぞれ 20.4 ポイント、15.6 ポイントの差がみられます。

【全体・性別】



年齢別にみると、[20～29 歳]では「育児・介護休業制度」、[30～39 歳]、[50～59 歳]、[60～69 歳]では「再雇用制度」、[40～49 歳]では「育児や介護のための短時間勤務制度やフレックスタイム制度」、[70～79 歳]では「配偶者の理解と協力」、[80 歳以上]では「保育所や学童保育等子育てしやすい環境」が最も高くなっています。

未婚既婚別にみると、[既婚(事実婚を含む)]では「配偶者の理解と協力」が最も高くなっています。

子どもの有無別にみると、[乳幼児(小学校入学前)]のいる家庭では「育児や介護のための短時間勤務制度やフレックスタイム制度」、[小学生]のいる家庭では「配偶者の理解と協力」、[中学生]のいる家庭では「保育所や学童保育等子育てしやすい環境」、[いない]家庭では「再雇用制度」が最も高くなっています。

【年齢別・未婚既婚別・子どもの有無別】

	上段:度数 下段:%	再雇用 制度	育児・ 介護休 業制度	育児や 介護のた めの短 時間勤 務制度 やフレッ クスタイ ム制度	再就職 のための 講座や セミナー	再就職 のための 相談	再就職 のための 職業訓 練にかか る費用の 助成制 度	保育所 や学童 保育等 子育て しやすい 環境	ホーム ヘルパー や介護 福祉施 策	配偶者 の理解と 協力	親の 理解と 協力	その他	特に 支援や 施策は 必要ない	不明・ 無回答
〔年 齢 別〕	20～29歳(n=41)	25 61.0	28 68.3	27 65.9	5 12.2	9 22.0	2 4.9	25 61.0	5 12.2	19 46.3	8 19.5	1 2.4	1 2.4	1 2.4
	30～39歳(n=37)	28 75.7	22 59.5	22 59.5	2 5.4	10 27.0	6 16.2	24 64.9	2 5.4	20 54.1	12 32.4	2 5.4	1 2.7	0 0.0
	40～49歳(n=79)	39 49.4	46 58.2	56 70.9	17 21.5	24 30.4	16 20.3	46 58.2	11 13.9	52 65.8	22 27.8	1 1.3	0 0.0	5 6.3
	50～59歳(n=99)	66 66.7	55 55.6	65 65.7	15 15.2	23 23.2	19 19.2	65 65.7	20 20.2	62 62.6	33 33.3	2 2.0	0 0.0	4 4.0
	60～69歳(n=143)	98 68.5	85 59.4	82 57.3	21 14.7	40 28.0	24 16.8	85 59.4	34 23.8	88 61.5	52 36.4	1 0.7	0 0.0	4 2.8
	70～79歳(n=111)	48 43.2	49 44.1	47 42.3	16 14.4	26 23.4	19 17.1	49 44.1	16 14.4	52 46.8	40 36.0	0 0.0	2 1.8	14 12.6
	80歳以上(n=11)	4 36.4	5 45.5	3 27.3	0 0.0	0 0.0	1 9.1	6 54.5	3 27.3	3 27.3	4 36.4	0 0.0	0 0.0	1 9.1
	未婚(n=70)	45 64.3	45 64.3	43 61.4	9 12.9	15 21.4	9 12.9	42 60.0	9 12.9	30 42.9	17 24.3	1 1.4	1 1.4	3 4.3
〔未 婚 既 婚 別〕	既婚(事実婚を 含む)(n=411)	241 58.6	222 54.0	243 59.1	63 15.3	108 26.3	72 17.5	236 57.4	75 18.2	250 60.8	142 34.5	5 1.2	3 0.7	22 5.4
	離別・死別した (n=42)	24 57.1	23 54.8	17 40.5	4 9.5	10 23.8	7 16.7	23 54.8	8 19.0	17 40.5	12 28.6	1 2.4	0 0.0	4 9.5
	乳幼児(小学校入 学前)(n=49)	27 55.1	25 51.0	35 71.4	5 10.2	15 30.6	10 20.4	34 69.4	5 10.2	29 59.2	19 38.8	1 2.0	0 0.0	1 2.0
	小学生(n=44)	24 54.5	19 43.2	25 56.8	5 11.4	10 22.7	6 13.6	26 59.1	6 13.6	29 65.9	11 25.0	1 2.3	1 2.3	1 2.3
	中学生(n=26)	13 50.0	14 53.8	13 50.0	3 11.5	7 26.9	4 15.4	17 65.4	2 7.7	16 61.5	6 23.1	0 0.0	0 0.0	3 11.5
	いない(n=246)	156 63.4	144 58.5	142 57.7	37 15.0	56 22.8	40 16.3	138 56.1	47 19.1	134 54.5	79 32.1	3 1.2	1 0.4	10 4.1
	子どもの有無別													

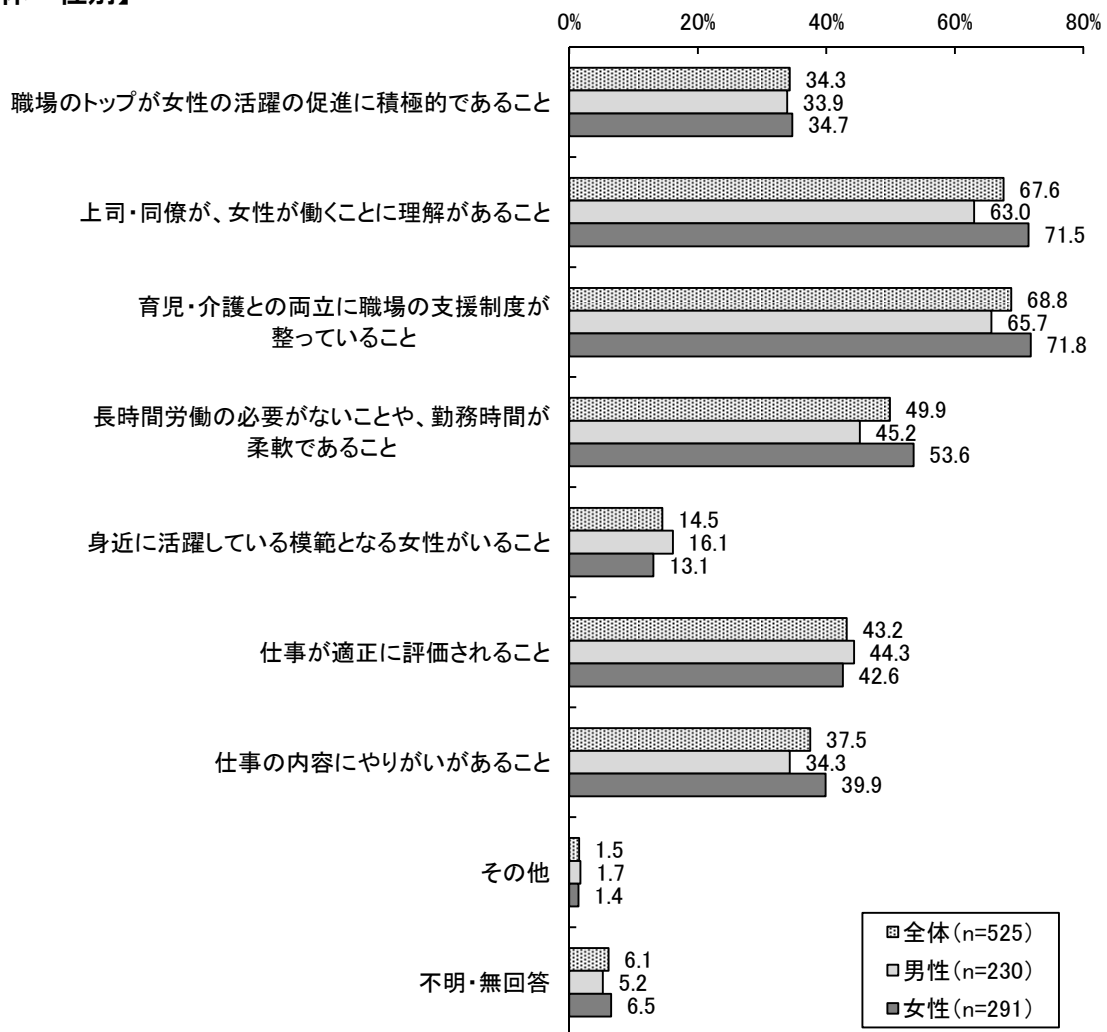
問 16 女性が活躍できる仕事・職場環境にするためには、何が必要だと思いますか。

(〇はあてはまるものすべて)

女性が活躍できる仕事・職場環境にするために必要なことについてみると、全体では「育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること」が 68.8%と最も高く、次いで「上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」が 67.6%となっています。

性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向がみられますが、割合では上位2つとも女性が男性を上回っています。また、「上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」(男性:63.0%、女性:71.5%)、「長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること」(男性:45.2%、女性:53.6%)などは、それぞれ 8.5 ポイント、8.4 ポイントの差がみられます。

【全体・性別】



年齢別にみると、[50～59 歳]以下では「育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること」、[60～69 歳]以上では「上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」が最も高くなっています。

【年齢別】

上段:度数 下段:%	職場のトップが女性の活躍の促進に積極的であること	上司・同僚が、女性が働くことに理解があること	育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること	長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること	身近に活躍している模範となる女性がいること	仕事に適正に評価されること	仕事の内容にやりがいがあること	その他	不明・無回答
20～29歳 (n=41)	14 34.1	25 61.0	27 65.9	19 46.3	4 9.8	12 29.3	8 19.5	1 2.4	1 2.4
30～39歳 (n=37)	10 27.0	27 73.0	28 75.7	23 62.2	9 24.3	21 56.8	16 43.2	0 0.0	0 0.0
40～49歳 (n=79)	25 31.6	48 60.8	54 68.4	45 57.0	15 19.0	39 49.4	27 34.2	3 3.8	5 6.3
50～59歳 (n=99)	39 39.4	69 69.7	78 78.8	54 54.5	14 14.1	37 37.4	35 35.4	1 1.0	7 7.1
60～69歳 (n=143)	56 39.2	103 72.0	102 71.3	70 49.0	21 14.7	71 49.7	60 42.0	0 0.0	4 2.8
70～79歳 (n=111)	33 29.7	72 64.9	65 58.6	46 41.4	11 9.9	42 37.8	45 40.5	3 2.7	13 11.7
80歳以上 (n=11)	2 18.2	9 81.8	7 63.6	3 27.3	2 18.2	4 36.4	5 45.5	0 0.0	1 9.1

問 17 中学生以下の子どもがいる方（問5で「乳幼児（小学校入学前）」「小学生」「中学生」とお答えの方）、または家族に介護が必要な高齢者がいる方（問6で「同居で介護が必要な家族がいる」「別居で介護が必要な家族がいる」とお答えの方）におうかがいします。

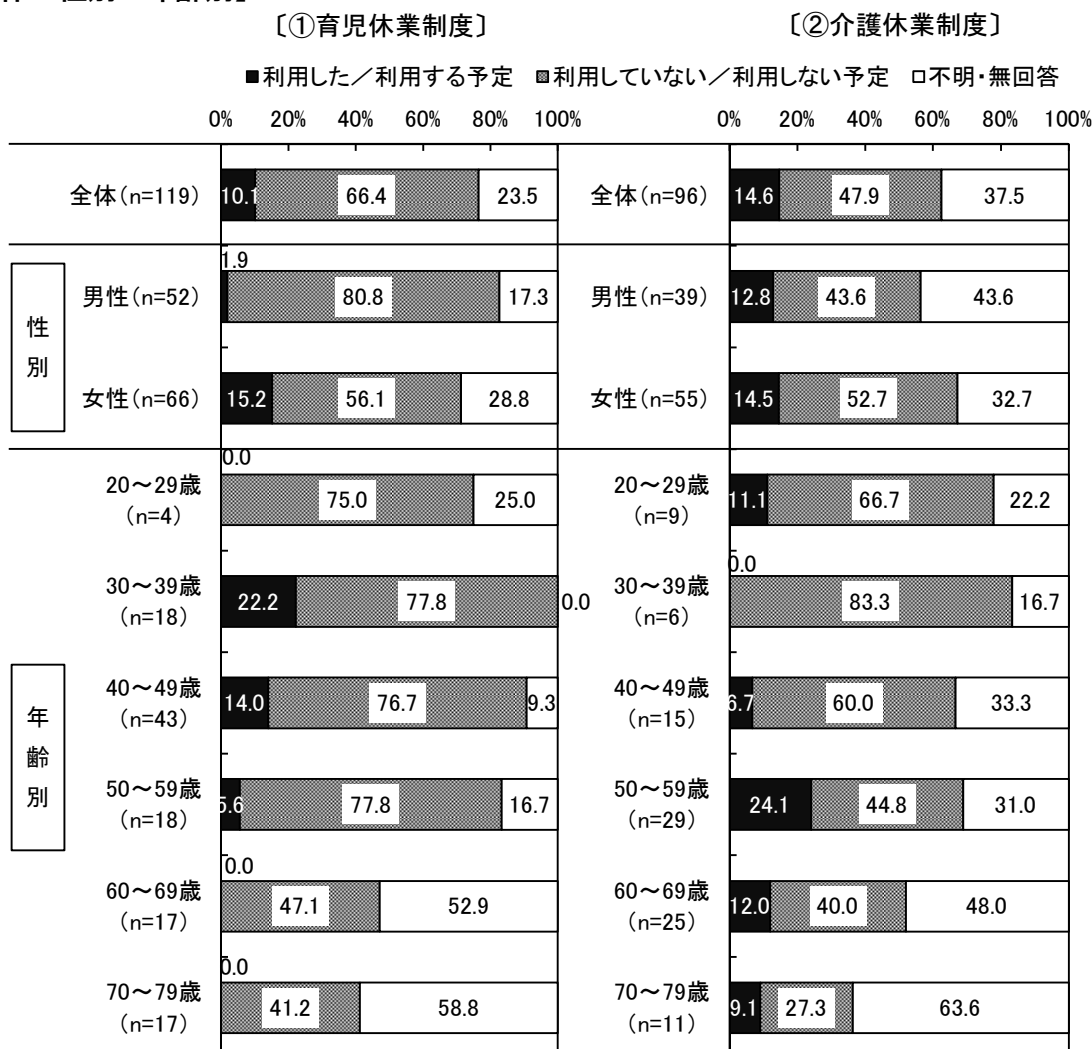
あなたは、育児休業・介護休業制度を利用されましたか。また、今後利用する予定がありますか。（○はそれぞれ1つ）

育児休業・介護休業制度の利用状況についてみると、全体では「利用していない／利用しない予定」が、〔育児休業制度〕で66.4%、〔介護休業制度〕で47.9%となっています。

性別にみると、「利用した／利用する予定」が、女性では〔育児休業制度〕、〔介護休業制度〕ともに1割台なのに対して、男性では〔育児休業制度〕で1割以下となっています。

年齢別にみると、「利用した／利用する予定」が〔育児休業制度〕においては〔30～39歳〕で2割、〔介護休業制度〕においては〔50～59歳〕が2割と、ほかの年齢に比べて高くなっています。

【全体・性別・年齢別】



※年齢別「80歳以上」：育児休業制度は「不明・無回答」が1件、介護休業制度は回答者なし

問 17-1 問 17 で「利用していない／利用しない予定」とお答えの方におうかがいします。

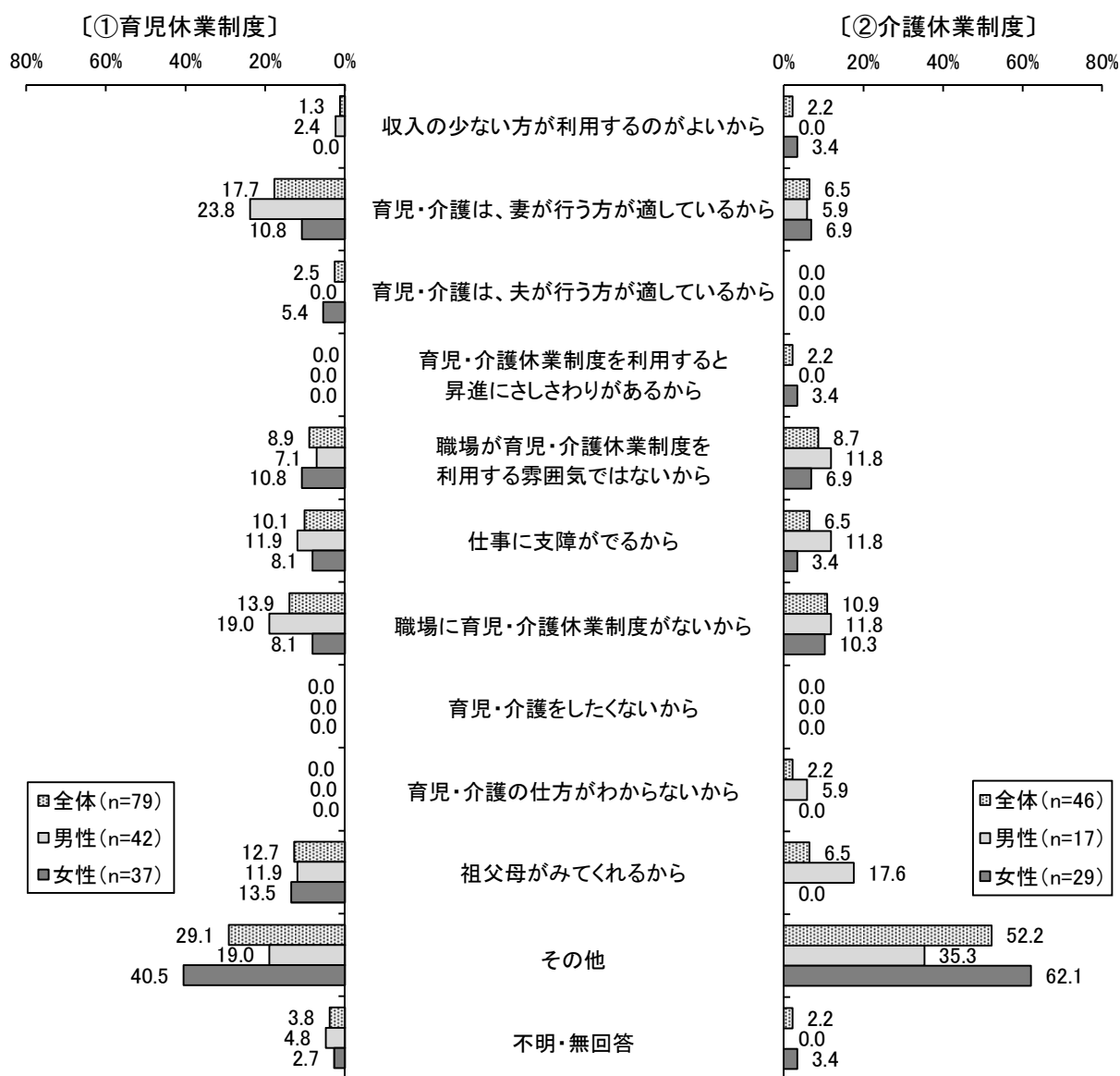
利用しなかった理由について、あなたの考えに最も近いものをお答えください。

(○はそれぞれ 1 つ)

利用しなかった理由についてみると、「その他」を除き、全体では[育児休業制度]において「育児・介護は、妻が行う方が適しているから」が 17.7%、「職場に育児・介護休業制度がないから」が 13.9%となっています。[介護休業制度]においては「職場に育児・介護休業制度がないから」が 10.9%、「職場が育児・介護休業制度を利用する雰囲気ではないから」が 8.7%となっています。

性別にみると、[育児休業制度]においては、男性で「育児・介護は、妻が行う方が適しているから」が最も高く、次いで「職場に育児・介護休業制度がないから」となっています。女性では「祖父母がみてるから」などが高くなっています。[介護休業制度]においては、男性で「祖父母がみてるから」、女性では「職場に育児・介護休業制度がないから」などが高くなっています。

【全体・性別】



問 18 中学生以下の子どもがいる方（問5で「乳幼児（小学校入学前）」「小学生」「中学生」とお答えの方）におうかがいします。

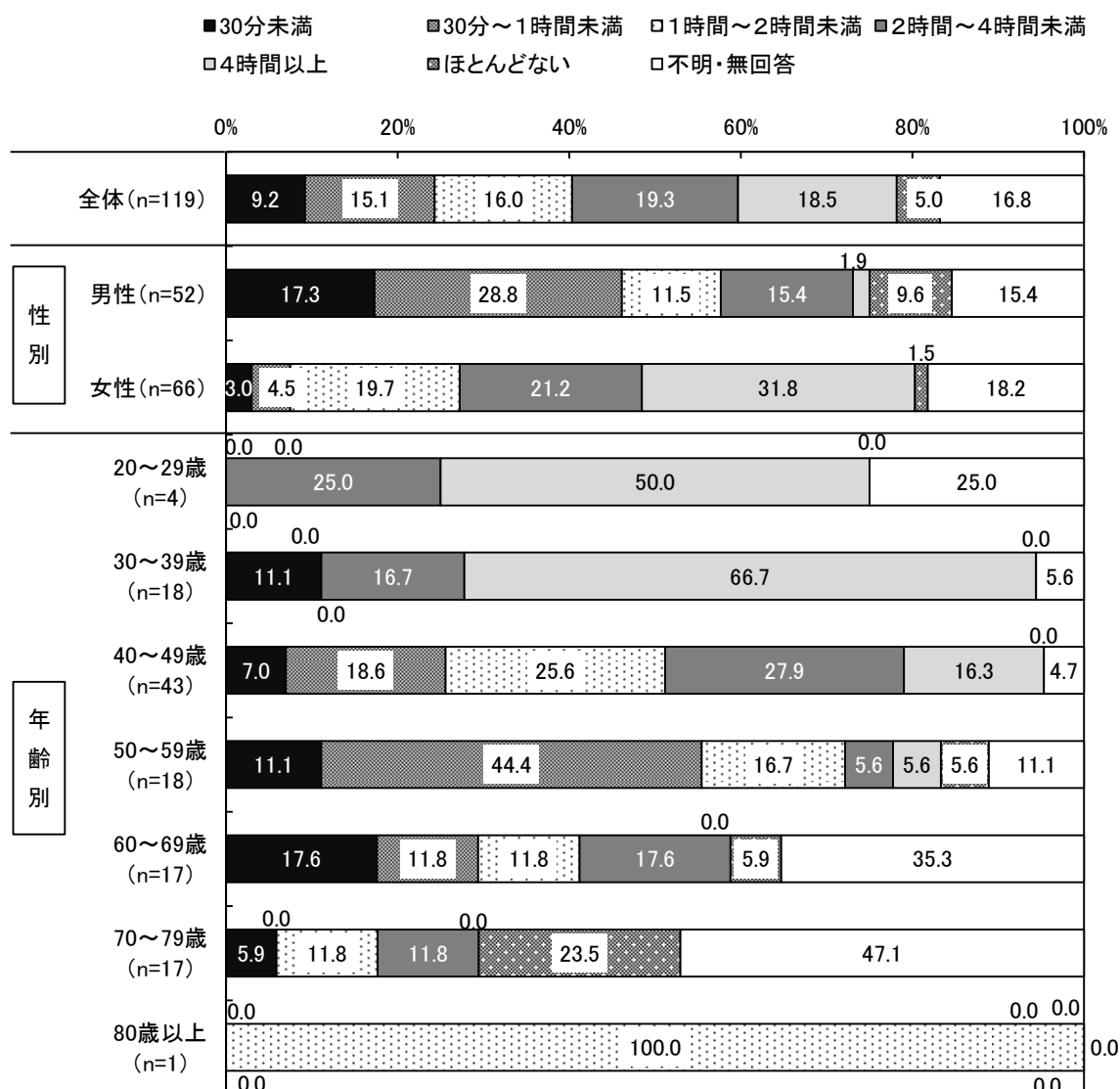
あなたが1日に家事・育児（子どもの食事・入浴の世話や送迎等）に費やす時間はどのくらいですか。（○は1つ）

1日の家事・育児に費やす時間についてみると、全体では「2時間～4時間未満」が19.3%と最も高く、次いで「4時間以上」が18.5%となっています。

性別にみると、男性では「30分～1時間未満」が最も高く、次いで「30分未満」となっているのに対して、女性では「4時間以上」が最も高く、次いで「2時間～4時間未満」となっています。また、男性では「ほとんどない」が約1割となっています。

年齢別にみると、[30～39歳]以下では「4時間以上」、[40～49歳]では「2時間～4時間未満」、[50～59歳]では「30分～1時間未満」が最も高くなっています。

【全体・性別・年齢別】



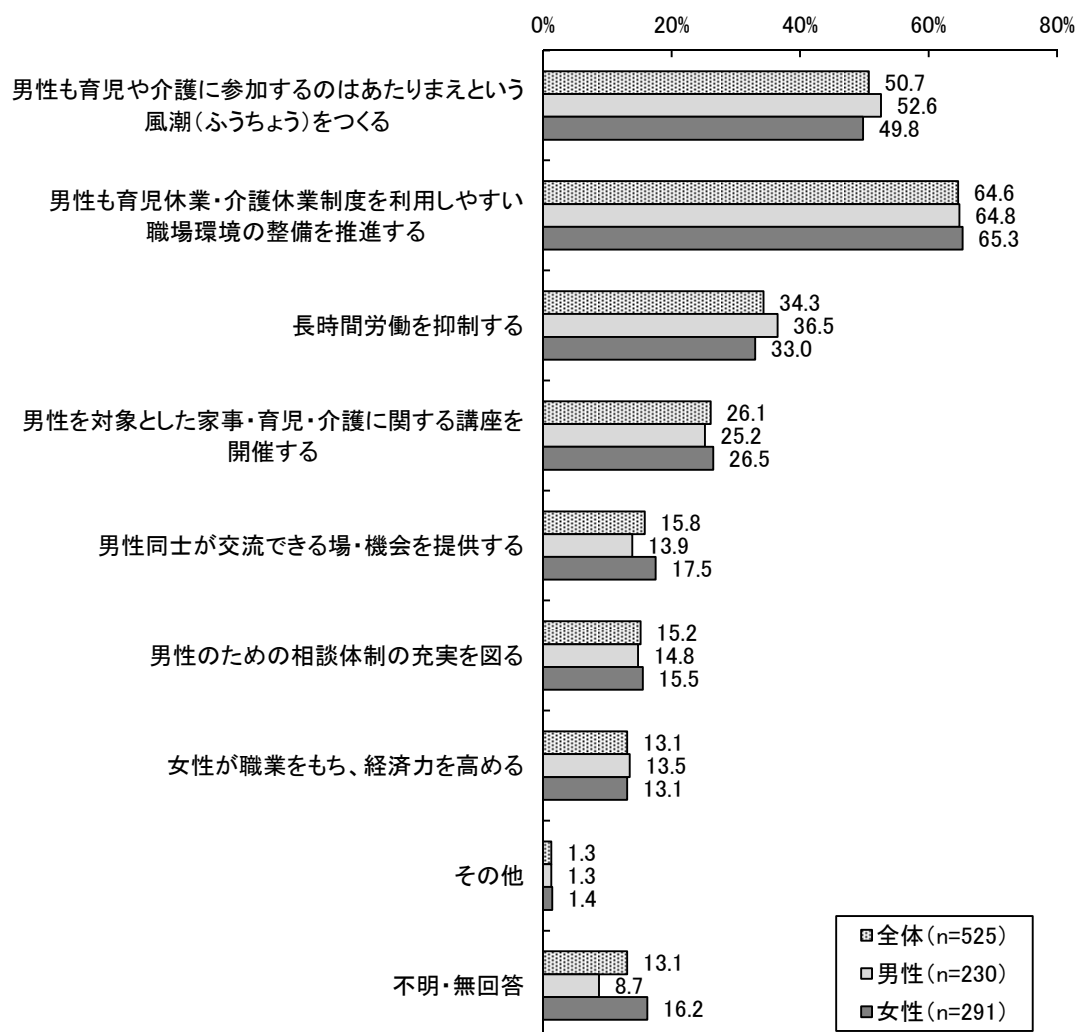
問 19 男性の育児や介護への参加が進んでいないと言われていますが、男女が協力してそれらに関わるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。

(○はあてはまるものすべて)

男女が協力して育児や介護に関わるために必要な取り組みについてみると、全体では「男性も育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備を推進する」が64.6%と最も高く、次いで「男性も育児や介護に参加するのはあたりまえという風潮(ふうちょう)をつくる」が50.7%となっています。

性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向がみられます。

【全体・性別】



年齢別にみると、各年齢で「男性も育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備を推進する」が最も高く、[60～69 歳]以下では6割半ば～7割となっています。また、[30～39 歳]から[60～69 歳]では、「男性も育児や介護に参加するのはあたりまえという風潮（ふうちょう）をつくる」が5割～6割となっています。

【年齢別】

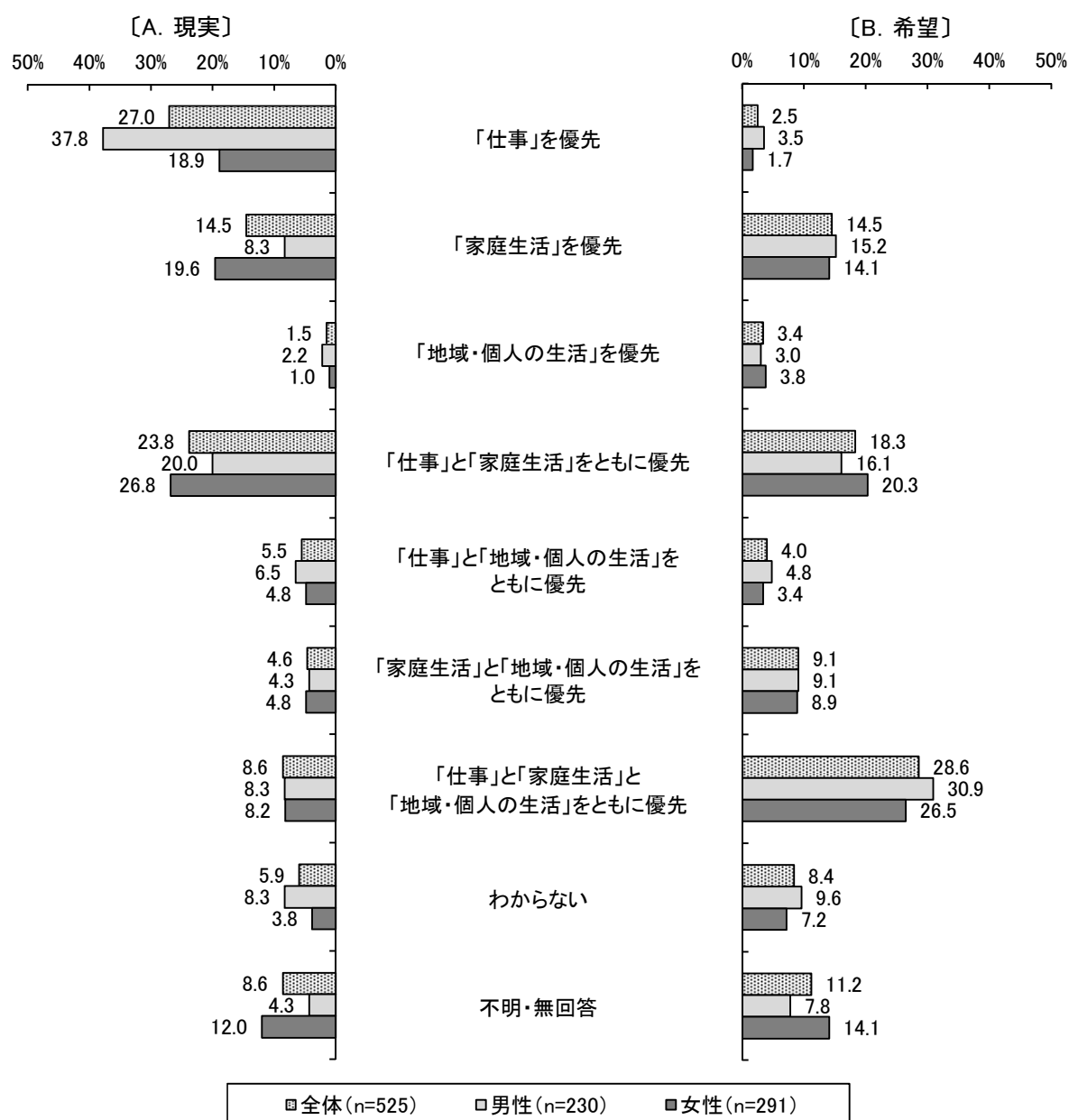
上段:度数 下段:%	男性も育児 や介護に参 加するのは あたりまえ という風潮 (ふうちょう) をつくる	男性も育児 休業・介護 休業制度を 利用しやす い職場環境 の整備を推 進する	長時間労働 を抑制する	男性を対象 とした家事・ 育児・介護 に関する講 座を開催す る	男性同士が 交流できる 場・機会を 提供する	男性のため の相談体制 の充実を図 る	女性が職業 をもち、経 済力を高め る	その他	不明・ 無回答
20～29歳 (n=41)	18 43.9	29 70.7	22 53.7	8 19.5	5 12.2	3 7.3	2 4.9	2 4.9	6 14.6
30～39歳 (n=37)	25 67.6	27 73.0	17 45.9	8 21.6	6 16.2	5 13.5	2 5.4	1 2.7	0 0.0
40～49歳 (n=79)	45 57.0	56 70.9	23 29.1	14 17.7	8 10.1	10 12.7	13 16.5	1 1.3	3 3.8
50～59歳 (n=99)	60 60.6	65 65.7	36 36.4	26 26.3	21 21.2	15 15.2	15 15.2	1 1.0	8 8.1
60～69歳 (n=143)	75 52.4	103 72.0	47 32.9	50 35.0	29 20.3	32 22.4	20 14.0	1 0.7	16 11.2
70～79歳 (n=111)	40 36.0	54 48.6	33 29.7	27 24.3	13 11.7	13 11.7	15 13.5	1 0.9	29 26.1
80歳以上 (n=11)	2 18.2	5 45.5	2 18.2	2 18.2	1 9.1	1 9.1	1 9.1	0 0.0	5 45.5

問 20 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の優先度についておうかがいします。「A. 現実」と「B. 希望」の両方についてお答えください。（〇はそれぞれ1つ）

生活の中での優先度についてみると、全体では[現実]において、「仕事」を優先が 27.0%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先が 23.8%となっています。[希望]においては、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先が 28.6%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先が 18.3%となっています。

性別にみると、[現実]において、男性では全体と同様の傾向がみられますが、女性では「仕事」と「家庭生活」をともに優先が最も高く、次いで「家庭生活」を優先となっています。[希望]においては、男女ともに全体と同様の傾向がみられます。

【全体・性別】



年齢別にみると、〔現実〕においては、〔60～69 歳〕、〔80 歳以上〕を除く各年齢で「仕事」を優先が最も高くなっています。〔今後〕においては、〔70～79 歳〕以下で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先が最も高くなっています。

【年齢別】

〔A. 現実〕

上段:度数 下段:%	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	わからない	不明・無回答
20～29歳 (n=41)	16 39.0	4 9.8	1 2.4	5 12.2	5 12.2	1 2.4	2 4.9	5 12.2	2 4.9
30～39歳 (n=37)	11 29.7	8 21.6	0 0.0	9 24.3	0 0.0	1 2.7	6 16.2	2 5.4	0 0.0
40～49歳 (n=79)	20 25.3	12 15.2	1 1.3	19 24.1	6 7.6	2 2.5	11 13.9	5 6.3	3 3.8
50～59歳 (n=99)	33 33.3	13 13.1	0 0.0	32 32.3	3 3.0	2 2.0	7 7.1	4 4.0	5 5.1
60～69歳 (n=143)	33 23.1	23 16.1	3 2.1	37 25.9	8 5.6	13 9.1	13 9.1	6 4.2	7 4.9
70～79歳 (n=111)	26 23.4	14 12.6	2 1.8	19 17.1	7 6.3	5 4.5	5 4.5	7 6.3	26 23.4
80歳以上 (n=11)	2 18.2	2 18.2	1 9.1	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 9.1	2 18.2

〔B. 希望〕

上段:度数 下段:%	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	わからない	不明・無回答
20～29歳 (n=41)	0 0.0	7 17.1	3 7.3	6 14.6	3 7.3	3 7.3	11 26.8	5 12.2	3 7.3
30～39歳 (n=37)	1 2.7	10 27.0	0 0.0	7 18.9	1 2.7	1 2.7	12 32.4	5 13.5	0 0.0
40～49歳 (n=79)	1 1.3	15 19.0	2 2.5	20 25.3	1 1.3	6 7.6	23 29.1	7 8.9	4 5.1
50～59歳 (n=99)	6 6.1	18 18.2	2 2.0	18 18.2	2 2.0	5 5.1	34 34.3	5 5.1	9 9.1
60～69歳 (n=143)	5 3.5	17 11.9	3 2.1	25 17.5	5 3.5	24 16.8	44 30.8	9 6.3	11 7.7
70～79歳 (n=111)	0 0.0	9 8.1	6 5.4	19 17.1	6 5.4	8 7.2	24 21.6	10 9.0	29 26.1
80歳以上 (n=11)	0 0.0	0 0.0	2 18.2	1 9.1	2 18.2	0 0.0	1 9.1	2 18.2	3 27.3

5 セクハラ・配偶者等からの暴力についておたずねします。

* 立ち入った質問になりますが、調査へのご協力をお願いいたします。なお、この調査は無記名で実施しており、個人が特定されることは一切ございません。

問 21 ドメスティック・バイオレンス、ストーカー行為、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメントについて、経験したり、見聞きしたことがありますか。(〇はそれぞれ1つ)

※ドメスティック・バイオレンス（DV・配偶者、恋人等からの暴力）とは

配偶者や恋人等のパートナーによる、なぐる、ける、物を投げつけるなどの身体的暴力や、ののしる、おどす、無視をするなどの精神的暴力をはじめ、性的暴力や経済的暴力のことを言います。

※セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的いやがらせ）とは

職場、学校、地域活動等において、相手の意に反した攻撃的で屈辱的な性的言動や勧誘により、仕事等をしていく上で、一定の不利益を与えたり、環境を悪化させることを言います。

※パワー・ハラスメントとは

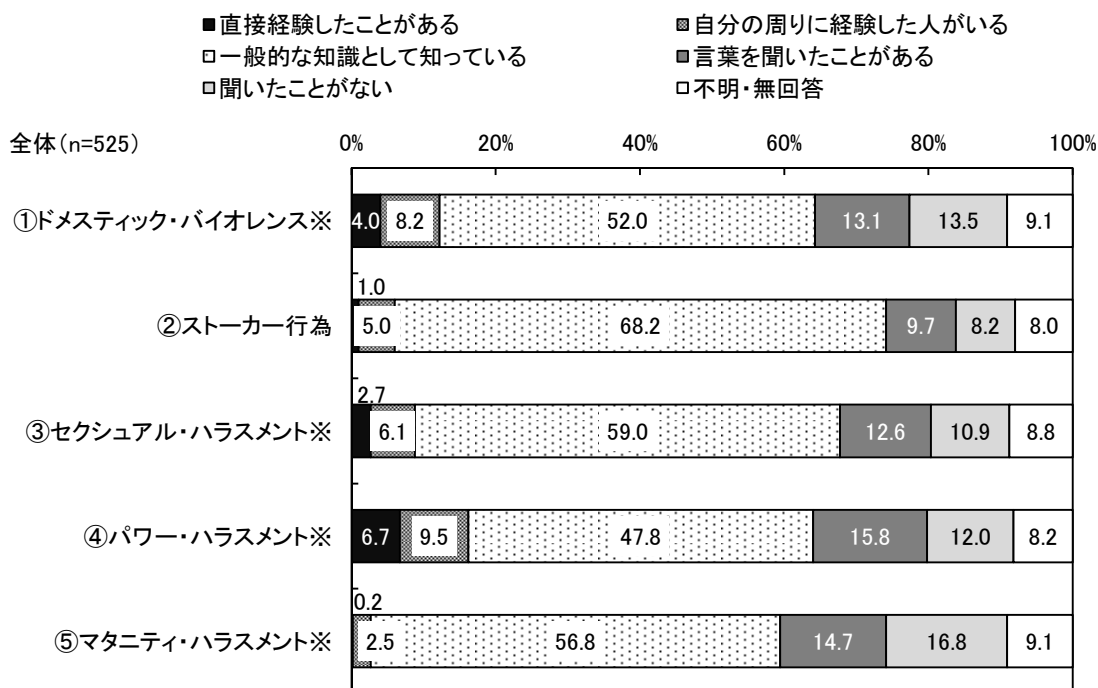
職権等の力を背景にして、本来の業務の範疇（はんちゅう）を超えて、継続的に人格と尊厳を侵害する言動を行い、就業者の働く関係を悪化させ、あるいは雇用不安を与えることを言います。

※マタニティ・ハラスメントとは

職場等において、妊娠・出産した方に対して、妊娠や出産をしたことが業務上支障をきたすという理由で、精神的・肉体的ないやがらせを行う（ひどい場合には退職にまで至る）行為を言います。

セクハラ・配偶者等からの暴力等の経験についてみると、全体では各項目で「一般的な知識として知っている」が最も高く、約5割～約7割となっています。また、[①ドメスティック・バイオレンス]、[④パワー・ハラスメント]で「自分の周りに経験した人がある」が約1割となっています。

【全体】



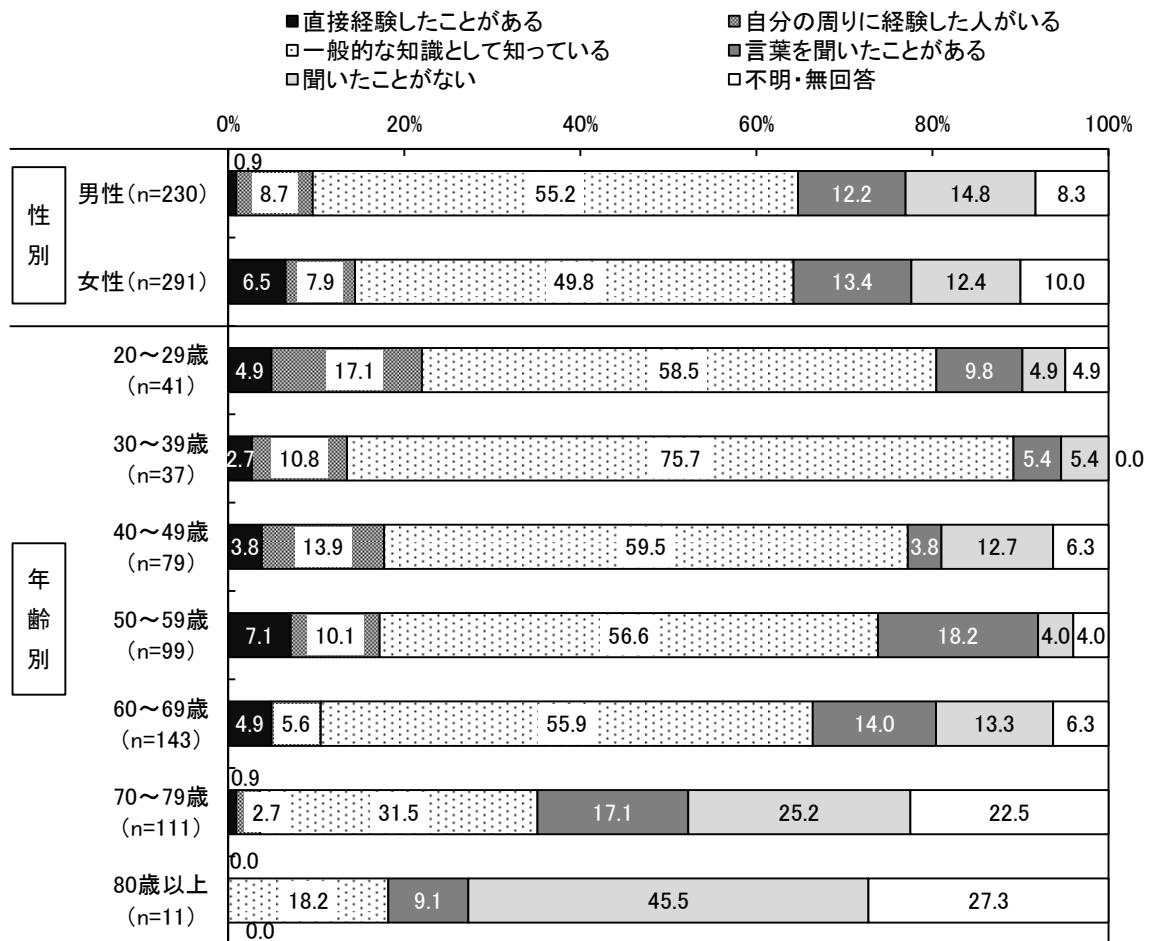
①ドメスティック・バイオレンス

性別にみると、男女ともに「一般的な知識として知っている」が最も高く、約5割～5割半ばとなっています。また、女性で「直接経験したことがある」が6.5%、「自分の周りに経験した人がある」が7.9%となっています。

年齢別にみると、[20～29 歳]、[40～49 歳]、[50～59 歳]で、「直接経験したことがある」と「自分の周りに経験した人がある」を合わせた割合が、1割半ば～2割となっています。

【性別・年齢別】

①ドメスティック・バイオレンス



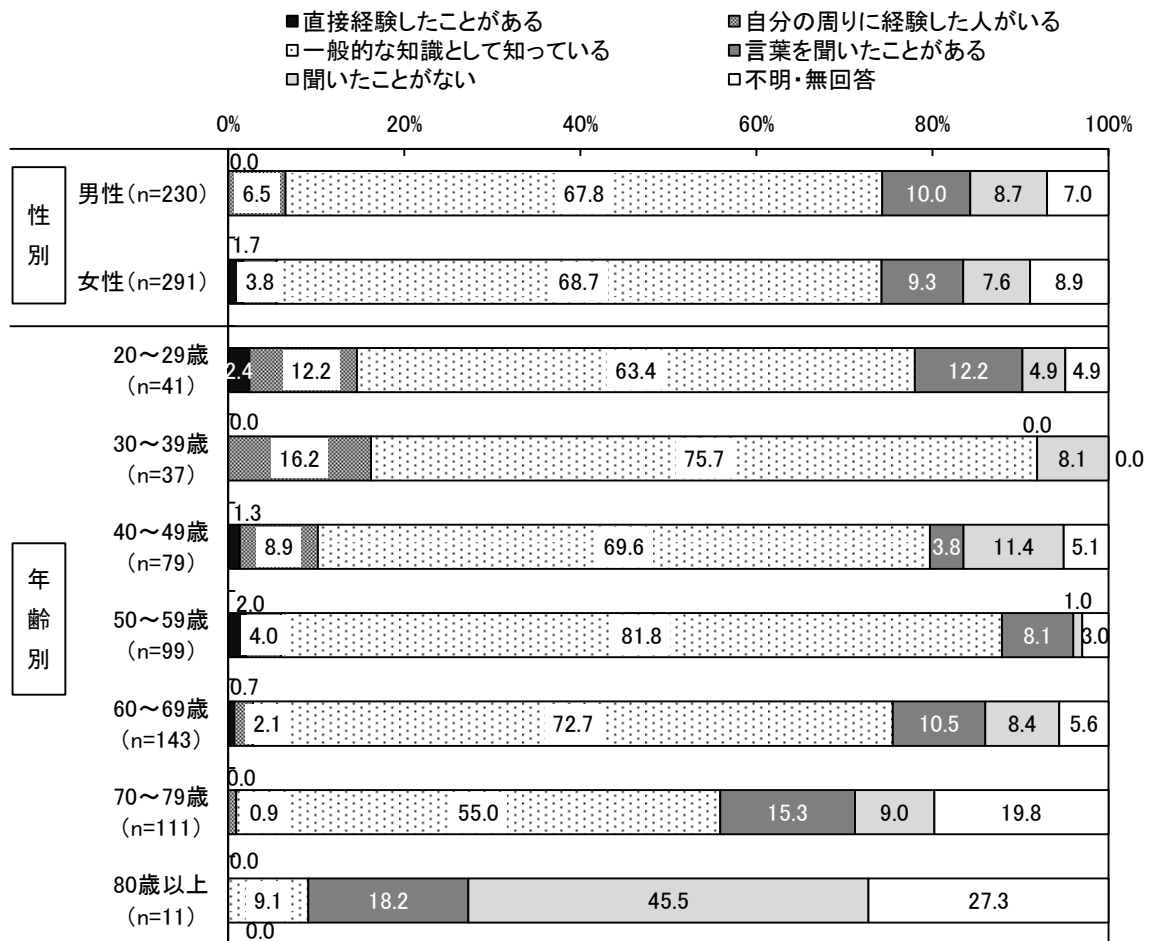
②ストーカー行為

性別にみると、男女ともに「一般的な知識として知っている」が最も高く、約7割となっています。

年齢別にみると、[20～29 歳]から[40～49 歳]で、「直接経験したことがある」と「自分の周りに経験した人がある」を合わせた割合が、1割となっています。

【性別・年齢別】

②ストーカー行為



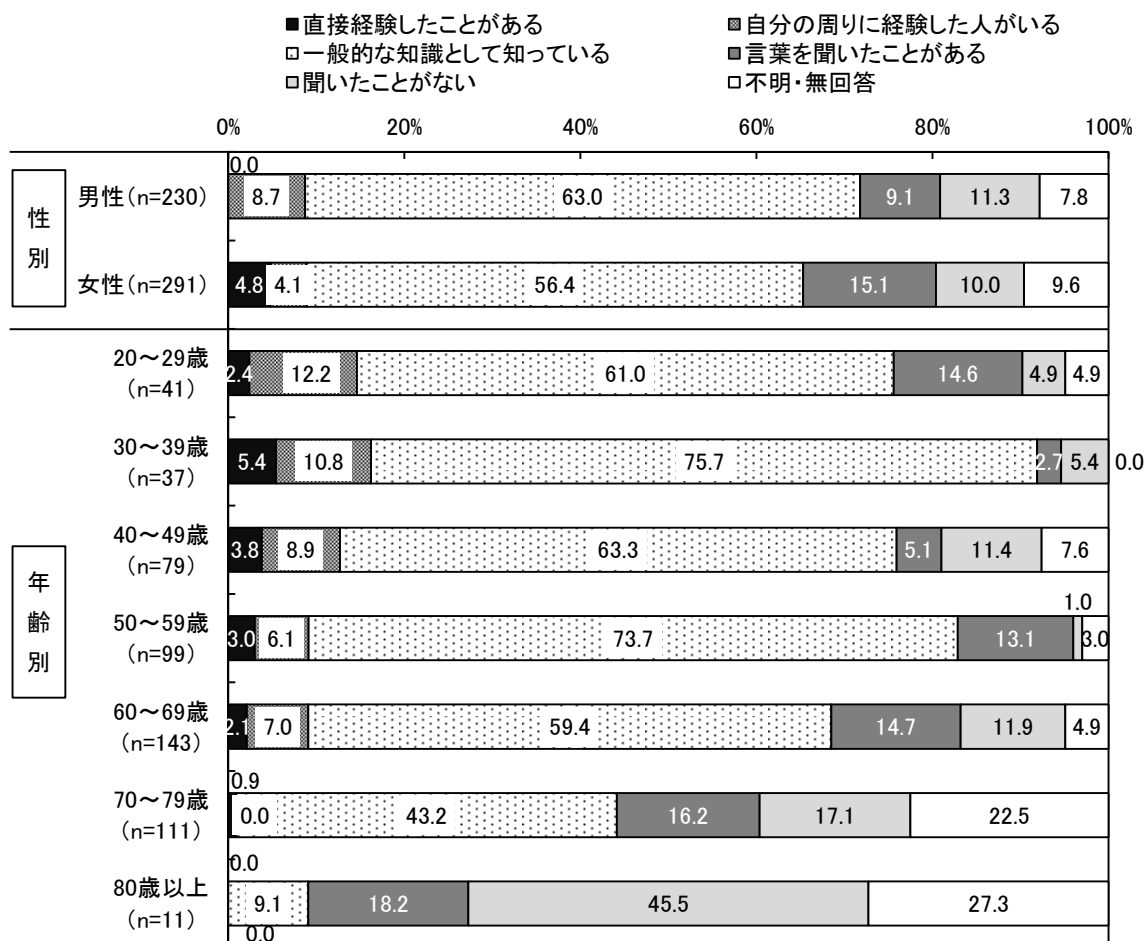
③セクシュアル・ハラスメント

性別にみると、男女ともに「一般的な知識として知っている」が最も高く、5割半ば～6割となっています。

年齢別にみると、[20～29 歳]から[40～49 歳]で、「直接経験したことがある」と「自分の周りに経験した人がある」を合わせた割合が、1割となっています。

【性別・年齢別】

③セクシュアル・ハラスメント



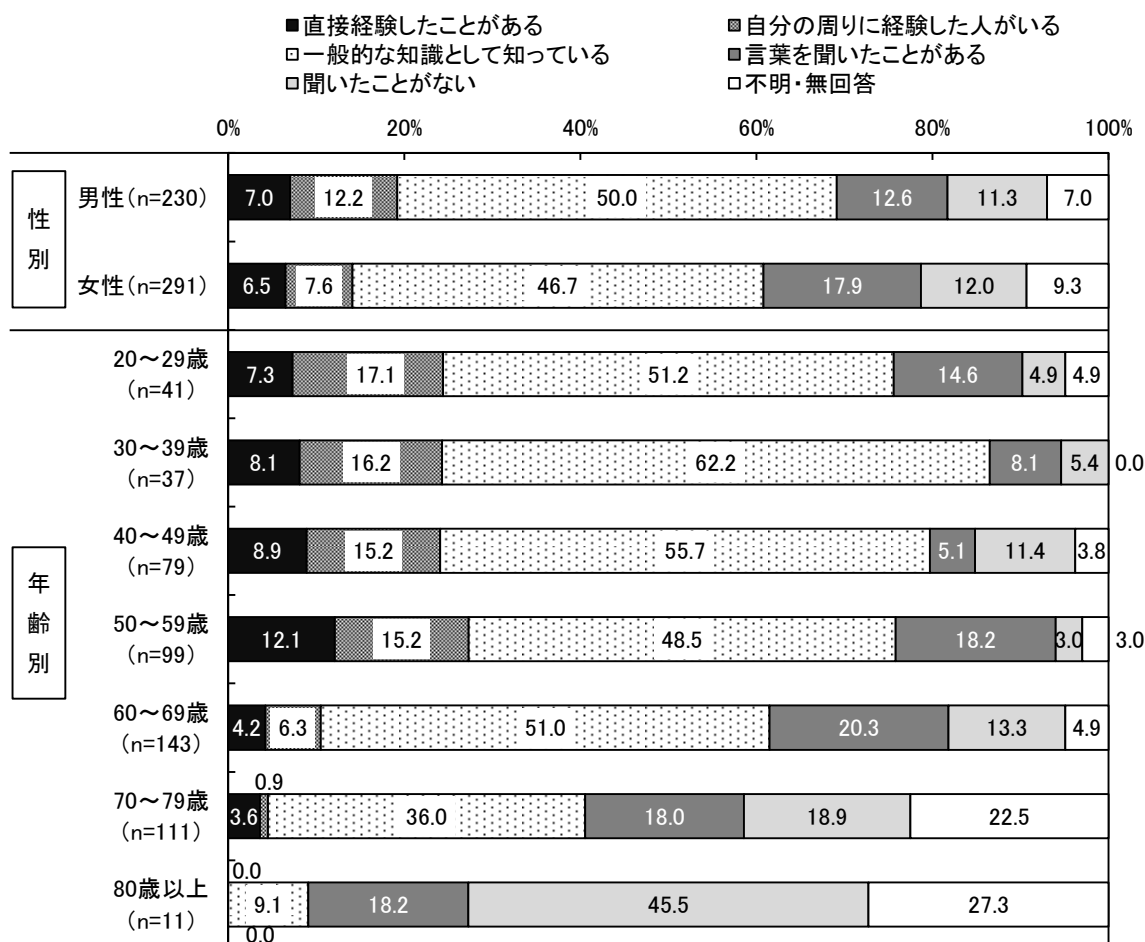
④パワー・ハラスメント

性別にみると、男女ともに「一般的な知識として知っている」が最も高く、4割半ば～5割となっています。また、男性の「直接経験したことがある」、「自分の周りに経験した人がある」が、女性よりも若干上回っています。

年齢別にみると、[50～59 歳]以下で、「直接経験したことがある」と「自分の周りに経験した人がある」を合わせた割合が、2割～約3割となっています。

【性別・年齢別】

④パワー・ハラスメント



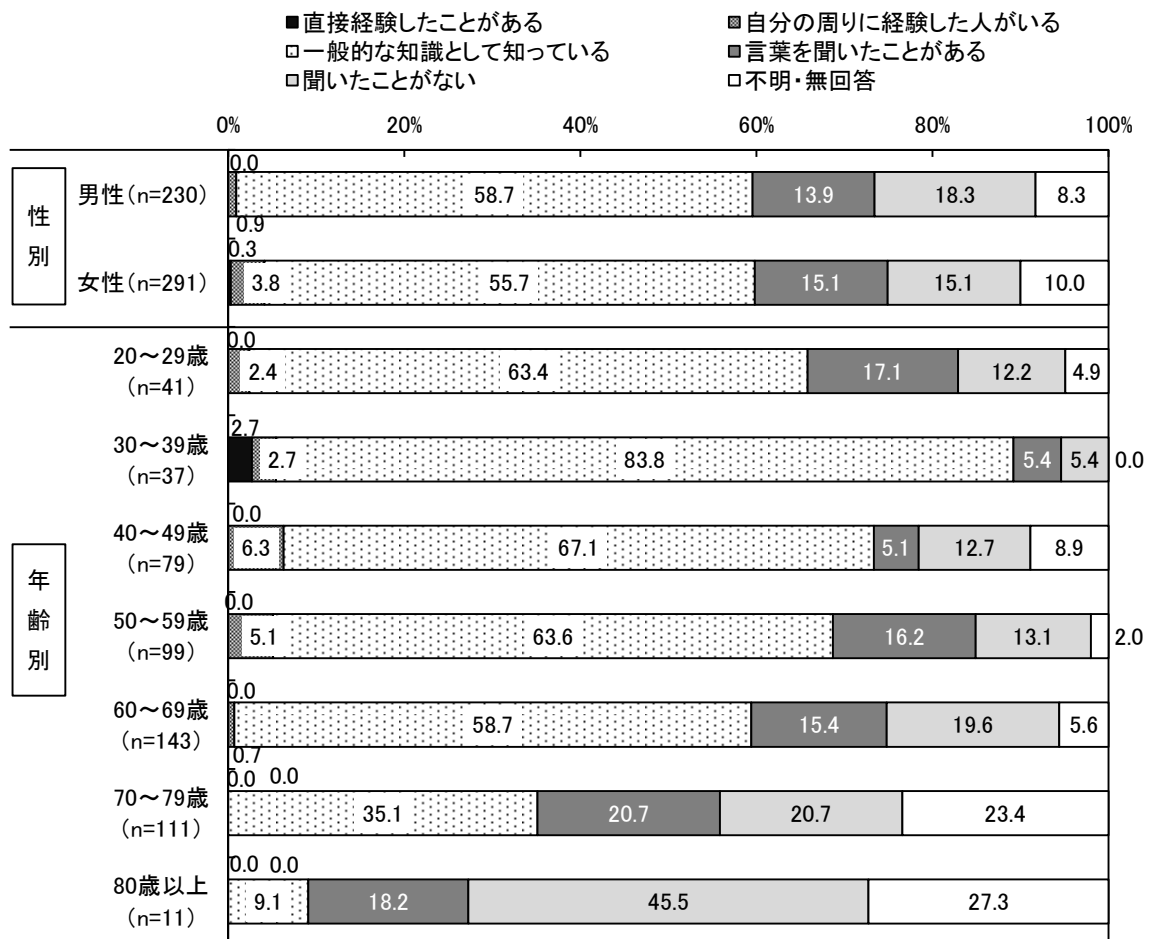
⑤ マタニティ・ハラスメント

性別にみると、男女ともに「一般的な知識として知っている」が最も高く、5割半ば～約6割となっています。

年齢別にみると、[60～69 歳]以下で、「直接経験したことがある」と「自分の周りに経験した人がいる」を合わせた割合が、1割以下となっています。

【性別・年齢別】

⑤ マタニティ・ハラスメント



問 21－1 問 21 で「直接経験したことがある」とお答えの方におうかがいします。

それらの被害を受けたのはどのような場でしたか。

(○はそれぞれあてはまるものすべて)

被害を受けた場所についてみると、全体では[①ドメスティック・バイオレンス]で「家庭」、[②ストーカー行為]、[③セクシュアル・ハラスメント]、[④パワー・ハラスメント]で「職場」が最も高くなっています。

性別にみると、ほとんどが女性の経験者のため、全体と同様の傾向がみられます。

【全体・性別】

〔全体〕	家庭		職場		学校		地域		その他		不明・無回答	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①ドメスティック・バイオレンス (n=21)	16	76.2	1	4.8	0	0.0	1	4.8	1	4.8	2	9.5
②ストーカー行為 (n=5)	1	20.0	2	40.0	1	20.0	1	20.0	1	20.0	0	0.0
③セクシュアル・ハラスメント (n=14)	2	14.3	9	64.3	1	7.1	2	14.3	0	0.0	0	0.0
④パワー・ハラスメント (n=35)	2	5.7	31	88.6	1	2.9	1	2.9	0	0.0	2	5.7
⑤マタニティ・ハラスメント (n=1)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0

〔男性〕	家庭		職場		学校		地域		その他		不明・無回答	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①ドメスティック・バイオレンス (n=2)	1	50.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0
②ストーカー行為 (n=0)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
③セクシュアル・ハラスメント (n=0)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
④パワー・ハラスメント (n=16)	0	0.0	16	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑤マタニティ・ハラスメント (n=0)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

〔女性〕	家庭		職場		学校		地域		その他		不明・無回答	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①ドメスティック・バイオレンス (n=19)	15	78.9	1	5.3	0	0.0	0	0.0	1	5.3	2	10.5
②ストーカー行為 (n=5)	1	20.0	2	40.0	1	20.0	1	20.0	1	20.0	0	0.0
③セクシュアル・ハラスメント (n=14)	2	14.3	9	64.3	1	7.1	2	14.3	0	0.0	0	0.0
④パワー・ハラスメント (n=19)	2	10.5	15	78.9	1	5.3	1	5.3	0	0.0	2	10.5
⑤マタニティ・ハラスメント (n=1)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0

問 21－2 問 21 で「直接経験したことがある」とお答えの方におうかがいします。

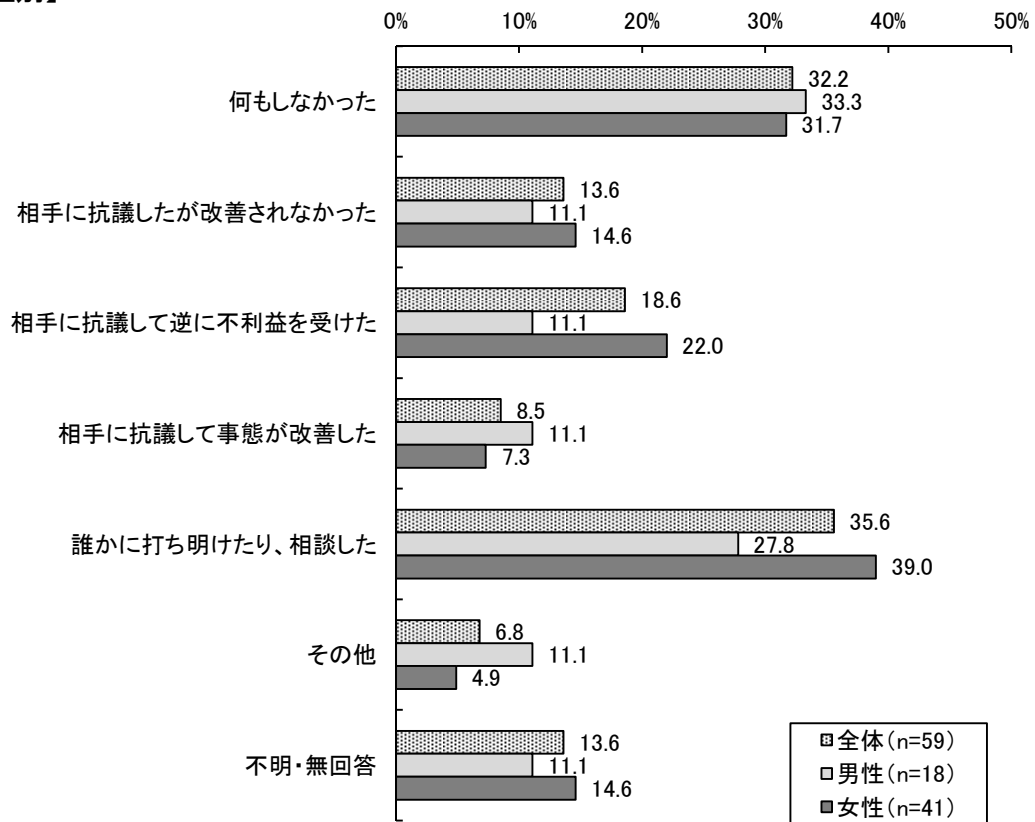
それらの被害を受けた時、あなたはどのように対応しましたか。

(○はあてはまるものすべて)

被害を受けた時の対応についてみると、全体では「誰かに打ち明けたり、相談した」が 35.6%と最も高く、次いで「何もしなかった」が 32.2%となっています。

性別にみると、女性では全体と同様の傾向がみられますが、男性では「何もしなかった」が最も高く、次いで「誰かに打ち明けたり、相談した」となっています。また、「相手に抗議して逆に不利益を受けた」(男性:11.1%、女性:22.0%)、「誰かに打ち明けたり、相談した」(男性:27.8%、女性:39.0%)では、それぞれ 10.9 ポイント、11.2 ポイントの差がみられます。

【全体・性別】



年齢別にみると、[30～39 歳]、[50～59 歳]では「何もなかった」、[60～69 歳]では「誰かに打ち明けたり、相談した」が高くなっています。また、[40～49 歳]では「相手に抗議して逆に不利益を受けた」、「誰かに打ち明けたり、相談した」が同率で高くなっています。

【年齢別】

上段:度数 下段:%	何もなかった	相手に抗議したが改善されなかった	相手に抗議して逆に不利益を受けた	相手に抗議して事態が改善した	誰かに打ち明けたり、相談した	その他	不明・無回答
20～29歳 (n=5)	2 40.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0
30～39歳 (n=5)	3 60.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0
40～49歳 (n=12)	1 8.3	0 0.0	5 41.7	1 8.3	5 41.7	1 8.3	2 16.7
50～59歳 (n=19)	9 47.4	3 15.8	3 15.8	1 5.3	4 21.1	1 5.3	3 15.8
60～69歳 (n=12)	4 33.3	4 33.3	1 8.3	2 16.7	7 58.3	0 0.0	0 0.0
70～79歳 (n=5)	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	2 40.0	2 40.0	0 0.0

※「80 歳以上」：回答者なし

問 21－2－(1) 問 21－2で「誰かに打ち明けたり、相談した」とお答えの方におうかがいします。
誰、またはどのようなところに相談しましたか。(○はあてはまるものすべて)

相談先についてみると、全体では「家族や親せき」「友人・知人」がともに 13 件となっています。

性別にみると、男性では「友人・知人」、「職場の上司や同僚」がともに2件、女性では「家族や親せき」が 12 件、「友人・知人」が 11 件などとなっています。

【全体・性別】

	警察		役場の相談窓口		医療関係者 (医師、 看護師等)		家族や 親せき		友人・知人		職場の 上司や同僚	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
全体 (n=21)	3	14.3	1	4.8	1	4.8	13	61.9	13	61.9	4	19.0
男性 (n=5)	1	20.0	1	20.0	0	0.0	1	20.0	2	40.0	2	40.0
女性 (n=16)	2	12.5	0	0.0	1	6.3	12	75.0	11	68.8	2	12.5

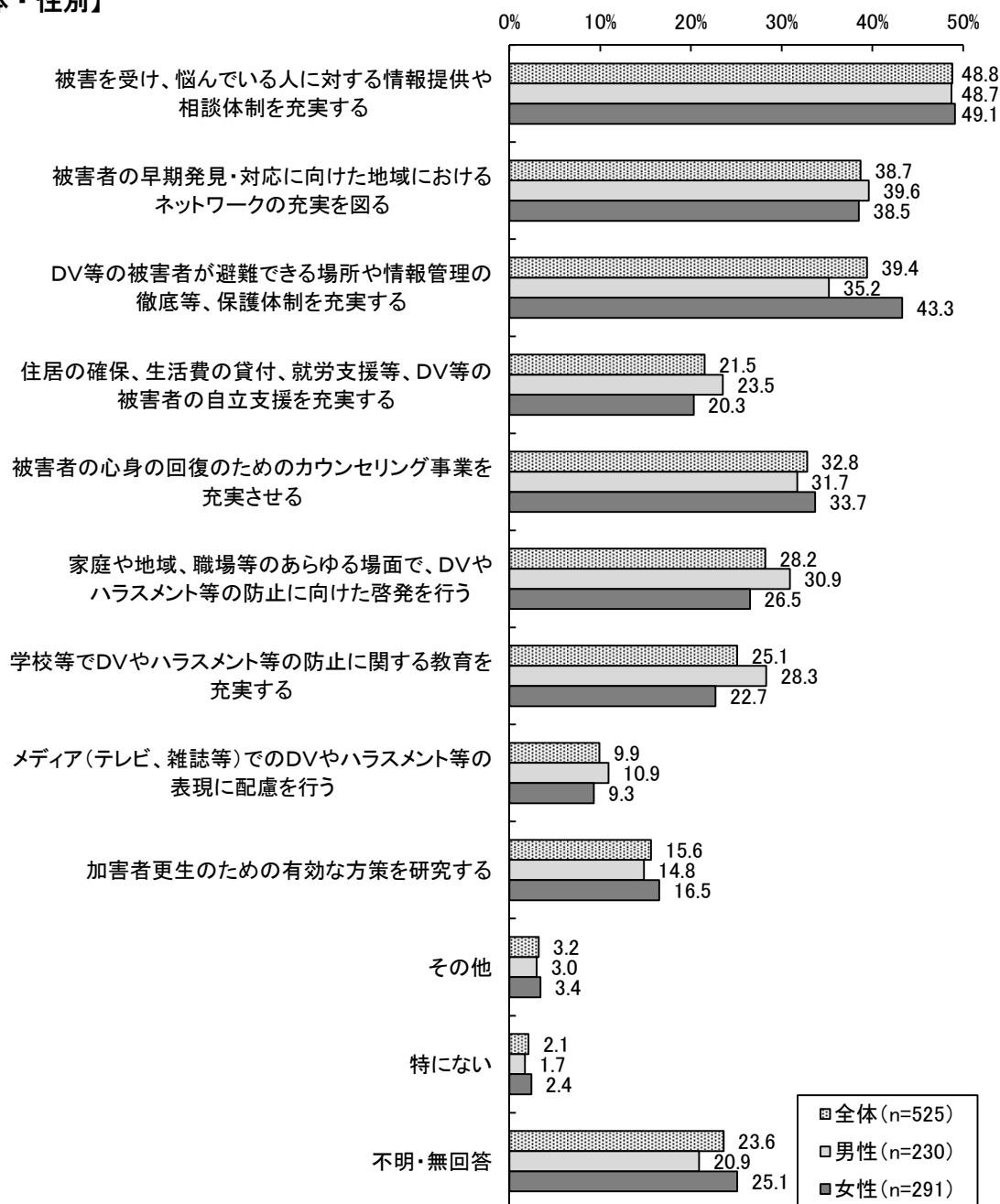
※「配偶者暴力相談支援センター（兵庫県女性家庭センター）等県の機関」、「法務局・地方法務局、人権擁護委員、民生児童委員」、「職場の相談窓口」、「民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士協会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルター等）」、「学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラー等）」、「その他」は回答者なし

問 22 あなたは、問 21 にあげたようなDVやハラスメント等の防止や被害者支援のために、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

DVやハラスメント等の防止や被害者支援に必要なことについてみると、全体では「被害を受け、悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する」が 48.8%と最も高く、次いで「DV等の被害者が避難できる場所や情報管理の徹底等、保護体制を充実する」が 39.4%となっています。

性別にみると、女性では全体と同様の傾向がみられますが、男性では「被害を受け、悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する」に次いで「被害者の早期発見・対応に向けた地域におけるネットワークの充実を図る」となっています。また、男性で「DV等の被害者が避難できる場所や情報管理の徹底等、保護体制を充実する」が 35.2%となっているのに対して、女性は 43.3%と 8.1 ポイントの差がみられます。

【全体・性別】



年齢別にみると、[70～79 歳]以下で「被害を受け、悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する」が最も高くなっています。

【年齢別】

上段:度数 下段:%	被害を受け、悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する	被害者の早期発見・対応に向けた地域におけるネットワークの充実を図る	DV等の被害者が避難できる場所や情報管理の徹底等、保護体制を充実する	住居の確保、生活費の貸付、就労支援等、DV等の被害者の自立支援を充実する	被害者の心身の回復のためのカウンセリング事業を充実させる	家庭や地域、職場等のあらゆる場面で、DVやハラスメント等の防止に向けた啓発を行う
20～29歳 (n=41)	20 48.8	15 36.6	18 43.9	7 17.1	12 29.3	9 22.0
30～39歳 (n=37)	22 59.5	15 40.5	17 45.9	9 24.3	11 29.7	11 29.7
40～49歳 (n=79)	46 58.2	37 46.8	41 51.9	24 30.4	34 43.0	20 25.3
50～59歳 (n=99)	56 56.6	48 48.5	50 50.5	29 29.3	41 41.4	26 26.3
60～69歳 (n=143)	71 49.7	57 39.9	59 41.3	29 20.3	47 32.9	49 34.3
70～79歳 (n=111)	37 33.3	27 24.3	20 18.0	13 11.7	25 22.5	29 26.1
80歳以上 (n=11)	3 27.3	3 27.3	2 18.2	1 9.1	1 9.1	3 27.3

上段:度数 下段:%	学校等でDVやハラスメント等の防止に関する教育を充実する	メディア(テレビ、雑誌等)でのDVやハラスメント等の表現に配慮を行う	加害者更生のための有効な方策を研究する	その他	特にない	不明・無回答
20～29歳 (n=41)	9 22.0	4 9.8	9 22.0	3 7.3	0 0.0	7 17.1
30～39歳 (n=37)	12 32.4	6 16.2	8 21.6	2 5.4	1 2.7	6 16.2
40～49歳 (n=79)	17 21.5	5 6.3	16 20.3	5 6.3	1 1.3	11 13.9
50～59歳 (n=99)	29 29.3	14 14.1	15 15.2	4 4.0	3 3.0	14 14.1
60～69歳 (n=143)	34 23.8	15 10.5	22 15.4	3 2.1	2 1.4	27 18.9
70～79歳 (n=111)	28 25.2	7 6.3	9 8.1	0 0.0	2 1.8	52 46.8
80歳以上 (n=11)	2 18.2	0 0.0	2 18.2	0 0.0	2 18.2	5 45.5

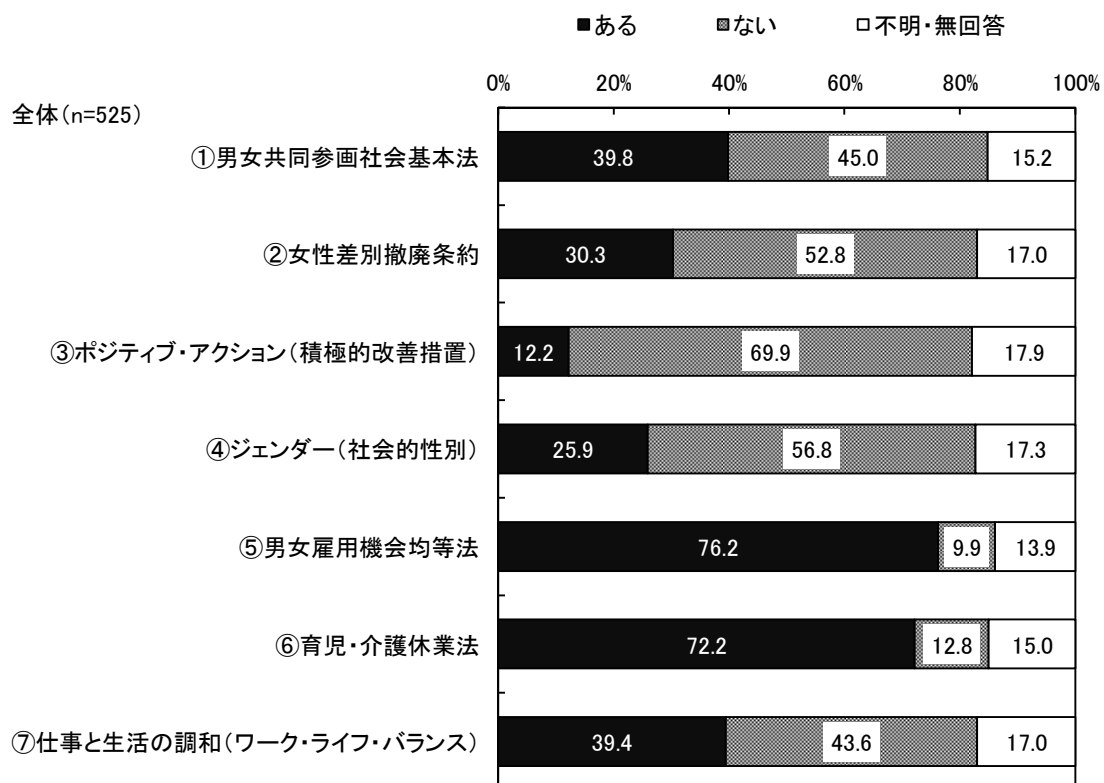
6 男女共同参画に関する町の施策についておたずねします。

問 23 次のような言葉や名称について、あなたが見たり聞いたりしたことはありますか。

(○はそれぞれ1つ)

①から⑦までの言葉や名称の認知度についてみると、全体では[⑤男女雇用機会均等法]、[⑥育児・介護休業法]で見聞きしたことが「ある」が7割となっています。一方、[②女性差別撤廃条約]、[③ポジティブ・アクション(積極的改善措置)]、[④ジェンダー(社会的性別)]で、見聞きしたことが「ない」が5割以上となっています。

【全体】



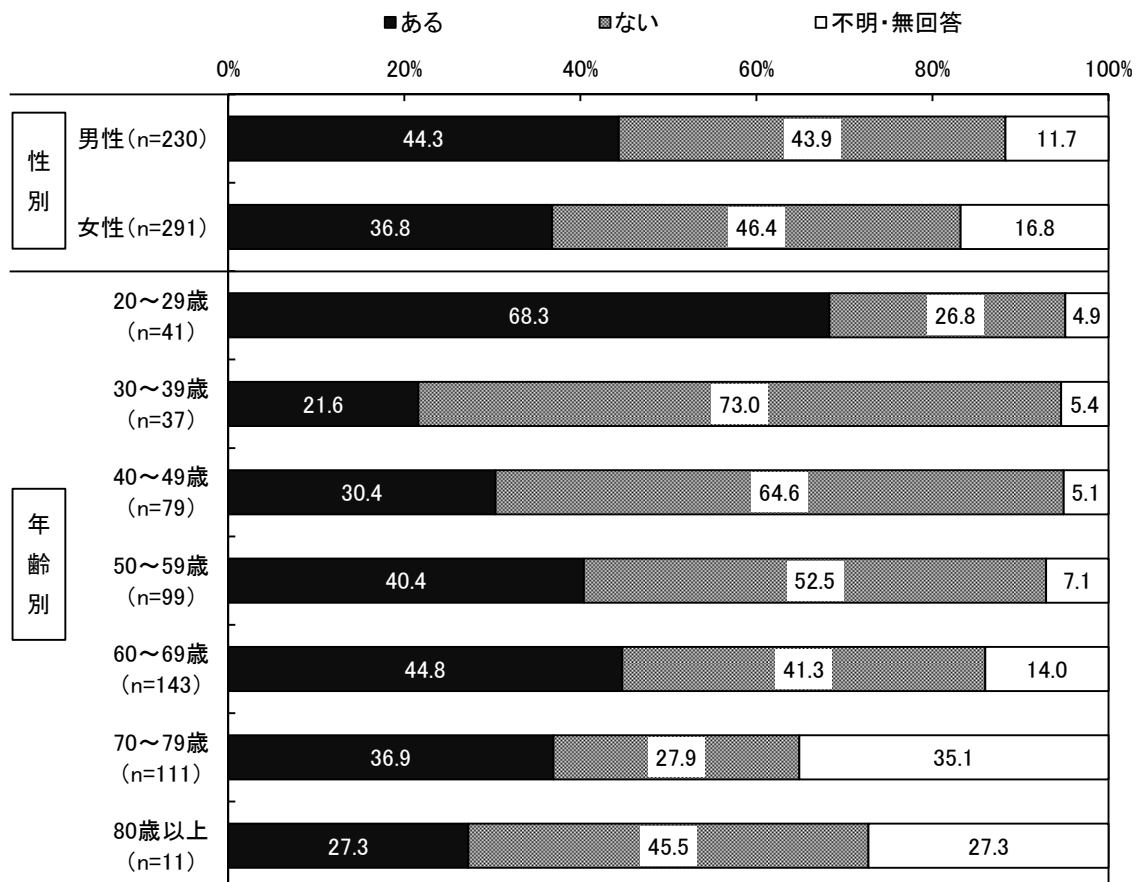
①男女共同参画社会基本法

性別にみると、男性では見聞きしたことが「ある」が 44.3%となっているのに対して、女性が 36.8%と、7.5 ポイントの差がみられます。

年齢別にみると、[30～39 歳]から[60～69 歳]では見聞きしたことが「ある」が、年齢が上がるにつれて割合は高くなる傾向がみられます。

【性別・年齢別】

①男女共同参画社会基本法



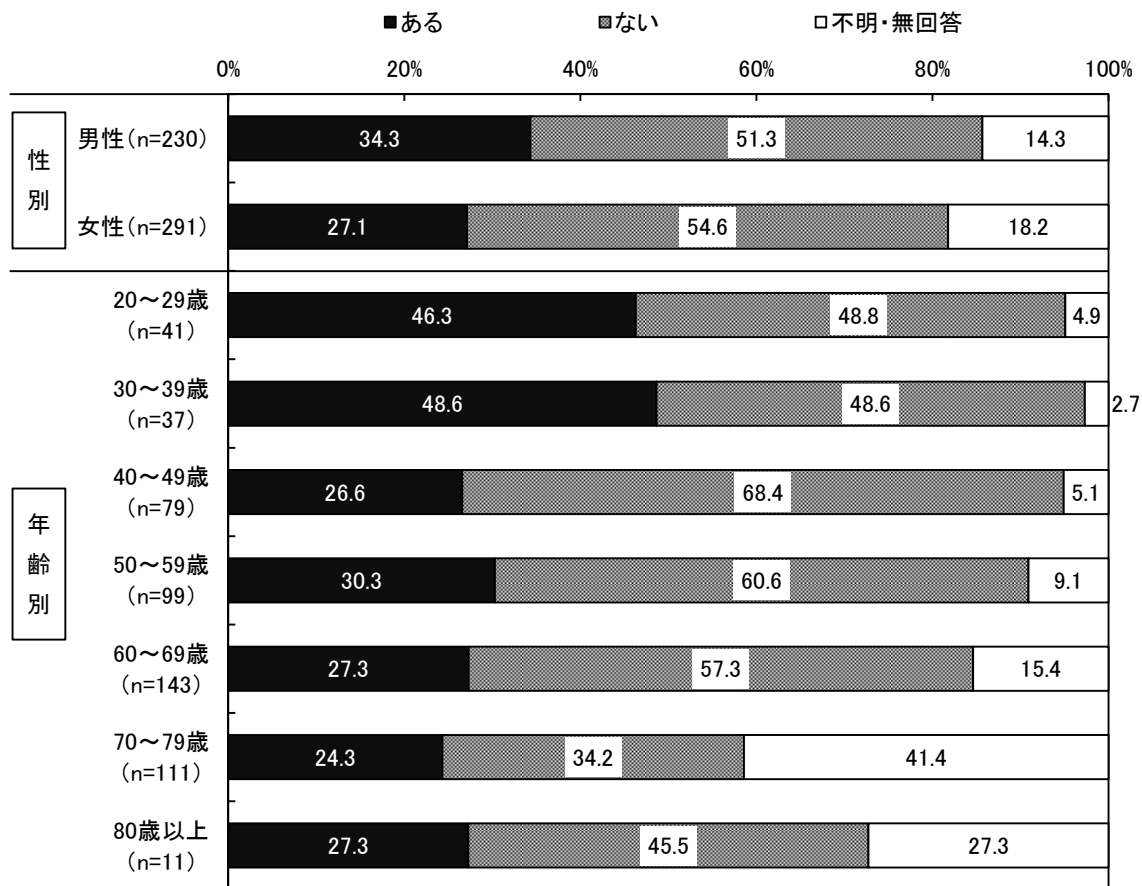
②女性差別撤廃条約

性別にみると、男性では見聞きしたことが「ある」が 34.3%となっているのに対して、女性が 27.1%と、7.2 ポイントの差がみられます。

年齢別にみると、[20～29 歳]、[30～39 歳]では見聞きしたことが「ある」が4割半ば～約5割と、ほかの年齢に比べて高くなっています。

【性別・年齢別】

②女性差別撤廃条約



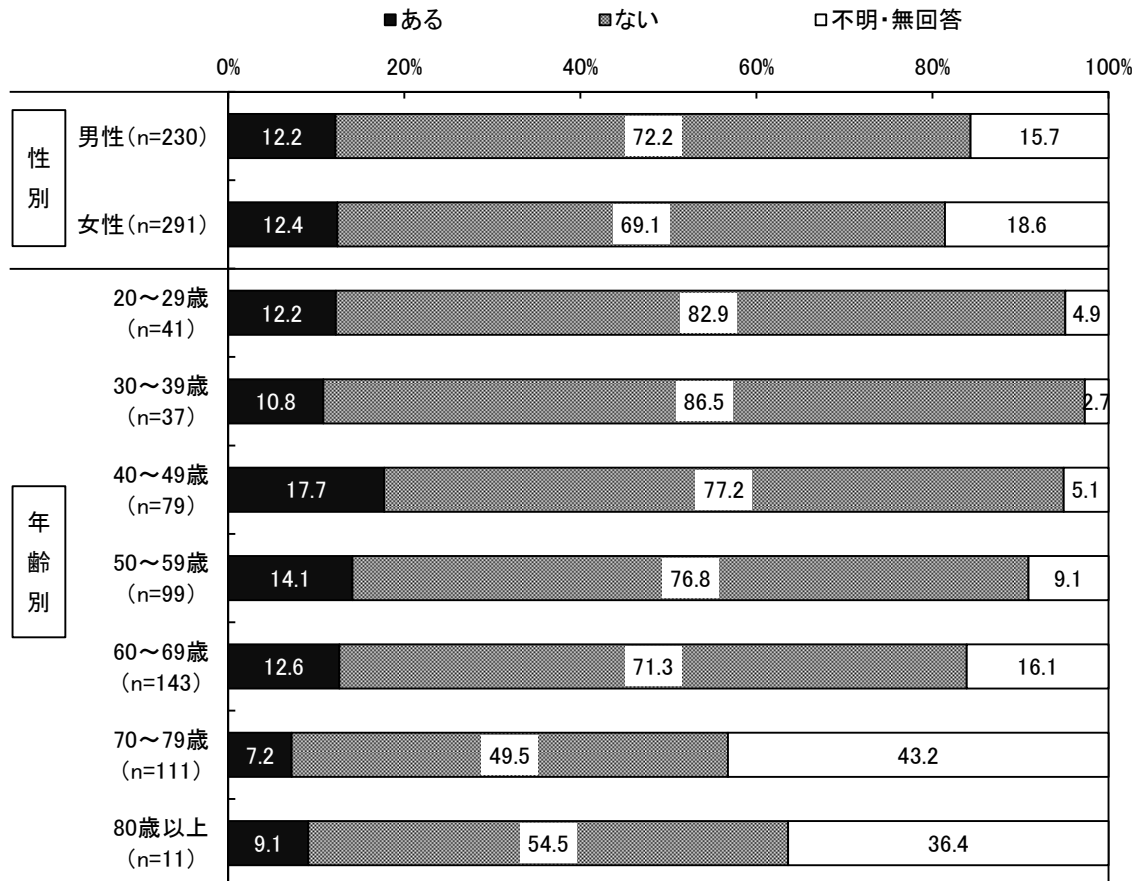
③ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

性別にみると、男女ともに見聞きしたことが「ない」が、7割前後となっています。

年齢別にみると、[60～69 歳]以下で、見聞きしたことが「ある」が、1割～約2割となっています。

【性別・年齢別】

③ポジティブ・アクション（積極的改善措置）



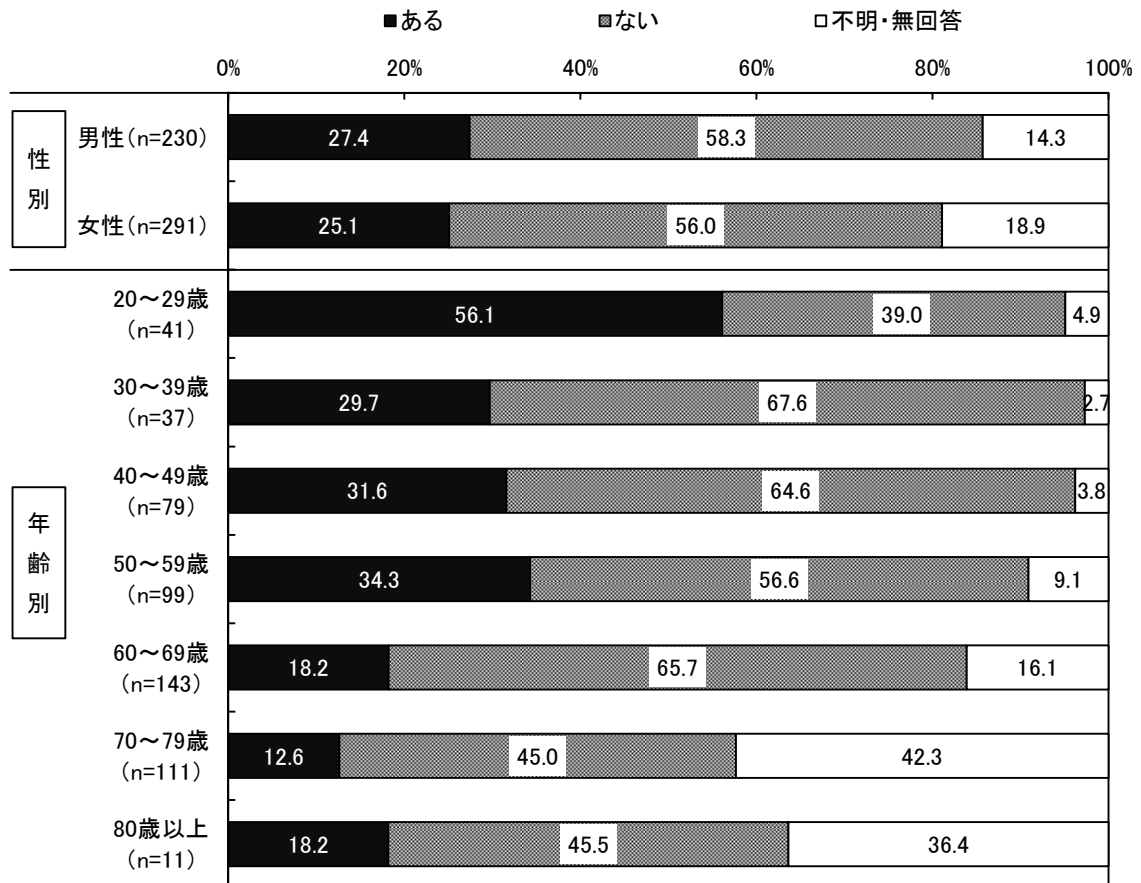
④ジェンダー（社会的性別）

性別にみると、男女ともに見聞きしたことが「ない」が、約6割となっています。

年齢別にみると、[20～29 歳]で、見聞きしたことが「ある」が5割半ばと、ほかの年齢に比べて高くなっています。

【性別・年齢別】

④ジェンダー（社会的性別）



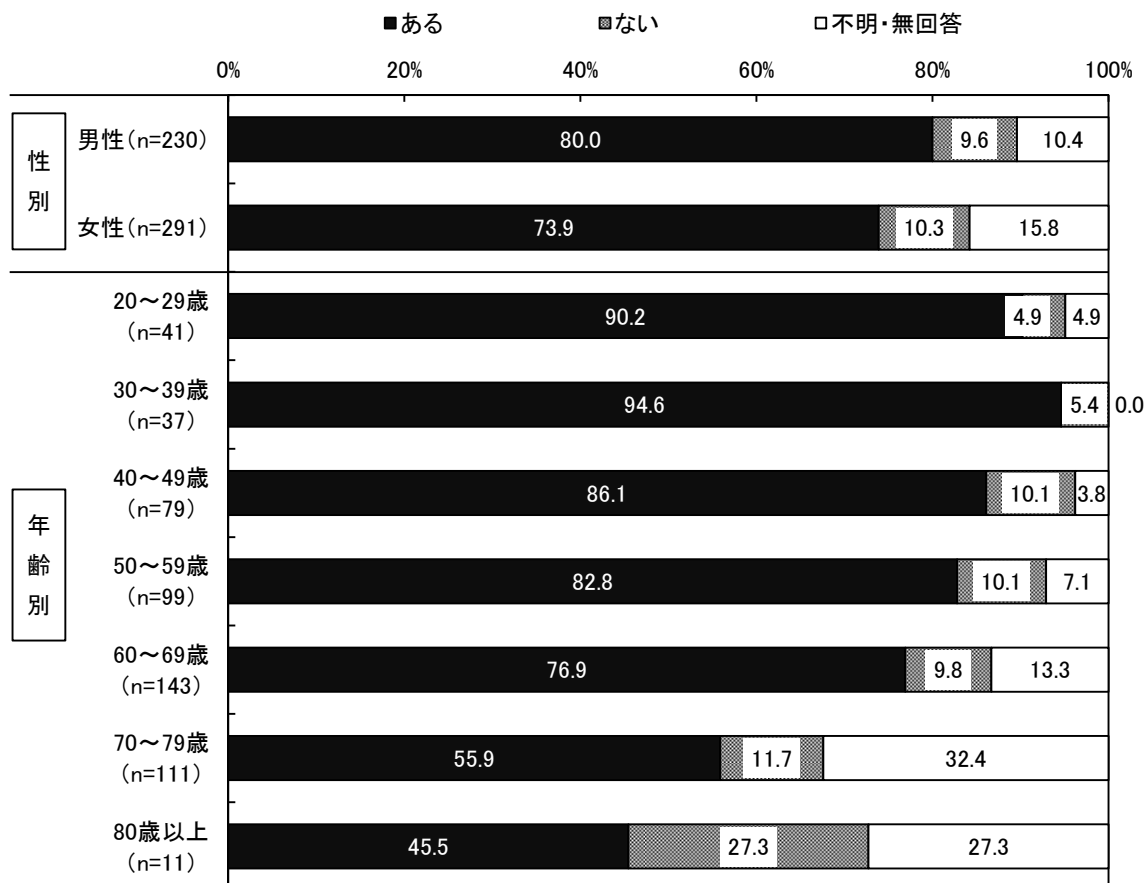
⑤男女雇用機会均等法

性別にみると、男性では見聞きしたことが「ある」が 80.0%となっているのに対して、女性が 73.9%と、6.1 ポイントの差がみられます。

年齢別にみると、[70～79 歳]以下で、見聞きしたことが「ある」が5割以上となっています。また、多少の増減はあるものの、年齢が上がるにつれて割合は低くなる傾向がみられます。

【性別・年齢別】

⑤男女雇用機会均等法



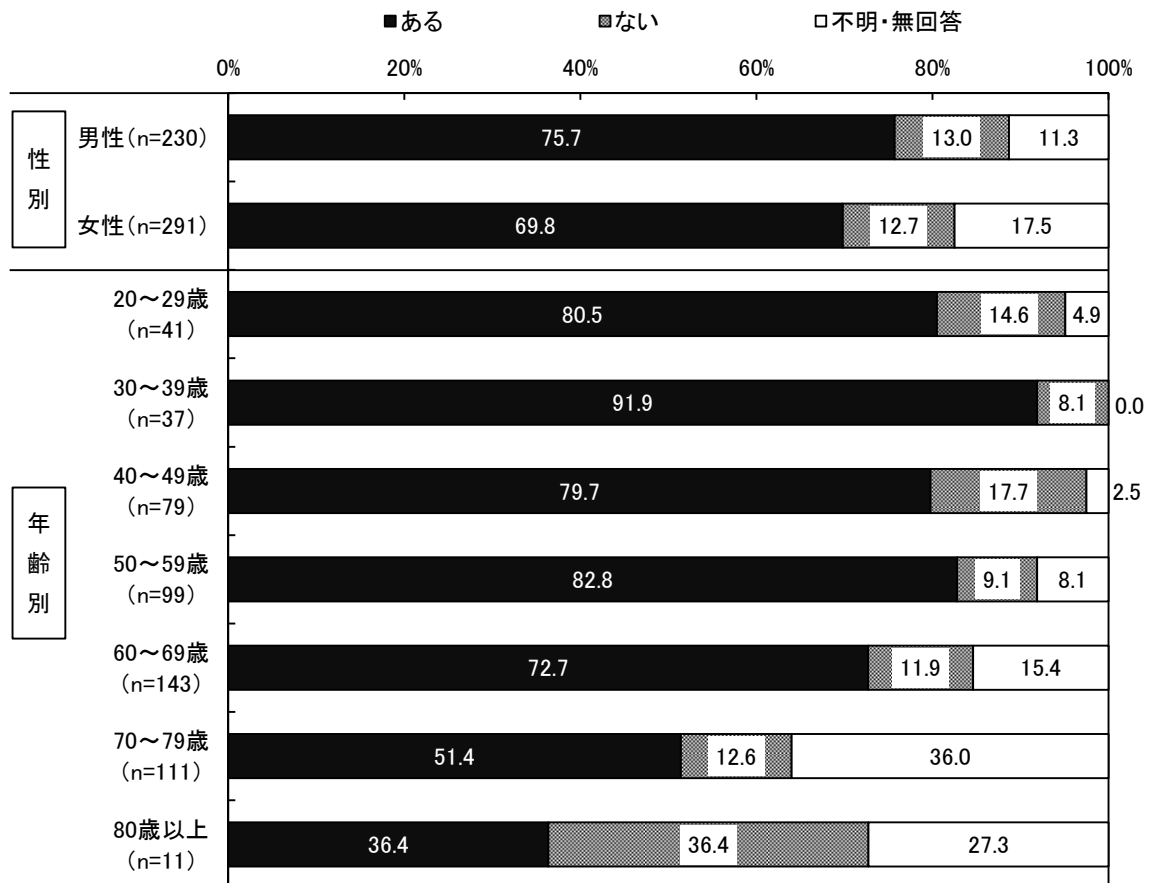
⑥育児・介護休業法

性別にみると、男性では見聞きしたことが「ある」が 75.7%となっているのに対して、女性が 69.8%と、5.9 ポイントの差がみられます。

年齢別にみると、[70～79 歳]以下で、見聞きしたことが「ある」が5割以上となっています。また、多少の増減はあるものの、年齢が上がるにつれて割合は低くなる傾向がみられます。

【性別・年齢別】

⑥育児・介護休業法



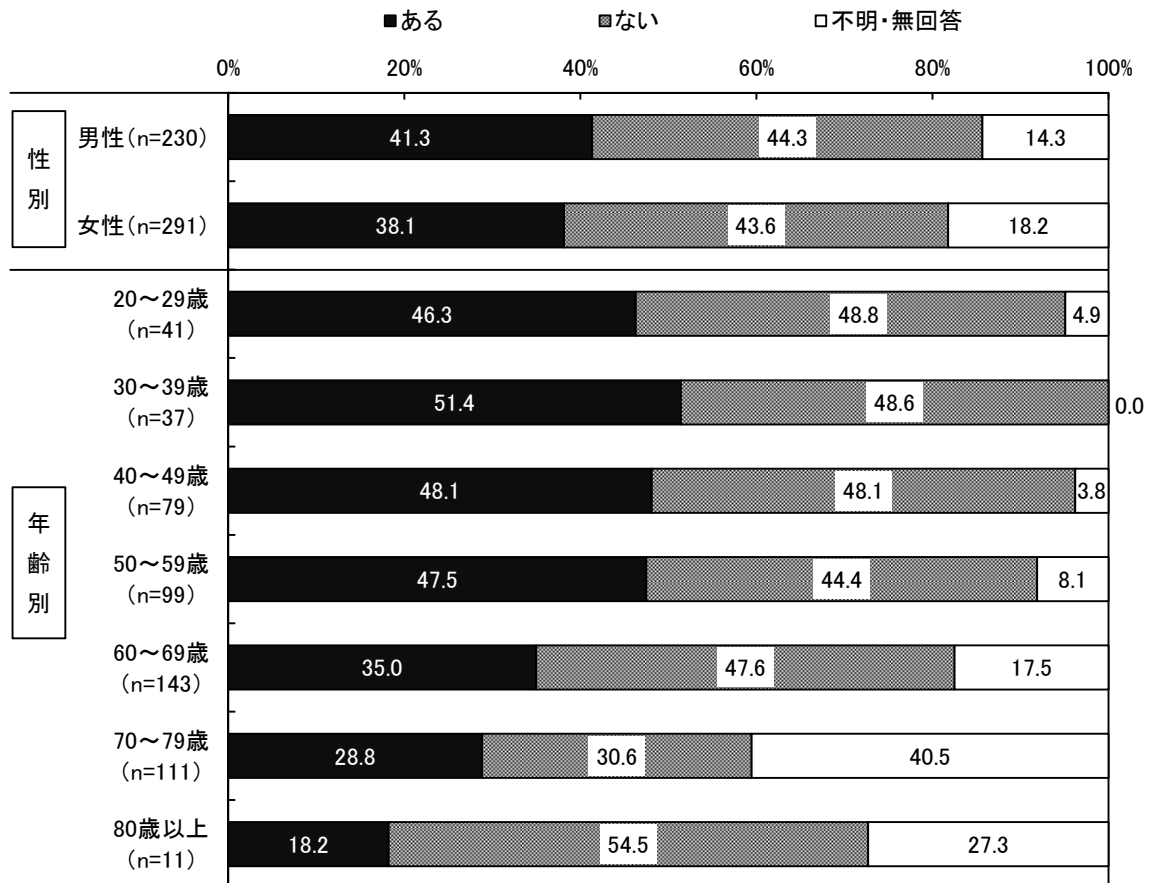
⑦仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

性別にみると、男女ともに見聞きしたことが「ない」が4割となっており、「ある」を若干上回っています。

年齢別にみると、見聞きしたことが「ある」が、多少の増減はあるものの、年齢が上がるにつれて割合は低くなる傾向がみられます。

【性別・年齢別】

⑦仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）



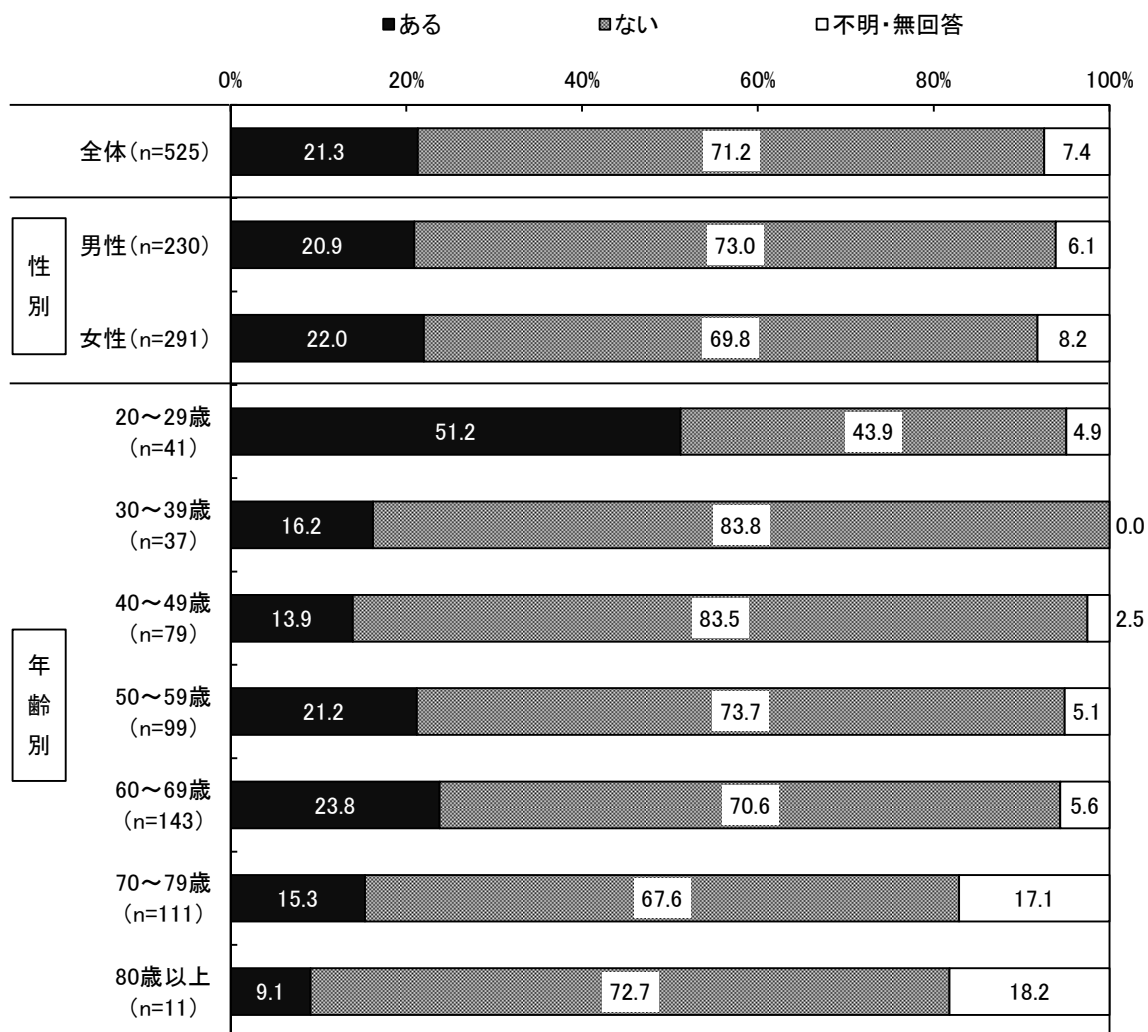
問 24 あなたは、男女共同参画がどういうものなのかということを、学んだり、教えられたりしたことがありますか。(○は1つ)

男女共同参画の学習経験についてみると、全体では「ない」が71.2%と、半数を超えています。

性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向がみられます。

年齢別にみると、[20～29 歳]では「ある」が5割を超えていますが、[30～39 歳]以上では「ない」が6割半ば～8割となっています。

【全体・性別・年齢別】



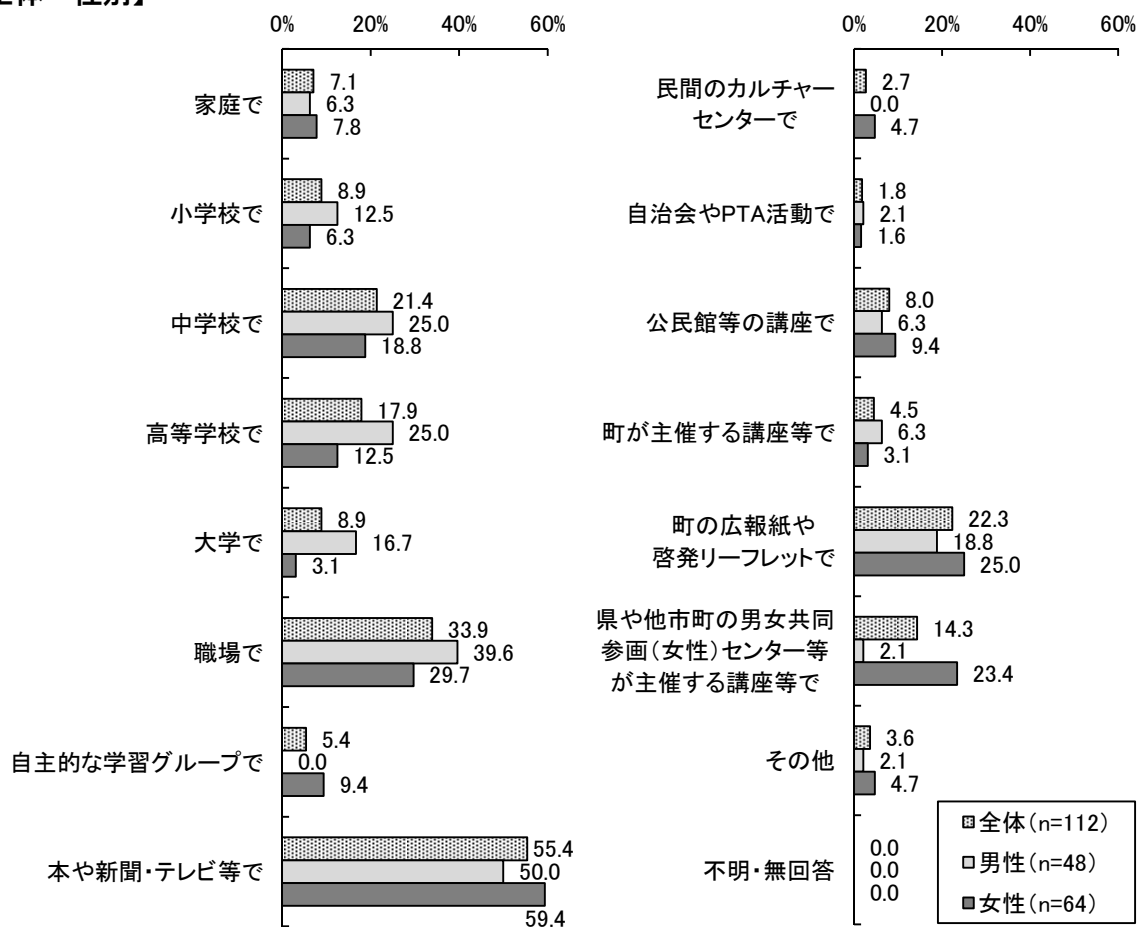
問 24－１ 問 24 で「ある」とお答えの方におうかがいします。

それはどこで学んだり、教えられましたか。(〇はあてはまるものすべて)

男女共同参画を学習した場所についてみると、全体では「本や新聞・テレビ等で」が 55.4%と最も高く、次いで「職場で」が 33.9%となっています。

性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向がみられますが、「本や新聞・テレビ等で」では女性(59.4%)が男性(50.0%)を 9.4 ポイント上回っているのに対して、「職場で」では男性(39.6%)が女性(29.7%)を 9.9 ポイント上回っています。

【全体・性別】



年齢別にみると、[20～29 歳]、[30～39 歳]では「中学校で」、[40～49 歳]、[50～59 歳]では「職場で」、[60～69 歳]、[70～79 歳]では「本や新聞・テレビ等で」が最も高くなっています。

【年齢別】

上段:度数 下段:%	家庭で	小学校で	中学校で	高等学校で	大学で	職場で	自主的な 学習グループで	本や新聞・ テレビ等で
20～29歳 (n=21)	1 4.8	5 23.8	15 71.4	12 57.1	8 38.1	2 9.5	0 0.0	6 28.6
30～39歳 (n=6)	0 0.0	2 33.3	4 66.7	3 50.0	1 16.7	3 50.0	0 0.0	1 16.7
40～49歳 (n=11)	0 0.0	0 0.0	1 9.1	2 18.2	0 0.0	8 72.7	1 9.1	2 18.2
50～59歳 (n=21)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12 57.1	2 9.5	10 47.6
60～69歳 (n=34)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.9	0 0.0	9 26.5	2 5.9	26 76.5
70～79歳 (n=17)	6 35.3	2 11.8	3 17.6	1 5.9	1 5.9	4 23.5	1 5.9	15 88.2
80歳以上 (n=1)	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

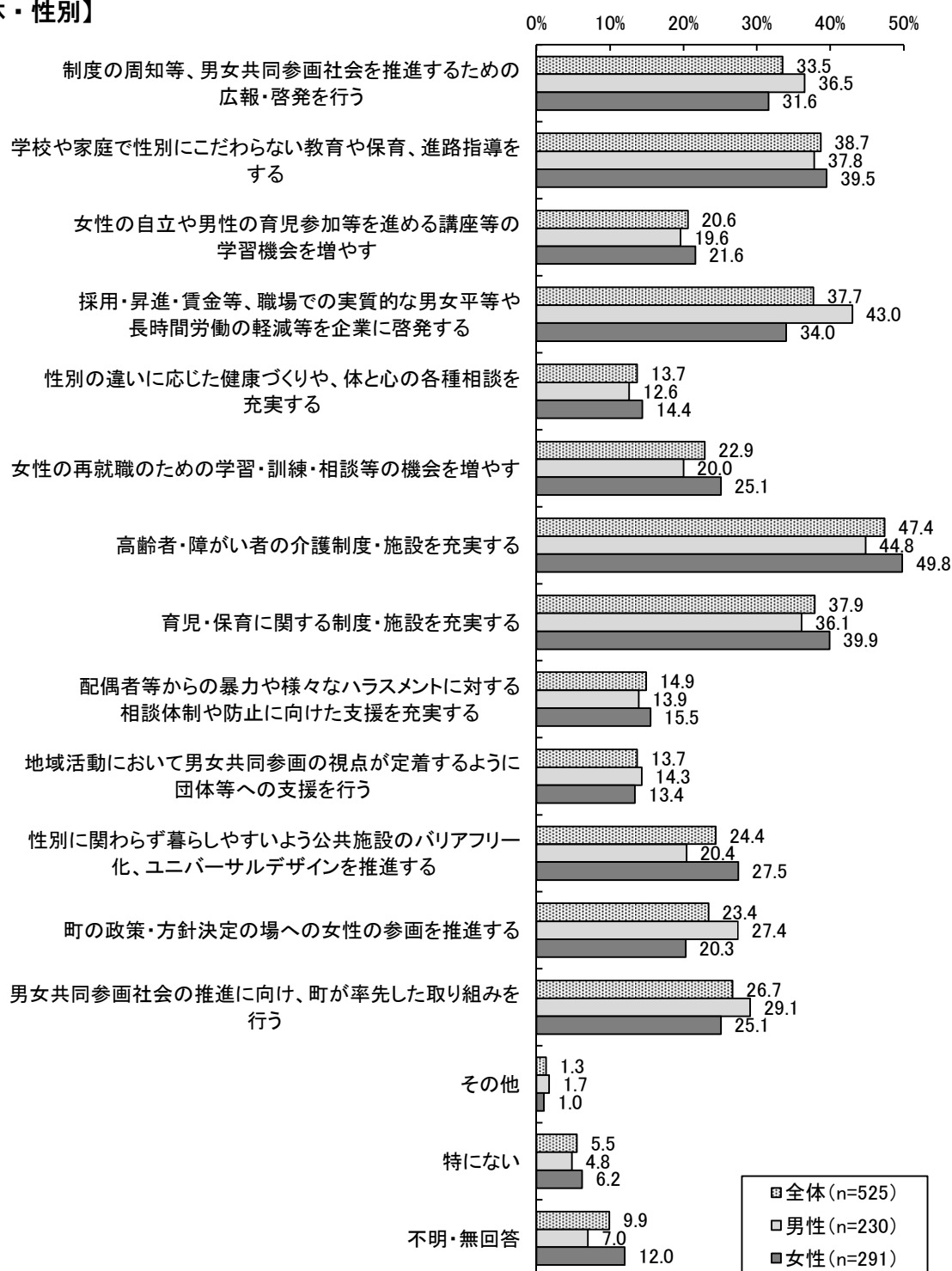
上段:度数 下段:%	民間のカルチャーセンターで	自治会やPTA活動で	公民館等の講座で	町が主催する講座等で	町の広報紙や啓発リーフレットで	県や他市町の男女共同参画(女性)センター等が主催する講座等で	その他	不明・無回答
20～29歳 (n=21)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.8	0 0.0	0 0.0
30～39歳 (n=6)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
40～49歳 (n=11)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 18.2	2 18.2	0 0.0	0 0.0
50～59歳 (n=21)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.8	3 14.3	2 9.5	1 4.8	0 0.0
60～69歳 (n=34)	2 5.9	2 5.9	5 14.7	3 8.8	16 47.1	8 23.5	3 8.8	0 0.0
70～79歳 (n=17)	1 5.9	0 0.0	4 23.5	1 5.9	3 17.6	3 17.6	0 0.0	0 0.0
80歳以上 (n=1)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

問 25 男女共同参画社会の実現に向けて、今後町が特に力を入れるべきだと思うものをお答えください。(〇はあてはまるものすべて)

男女共同参画社会の実現に向け、特に力を入れるべきことについてみると、全体では「高齢者・障がい者の介護制度・施設を充実する」が47.4%と最も高く、次いで「学校や家庭で性別にこだわらない教育や保育、進路指導をする」が38.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「高齢者・障がい者の介護制度・施設を充実する」が最も高くなっていますが、次いで男性では「採用・昇進・賃金等、職場での実質的な男女平等や長時間労働の軽減等を企業に啓発する」、女性では「育児・保育に関する制度・施設を充実する」となっています。

【全体・性別】



年齢別にみると、[30～39 歳]では「採用・昇進・賃金等、職場での実質的な男女平等や長時間労働の軽減等を企業に啓発する」、[40～49 歳]、[60～69 歳]以上では「高齢者・障がい者の介護制度・施設を充実する」、[50～59 歳]では「育児・保育に関する制度・施設を充実する」が最も高くなっています。

【年齢別】

上段:度数 下段:%	制度の周知等、男女共同参画社会を推進するための広報・啓発を行う	学校や家庭で性別にこだわらない教育や保育、進路指導をする	女性の自立や男性の育児参加等を進める講座等の学習機会を増やす	採用・昇進・賃金等、職場での実質的な男女平等や長時間労働の軽減等を企業に啓発する	性別の違いに応じた健康づくりや、体と心の各種相談を充実する	女性の再就職のための学習・訓練・相談等の機会を増やす	高齢者・障がい者の介護制度・施設を充実する	育児・保育に関する制度・施設を充実する
20～29歳 (n=41)	8 19.5	16 39.0	5 12.2	20 48.8	5 12.2	11 26.8	16 39.0	20 48.8
30～39歳 (n=37)	11 29.7	18 48.6	9 24.3	22 59.5	10 27.0	13 35.1	16 43.2	19 51.4
40～49歳 (n=79)	24 30.4	37 46.8	20 25.3	31 39.2	8 10.1	24 30.4	40 50.6	35 44.3
50～59歳 (n=99)	40 40.4	42 42.4	18 18.2	34 34.3	14 14.1	23 23.2	48 48.5	49 49.5
60～69歳 (n=143)	53 37.1	57 39.9	34 23.8	57 39.9	21 14.7	23 16.1	76 53.1	49 34.3
70～79歳 (n=111)	36 32.4	30 27.0	21 18.9	31 27.9	11 9.9	21 18.9	45 40.5	25 22.5
80歳以上 (n=11)	4 36.4	2 18.2	1 9.1	2 18.2	3 27.3	3 27.3	7 63.6	2 18.2
上段:度数 下段:%	配偶者等からの暴力や様々なハラスメントに対する相談体制や防止に向けた支援を充実する	地域活動において男女共同参画の視点が定着するように団体等への支援を行う	性別に関わらず暮らしやすいよう公共施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザインを推進する	町の政策・方針決定の場への女性の参画を推進する	男女共同参画社会の推進に向け、町が率先した取り組みを行う	その他	特にない	不明・無回答
20～29歳 (n=41)	6 14.6	3 7.3	10 24.4	6 14.6	9 22.0	0 0.0	2 4.9	3 7.3
30～39歳 (n=37)	10 27.0	4 10.8	9 24.3	3 8.1	7 18.9	1 2.7	2 5.4	0 0.0
40～49歳 (n=79)	16 20.3	5 6.3	21 26.6	18 22.8	16 20.3	1 1.3	4 5.1	1 1.3
50～59歳 (n=99)	20 20.2	11 11.1	24 24.2	21 21.2	21 21.2	4 4.0	5 5.1	9 9.1
60～69歳 (n=143)	19 13.3	29 20.3	31 21.7	43 30.1	49 34.3	0 0.0	5 3.5	16 11.2
70～79歳 (n=111)	4 3.6	18 16.2	26 23.4	25 22.5	35 31.5	1 0.9	10 9.0	20 18.0
80歳以上 (n=11)	2 18.2	2 18.2	5 45.5	5 45.5	3 27.3	0 0.0	1 9.1	2 18.2

未婚既婚別にみると、[既婚(事実婚を含む)]、[離別・死別した]では「高齢者・障がい者の介護制度・施設を充実する」が最も高くなっています。

子どもの有無別にみると、[小学生]、[中学生]のいる家庭では「学校や家庭で性別にこだわらない教育や保育、進路指導をする」、[いない]家庭では「高齢者・障がい者の介護制度・施設を充実する」が最も高くなっています。

【未婚既婚別・子どもの有無別】

	上段:度数 下段:%	制度の周知等、男女共同参画社会を推進するための広報・啓発を行う	学校や家庭で性別にこだわらない教育や保育、進路指導をする	女性の自立や男性の育児参加等を進める講座等の学習機会を増やす	採用・昇進・賃金等、職場での実質的な男女平等や長時間労働の軽減等を企業に啓発する	性別の違いに応じた健康づくりや、体と心の各種相談を充実する	女性の再就職のための学習・訓練・相談等の機会を増やす	高齢者・障がい者の介護制度・施設を充実する	育児・保育に関する制度・施設を充実する
[未婚既婚別]	未婚(n=70)	16 22.9	27 38.6	14 20.0	35 50.0	10 14.3	21 30.0	32 45.7	35 50.0
	既婚(事実婚を含む)(n=411)	146 35.5	160 38.9	90 21.9	155 37.7	59 14.4	89 21.7	198 48.2	153 37.2
	離別・死別した(n=42)	14 33.3	16 38.1	4 9.5	8 19.0	3 7.1	10 23.8	19 45.2	11 26.2
[子どもの有無別]	乳幼児(小学校入学前)(n=49)	16 32.7	17 34.7	8 16.3	21 42.9	7 14.3	12 24.5	18 36.7	21 42.9
	小学生(n=44)	18 40.9	20 45.5	8 18.2	18 40.9	6 13.6	14 31.8	22 50.0	16 36.4
	中学生(n=26)	8 30.8	12 46.2	5 19.2	7 26.9	1 3.8	2 7.7	11 42.3	11 42.3
	いない(n=246)	86 35.0	103 41.9	52 21.1	101 41.1	35 14.2	63 25.6	123 50.0	101 41.1
	上段:度数 下段:%	配偶者等からの暴力や様々なハラスメントに対する相談体制や防止に向けた支援を充実する	地域活動において男女共同参画の視点が定着するように団体等への支援を行う	性別に関わらず暮らしやすいよう公共施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザインを推進する	町の政策・方針決定の場への女性の参画を推進する	男女共同参画社会の推進に向け、町が率先した取り組みを行う	その他	特になし	不明・無回答
[未婚既婚別]	未婚(n=70)	11 15.7	7 10.0	19 27.1	15 21.4	15 21.4	1 1.4	2 2.9	4 5.7
	既婚(事実婚を含む)(n=411)	64 15.6	59 14.4	100 24.3	96 23.4	115 28.0	6 1.5	22 5.4	37 9.0
	離別・死別した(n=42)	3 7.1	6 14.3	9 21.4	12 28.6	10 23.8	0 0.0	5 11.9	9 21.4
[子どもの有無別]	乳幼児(小学校入学前)(n=49)	11 22.4	3 6.1	10 20.4	9 18.4	11 22.4	0 0.0	1 2.0	4 8.2
	小学生(n=44)	8 18.2	5 11.4	9 20.5	11 25.0	14 31.8	1 2.3	4 9.1	3 6.8
	中学生(n=26)	1 3.8	2 7.7	4 15.4	5 19.2	7 26.9	1 3.8	1 3.8	2 7.7
	いない(n=246)	46 18.7	35 14.2	65 26.4	56 22.8	63 25.6	4 1.6	12 4.9	20 8.1

問 26 男女共同参画に関することで何かご意見がありましたら、ご自由にお書きください。